

法令全書

省令

○文部省令第一號

明治三十年文部省令第二十四號女子高等師範學校規程第九條第一項及第十一條第二項ヲ改正シ第十二條ヲ追加スルコト左ノ如シ

明治三十一年一月四日

文部大臣 濱尾新

第九條 女子高等師範學校ノ卒業生ニシテ尙深ク本校所設ノ科目ヲ研究セントスル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ師範學校女子部高等女學校若クハ之ニ均キ程度ノ各種學校ノ教員タルントスルノ目的ヲ以テ教育學教授法等ヲ研究セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ設ク

第十一條 第二項「教育學」ノ上ニ「倫理」ト二字ヲ加フ

第十二條 二箇年以上ノ課程ヲ卒業シタル本科生ニハ學業ノ成績ニ依リ所設ノ科目中共數ヲ限リ修メシムルコトヲ得

〔參照〕

文部省令第二十四號女子高等師範學校規程(明治三十年十月十二日)抄錄

第九條第一項 相當ノ學力ヲ有シ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルントスルノ目的ヲ以テ教育學及教授法等ヲ專修セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ設クルコトヲ得

第十一條第二項 撰科生ハ何等ノ科目ヲ撰フニ拘ラス教育學ヲ兼修スルコトヲ要ス

○外務省令第一號

明治二十七年外務省令第七號外交官及領事官試驗規則施行細則第四條第二項ヲ刪除ス  
明治三十一年一月七日  
外務大臣 男爵 西德二郎

明治三十一年一月 省令 文部省第一號 外務省第一號

テ>カ-27

C8  
4



〔參照〕

外務省令第七號 外交官及領事官試驗規則(明治二十七年六月二十二日)抄錄  
第四條第二項  
現ニ受檢者官廳へ奉職ノ者ハ所屬長官ノ認可證書ヲ要ス

○司法省令第一號

長崎地方裁判所管内嚴原區裁判所和板出張所ヲ下縣郡仁位村ニ移シ仁位出張所ト改稱ス  
但當分ノ内元和板出張所應舎ニ於テ其事務ヲ取扱フ  
明治三十一年一月十日  
司法大臣清浦奎吾

○內務省令第一號

私設鐵道條例第三條ニ列記スル線路圖面工事方法書並ニ工費豫算書ニ關スル細則ハ明治三十年  
月十二  
逓信省令第三十五號ニ準據スヘシ  
明治三十一年一月十二日  
內務大臣伯爵樺山資紀

○逓信省令第一號

明治二十年六月逓信省令第十八號外國新聞電報規則第二條料金表中本邦英國間及本邦佛國間ノ下  
圓十五錢六厘トアルヲ各一圓十五錢八厘ト改正ス  
明治三十一年一月二十一日  
逓信大臣文學博士男爵末松謙澄

○陸軍省令第一號

明治二十三年陸軍省令第十號陸軍給與令細則旅費ノ部中左ノ通追加ス  
明治三十一年一月二十二日  
陸軍大臣子爵桂 太郎  
第二十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十五條 充員召集ニ應スル者及國民兵召集ニ應スル者集合地ヨリ編入部隊所在地又ハ編成  
地ニ至ル旅費ハ本令第七十五條ノ定額内ヲ以テ一切ノ費用ヲ實費支辨スヘシ

○文部省令第二號

明治二十四年文部省令第二十號小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則第三條第二項ヲ  
削除ス  
明治三十一年一月二十八日  
文部大臣侯爵西園寺公望

〔參照〕

文部省令第二十號小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則(明治二十四年十一月十七日)抄錄  
第三條 府縣知事ニ於テ市町村立小學校ニ正教員ヲ任用スヘキ場合ニ當リ適當ノ正教員タルヘキ者ヲ得ルコト能ハスト  
ムルトキハ期限ヲ定メテ准教員ヲ任用スルコトヲ得  
前項ニ依リ一時教授スル准教員ハ其年齡男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上ナルコトヲ要ス

○農商務省令第一號

一大林區署、鑛山監督署、農事試驗場、生絲検査所、蠶業講習所、製鐵所、水産講習所ハ其司掌事務ニ係  
ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス  
一明治二十五年農商務省令第一號、第八號及明治二十九年農商務省令第二號ハ廢止ス  
明治三十一年一月二十八日  
農商務大臣男爵伊東巳代治

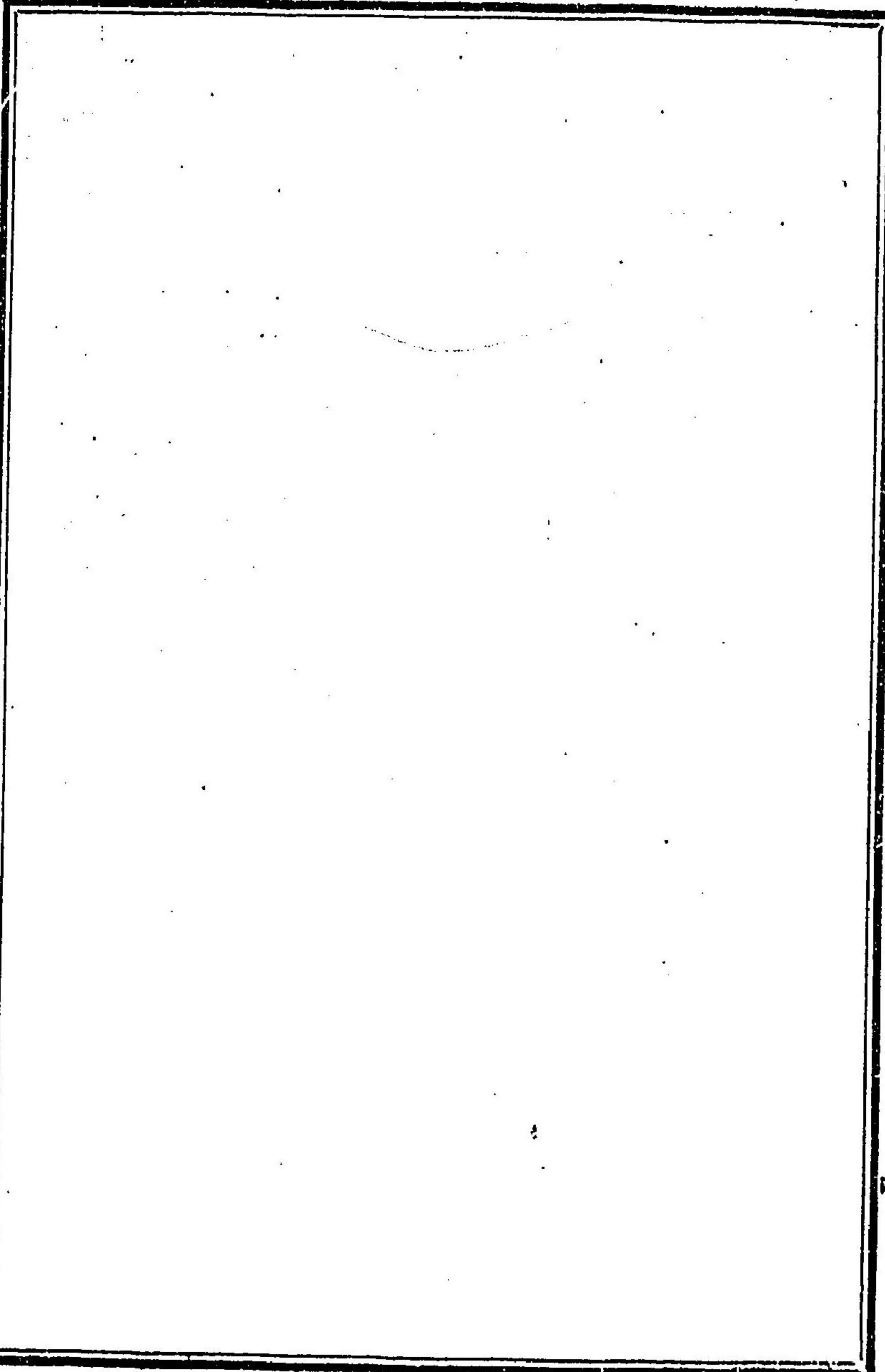
〔參照〕

明治二十五年二月農商務省令第一號、一大林區署其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ就キ國ヲ代表スルノ件、同年五月農商務省令  
第八號、鑛山監督署同上代表ノ件、同二十九年三月三農商務省令第二號ハ生絲検査所同上代表ノ件ナリ

○逓信省令第二號

來三月一日ヨリ萬國郵便聯合四錢端書及同八錢往復端書ヲ發行ス其ノ見本ハ郵便局郵便受取所ニ  
備置カシム照鑑ヲ要スルモノハ就テ觀ルヘシ  
明治三十一年一月二十九日  
逓信大臣文學博士男爵末松謙澄





○逓信省令第三號

明治三十一年十一月 逓信省令第二十三號郵便貯金條例施行細則第四十條左ノ通改正ス

明治三十一年二月二日

逓信大臣文學博士男爵末松謙澄

第四十條 貯金ヲ以テ購入スヘキ公債證書ハ整理公債證書軍事公債證書若ハ大日本帝國政府五分

利公債證書トシ總テ無記名トス

公債證書ノ購入ヲ請求スル者ハ其種類ヲ指定スヘシ若シ其指定ナキトキハ郵便爲替貯金管理所

ニ於テ之ヲ撰定スヘシ

〔參照〕

逓信省令第二十三號郵便貯金條例施行細則(明治三十一年十一月二十六日)抄録

第四十條 貯金ヲ以テ購入スヘキ公債證書ハ整理公債證書若クハ軍事公債證書トシ總テ無記名トス

○文部省令第三號

文部省ニ於テ施行スル學校及圖書館ノ建築又ハ修繕工事ノ請負競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條第一項ノ外尙ホ左ノ資格ヲ備フルヲ要ス

一 請負競争ニ加ハラントスル工事ノ見積金額二分ノ一以上ニ相當スル工事ヲ直接ニ請負ヒタル經歷アル者

但地方ノ情況ニ依リ本項見積金額二分ノ一ヲ同五分ノ一マテニ減スルコトアルヘシ  
明治三十一年二月三日 文部大臣侯爵西園寺公望

○内務省令第二號

醫術開業試験後期ノ學說試験及齒科ノ學說試験ニ合格シタル者ハ學說合格承認證ヲ交付ス  
前項ニ據リ學說合格承認證ヲ得タル者ハ次回以後ノ試験ニ於テ實地試験ノミヲ受クルコトヲ得實地試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ試験委員長ノ學說合格承認證ヲ添ヘ願出ヘシ但試験手数料金



五圓ヲ納ムヘシ

明治二十六年七月當省令第十號及明治三十年四月當省令第九號ハ廢止ス

明治三十一年二月五日

〔參照〕

内務大臣子爵芳川顯正

内務省令第十號(明治二十六年七月十四日)抄録

醫術開業試験後期ノ學說試験及齒科ノ學說試験ニ合格シタル者ハ次回以後ノ試験ニ於テ實地試験ノミヲ受クルコトヲ得  
前項ニ據リ實地試験ノミヲ受ケントスル者ハ試験委員長ノ示定シタル期日內ニ願出テ其學說合格承認證ヲ受ケヘシ  
實地試験ヲ受ケントスル者ハ其試験願書ニ試験委員長ノ學說合格承認證ヲ添ヘ願出ヘシ但試験手数料金五圓ヲ納ムヘシ  
明治三十年四月二日內務省令第九號八回二十六年內務省令第十號但書改正ノ件ナリ

○内務省令第三號

藥劑師試験ノ學說試験ニ合格シタル者ハ學說合格承認證ヲ交付ス

前項ニ據リ學說合格承認證ヲ得タル者ハ次回以後ノ試験ニ於テ實地試験ノミヲ受クルコトヲ得實地試験ヲ受ケントスル者ハ其試験願書ニ試験委員長ノ學說合格承認證ヲ添ヘ願出ヘシ但試験手数料金參圓ヲ納ムヘシ

明治二十六年七月當省令第十一號ハ廢止ス

明治三十一年二月五日

〔參照〕

内務大臣子爵芳川顯正

内務省令第十一號(明治二十六年七月十四日)抄録

藥劑師試験ノ學說試験ニ合格シタル者ハ次回以後ノ試験ニ於テ實地試験ノミヲ受クルコトヲ得  
前項ニ據リ實地試験ノミヲ受ケントスル者ハ試験主事ノ示定シタル期日內ニ願出テ其學說合格承認證ヲ受ケヘシ  
實地試験ヲ受ケントスル者ハ其試験願書ニ試験主事ノ學說合格承認證ヲ添ヘ願出ヘシ但試験手数料金參圓ヲ納ムヘシ

○文部省令第四號

明治二十五年文部省令第十一號尋常師範學校卒業生服務規則第一條ノ服務年限ハ私費卒業生ニ關

シテハ男子卒業生ハ三箇年、女子卒業生及簡易科卒業生ハ二箇年トス又同條第一項但書第二項及第二條ハ私費卒業生ニ適用セス

明治三十一年二月五日

文部大臣侯爵西園寺公望

〔參照〕

文部省令第十一號尋常師範學校卒業生服務規則(明治二十五年七月十一日)抄録

第一條 尋常師範學校卒業生ハ左ノ服務年限間其道府縣內ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス但第二條ノ義務ヲ卒リタル者ハ小學校ニアラサル官立公立學校教員ノ職若クハ學務ニ關スル他ノ公職ヲ以テ本文ノ職ニ代フルコトヲ得  
一 男子卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年トス  
二 女子卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年トス

第二條ノ義務ヲ卒リタル者ニシテ特別ノ事情アルトキハ北海道廳長官府縣知事ノ許可ヲ受ケ他ノ道府縣內ニ於テ就職スルコトヲ得

第二條 尋常師範學校卒業生ニシテ第一種ノ生徒タリシ者ハ其職ニセラレタル郡市内東京市、青森市、大板市、又ハ其道府縣內ニ於テニ於テ第二種ノ生徒タリシ者ハ其道府縣內ニ於テ左ノ年限間北海道廳長官府縣知事ノ指定スル小學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス

一 男子卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年  
二 女子卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年

文部省令第十四號(明治二十六年十月二十三日)抄録  
北海道及沖繩縣尋常師範學校ニ於テ明治二十五年文部省令第十一號ノ規定ニ依リ雖キトキハ北海道廳長官沖繩縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

○外務省令第二號

明治二十九年外務省令第六號朝鮮國在勤警部巡查任用及支給規則施行細則中左ノ通改正シ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治三十一年二月八日

外務大臣男爵西德二郎

第三條へ左ノ但書ヲ加フ



但任所ニ於テ其官職ヲ免セラレタル者又ハ死亡シタル者ニハ其常日迄之ヲ給ス  
 第四條中「官舎外ニ居住セシ」ノ下ヘ「翌」ノ字ヲ加ヘ「其居住ヲ離レシ」ノ下ヘ「前」ノ字ヲ加フ  
 第七條ヲ左ノ通改ム  
 巡查ノ本邦内ニ於ケル旅費額ハ別表第二號ニ依ル  
 第二號(別表)

巡查本邦内地旅費額

汽車賃一圓	汽船賃二圓	車馬賃一圓	日當一圓	宿泊料一圓	食卓料一圓
四錢	四錢	拾五錢	四拾錢	八拾錢	六拾錢

〔參照〕

外務省令第六號朝鮮國在勤醫部巡查任用及支給規則施行細則(明治二十九年十二月十日)抄錄  
 第三條 任所ニ於テ在勤月手當ノ給額ニ異動ヲ生シタル場合ニ於テハ其命令到達ノ日ヨリ起算シ之ヲ給ス  
 第四條 宿舍料ハ現ニ官舎外ニ居住セシ日ヨリ起算シ其居住ヲ離レシ日マテ又免職若クハ死亡ノトキハ其當日マテ之ヲ給ス但自己ノ都合ニ依リ許可ヲ得テ官舎外ニ居住スル者ニハ宿舍料ヲ給セス  
 第七條 巡査ノ本邦内ニ於ケル車馬賃及日當ハ別表第二號ニ依ル  
 第二號(別表)

巡查本邦内地旅費額

汽車賃一圓	汽船賃二圓	車馬賃一圓	日當一圓
四錢	四錢	拾五錢	四拾錢

○文部省令第五號

明治二十五年文部省令第十二號尋常師範學校設備規則第五條第二項ノ末ニ「但女生徒ニ就テハ自修室寢室ヲ區別セサルコトヲ得」ノ二十三字ヲ加フ  
 明治三十一年二月十日  
 文部大臣侯爵西園寺公望

〔參照〕

文部省令第十二號尋常師範學校設備規則(明治二十五年七月十一日)抄錄  
 第五條第二項  
 寄宿舎ハ自修室寢室ヲ區別シ且合室室食堂浴室盥洗場等ヲ備フヘシ

○大藏省令第一號

明治二十六年大藏省令第十號酒精營業稅法施行細則中左ノ通改正ス  
 明治三十一年二月十九日  
 大藏大臣伯爵井上 馨  
 第一條第一項中「販賣見込石量ヲ記載シタル願書」トアル下ニ「及保證金供託受領證」ノ九字ヲ挿入ス  
 第二條左ノ通改ム  
 保證金額ハ稅務管理局長之ヲ指定ス  
 一旦指定シタル保證金額ニシテ相當ヲ失スルニ至リタリト認ムルトキハ其ノ指定金額ヲ變更スヘシ  
 徵稅ニ因リ保證金額ニ缺減ヲ生シタルトキハ直チニ之ヲ補充スヘシ  
 第五條左ノ通改ム  
 稅法執行ニ關スル書類ハ營業場ニ送達スルモノトス但シ營業者ノ不在等送達シ能ハサル事情アルトキハ其ノ趣旨ヲ三日間官報若ハ新聞紙ニ公告シテ送達ニ代フルコトアルヘシ  
 第十二條左ノ通改ム  
 營業者及稅法第五條第二項ニ該當スル者酒精ヲ買入レタルトキハ直チニ左ノ事項ヲ具シ所轄稅務署ニ届出ツヘシ但シ買入ニ係ル酒精他ノ管轄地内ニ現在スルトキハ其ノ酒精ノ發送前更ニ酒精現在地ノ所轄稅務署ニ届出ツヘシ  
 一 賣渡人ノ住所氏名



二 買入酒精ノ數量及其ノ所在地  
第十六條中「第五條」ノ三字ヲ刪除ス

〔参照〕

大藏省令第十號酒精營業稅法施行規則(明治二十六年六月二日)抄錄  
第一條第一項

酒精營業ノ免許ヲ受ケントスル者ハ一箇年販賣見込石量ヲ記載シタル願書ヲ管廳ニ提出シ營業場一箇所毎ニ免許證札ヲ受ケルヘシ

第二條 前條ノ願書ニハ稅法第三條ノ制限内ニ於テ一箇年販賣見込高ノ稅金ト同額ナル現金又ハ國債證券ノ供託受領證ヲ添フヘシ但明治二十六年勅令第五十八號第二條ノ即許ヲ受ケントスル者ハ之ヲ要セス

營業免許後販賣見込石量ヲ增加セントスルキハ其都度申出テ稅法第三條ノ最高額ノ限度トシ保證金ヲ追補スルコトヲ得

營業免許後販賣見込石量ヲ減少セントスルキハ其都度申出テ稅法第三條ノ最低額ノ限度トシ保證金ヲ減少スルコトヲ得

第五條 營業者ハ酒精營業免許ト書シタル標札ニ免許證札番號ヲ記載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第十二條 營業者及稅法第五條第二項ニ該當スル者ニシテ酒精ヲ買入ルハトキハ若荷後三日以内ニ所轄關稅分署ニ届出テ左ニ掲ケル書類ノ一若クハ其他取引上關連トナルヘキ書類ニ當該官吏ノ檢印ヲ受ケルヘシ

一 荷物送り狀  
一 仕切書

一 代金領收書

第十六條 第十二條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第五條第六條第八條第九條第十條第十一條第十三條第十四條第十五條ニ違反シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料科ニ處ス

○大藏省令第二號

明治二十六年十一月十一日 當省令第三十二號第八號書式備考第二ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三ヲ第四ト改

第二 同一款項ニ於テ再三繰越ヲ要スル場合アルトキハ「翌年度へ繰越高」ノ欄内ニ「繰越承認濟

高」要繰越高」ノ二欄ヲ設ケ掲ケルモノトス

明治三十一年二月二十一日

大藏大臣 伯爵 井上 馨

〔参照〕

明治二十六年十一月十日 大藏省令第三十二號第八號書式ハ繰越計算書ナリ

○逓信省令第四號

明治二十七年一月 逓信省令第二號今般左記ノ通改正シ來三月一日ヨリ施行ス

明治三十一年二月二十一日

逓信大臣 文學博士 男爵 末松謙澄

逓信省所管出納官吏會計規則第百三條但書ニ依リ土地書入及土地書入契約變更若ハ解除ヲナストキハ逓信省各局長竝ニ一等郵便電信局長航路標識管理所長郵便爲替貯金管理所長電話交換局長船舶司檢所長商船學校長東京郵便電信學校長又ハ其局所校長ノ指定シタル官吏ヲシテ其事項ニ關スル證明書ヲ作成セシメ登記法第二十一條第二十三條ノ手續ヲ代理セシム

○逓信省令第五號

明治三十年十一月十二日 逓信省令第三十一號電話交換規則中左ノ通改正シ明治三十一年三月一日ヨリ施行ス

明治三十一年二月二十五日

逓信大臣 文學博士 男爵 末松謙澄

第六條但書左ノ通改正ス

但官廳公署及公共事業ノ用ニ供スルモノハ其順番ニ據ラサルコトアルヘシ

第二十四條 電話使用料及附加使用料ハ年額ヲ四分シ左ニ掲ケル四期ノ別ニ從ヒ每一期分ヲ其期

ノ初月一日ヨリ十日マテニ電話交換局ニ納付スヘシ

第一期 四月一日ヨリ六月三十日マテ



- 第二期 七月一日ヨリ九月三十日マテ
- 第三期 十月一日ヨリ十二月三十一日マテ
- 第四期 一月一日ヨリ三月三十一日マテ
- 第三十條 左ノ料金ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ
- 一 加入登記料
- 一 電話所ニ於テ納付スヘキ電話料

〔參照〕

逓信省令第三十一號電話交換規則(明治三十年十二月一日)抄錄  
 第六條 電話開通ノ順序ハ加入申込ノ順序ニ據ル但官廳用ニ供スルモノハ其順序ニ據ラサルコトアルヘシ  
 第二十四條 電話使用料及附加使用料ハ年額ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ每一期分ヲ前期ノ末日マテニ電話交換局ニ前納スヘシ  
 第一期 四月一日ヨリ六月三十日マテ  
 第二期 七月一日ヨリ九月三十日マテ  
 第三期 十月一日ヨリ十二月三十一日マテ  
 第四期 一月一日ヨリ三月三十一日マテ  
 第二十九條 加入登記料、電話使用料、附加使用料、電話線線料及機械移轉料ノ金額ハ別ニ之ヲ定ム  
 第三十條 前條ノ料金ハ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

○陸軍省令第二號

本年屯田兵ニ採用ノ者ニ限り來ル九月十月ノ間ニ於テ移住セシム  
 明治三十一年二月二十六日  
 陸軍大臣子爵桂 太郎

○文部省令第六號

明治三十一年勅令第二號第五條ニ基キ學校醫職務規程ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 明治三十一年二月二十六日  
 文部大臣侯爵西園寺公望

學校醫職務規程

- 第一條 學校醫ハ此規程ノ定ムル所ニ依リ學校衛生ニ關スル職務ニ從事ス
- 第二條 學校醫ハ毎月少クトモ一回放學時間内ニ於テ當該學校ニ到リ衛生上ノ事項ヲ視察スヘシ  
 學年ノ終及學期ノ始ニ於テハ特ニ當該學校ニ到リ視察スルコトヲ要ス
- 第三條 學校醫ハ學校視察ノ際左ノ事項ヲ調査シ之ヲ視察簿ニ記入スヘシ
  - 一 換氣ノ良否
  - 二 採光ノ適否
  - 三 机腰掛ノ適否
  - 四 前列及最後列ノ机ト黑板トノ距離
  - 五 暖爐ノ有無及暖爐ト最近生徒トノ距離
  - 六 室内ノ溫度
  - 七 圖書掛圖黑板ノ衛生上ノ適否
  - 八 學校清潔方法實行ノ情況
  - 九 飲料水ノ良否
- 第四條 學校醫ハ學校視察ノ際疾病ニ罹レル生徒ヲ發見シタルトキハ其病症ニ依リ缺課休學又ハ療治ヲ爲サシムヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ
- 第五條 學校醫ハ明治三十年文部省訓令第三號學生生徒身體檢查規程ニ準據シ各生徒ノ身體ヲ檢查スヘシ
- 第六條 學校醫ハ學校ノ近傍若クハ學校内ニ於テ傳染病ノ發生シタルトキハ該次學校ニ到リ必要ナル豫防消毒方法ヲ施行シ尙其情況ニ依リ學校ノ全部若クハ一部分ノ閉鎖ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スヘシ







及氣象器械ノ檢定ヲ爲ス所トス

第二條 地方測候所ハ所在地ノ氣象ヲ觀測シ所屬廳管内ノ氣候ヲ調査シ竝ニ中央氣象臺ノ天氣豫報ニ基キ地方天氣豫報ヲ發スル所トス

地方測候所ハ公私ノ依頼ニ應シ天氣豫報暴風警報ノ通報ヲ爲スコトヲ得

第三條 測候所ヲ分テ一等二等トス  
一等測候所ハ晴雨計寒暖計乾濕計最高最低寒暖計日溫計地溫計地中寒暖計風力計風信器雨量計蒸發計日照計地震計等ヲ備ヘ毎時觀測ヲ爲スヘシ

二等測候所ハ晴雨計寒暖計乾濕計最高最低寒暖計風力計風信器雨量計地震計等ヲ備ヘ一日六回ノ觀測ヲ爲スヘシ

第四條 測候所ハ前條備付ノ器械中日照計及地震計ヲ除クノ外ハ豫備器ヲ備フヘシ

第五條 測候所ハ中央氣象臺ヨリ暴風警報ヲ受ケタルトキ又ハ天候不穩ト認メタルトキハ中央氣象臺長ノ定メタル方法ニ依リ臨時觀測ヲ爲スヘシ

第六條 測候所ハ中央氣象臺ニ左ノ報告ヲ爲スヘシ  
氣象電報 氣象月報 氣象年報 一周年事業報告  
氣象五年報 暴風報告 雷雨報告 地震報告  
積雪報告 動物報告 植物報告 雜報

第七條 測候所ハ互ニ氣象月報氣象年報及氣象五年報ヲ交換スヘシ

第八條 測候所ハ中央氣象臺ヨリ天氣豫報又ハ暴風警報ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ揭示スヘシ

第九條 測候所ノ觀測ノ方法器械ノ品位報告ノ書式及期限天氣豫報要語又ハ氣象信號標式等ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ中央氣象臺長之ヲ定ム

第十條 測候所ニ於テ地方天氣豫報ヲ發スルニハ一箇年間天氣豫考ヲ爲シ其成績表ヲ添ヘ地方測

候所ハ地方長官ニ於テ其他ノ測候所ハ地方長官ヲ經由シテ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 測候所ハ毎月地方天氣豫報ノ適否ヲ取調ヘ中央氣象臺長ニ通知スヘシ

第十二條 條例第一條ニ依リ地方測候所ヲ設立セントスルトキハ左ノ諸件ヲ詳記シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 敷地建物ノ坪數及其附近ノ地勢ヲ示スニ足ルヘキ圖面

二 建物ノ構造

三 等級

四 所員ノ數

五 使用スヘキ器械ノ明細書

六 經費豫算書

第十三條 地方測候所ノ敷地建物ヲ變更セントスルトキハ前條第一及第二ノ件ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

地方測候所ノ等級ヲ變更セントスルトキハ前條第四乃至第六ノ件ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條 地方測候所經費豫算額ノ決定シタルトキ及備付器械又ハ所員ニ異動アリタルトキハ其都度文部大臣ニ開申シ同時ニ中央氣象臺長ニ通知スヘシ

第十五條 條例第二條ニ依リ測候所ヲ設置セントスルトキハ左ノ諸件ヲ詳記シ地方長官ヲ經由シテ文部大臣ノ許可ヲ請フヘシ

一 敷地建物ノ坪數及其附近ノ地勢ヲ示スニ足ルヘキ圖面

二 建物ノ構造

三 等級















○內務省令第四號

傳染病豫防法第二十四條ノ補助ニ關スル規程ハ北海道廳ニ在リテハ北海道廳長官沖繩縣ニ在リテハ沖繩縣知事之ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ受ケテ施行スヘシ

明治三十一年三月九日

內務大臣子爵芳川顯正

〔參照〕

法律第三十六號傳染病豫防法(明治三十年四月一日官報)抄録

第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス

- 一 豫防委員ニ關スル諸費
- 二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費
- 三 豫防救治ノ爲ニ雇入タル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費
- 四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費
- 五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手当、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、用藥料
- 六 第八條ニ依ル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費
- 七 市町村內ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費

第二十三條第二項

市町村ハ其ノ市町村內ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ補助スヘシ

○海軍省令第一號

明治二十九年三月海軍省令第二號海軍少軍醫少藥劑士少軍醫候補生少藥劑士候補生採用試驗規則第三條中海軍少軍醫候補生ノ部左ノ通改正ス

明治三十一年三月十日

海軍大臣侯爵西鄉從道

海軍少軍醫候補生

一 醫術開業試驗ヲ受ケ醫術開業免狀ヲ有スル者

- 一 學說 藥物學 內科學 外科學 眼科學 衛生學
- 二 實地 局處解剖 組織學 內科 外科
- 三 外國語學 歐文和譯
- 二 高等學校醫學部又ハ府縣立醫學校ノ卒業者ニシテ醫術開業免狀ヲ有スル者
  - 一 學說 內科學 外科學 眼科學 衛生學
  - 二 實地 局處解剖 組織學 內科 外科
  - 三 外國語學 歐文和譯

○大藏省令第三號

明治三十年十一月二日當省令第二十一號葉煙草專賣支所名稱位置中神戸葉煙草專賣支所內葛野葉煙草專賣支所ノ位置ヲ兵庫縣氷上郡成松村ニ變更シ成松葉煙草專賣支所ト改稱ス

明治三十一年三月十五日

大藏大臣伯爵井上馨

○文部省令第九號

明治二十四年文部省令第七號府縣小學校教員恩給基金管理規則第二條中「公債證書」ヲ「國債證書」ト改ム

明治三十一年三月十六日

文部大臣侯爵西園寺公望

○農商務省令第二號

明治三十年八月農商務省令第十三號中左ノ通改正ス

明治三十一年三月十六日

農商務大臣男爵伊東巳代治

第一條中御料地ノ三字ヲ削ル



〔參照〕

陸軍省令第十三號(明治三十年八月六日)抄録  
第一條中  
官有森林原野ニ編入セラレタルモノニシテ民有タルヘキ位置ニ據リ地所又ハ立木竹ノ引戻ヲ請フモノハ大林區署所管林  
野ニ關シテハ大林區署其他ノ官有地御料地又ハ未定地脫落地ノ民有編入ニ係ルモノハ府縣廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ申  
請スヘシ

○陸軍省令第三號

徵兵事務條例施行細則中北海道及沖繩縣並小笠原島ニ施行シ難キ諸件ハ當分左ノ諸項ニ依ル

明治三十一年三月十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 一 明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ依リ徵集免除ニ屬スル者ハ身體検査ヲ行ハス同第三項ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ初年及徵集ニ應スヘキ年ノ外身體検査ヲ行ハス
- 二 明治三十年勅令第二百五十八號ニ依リ徵集免除徵集猶豫ニ屬スル者ニハ徵兵事務條例施行細則第九條ノ例ニ依リ徵集猶豫證書ヲ付與シ又ハ徵集免除ノコトヲ達スヘシ其ノ徵集免除又ハ徵集猶豫額ヲ許可セサル者ニハ徵兵事務條例施行細則第十條ノ例ニ依リ裁決書ヲ付與スヘシ
- 三 沖繩警備隊區ニ於テ要員ヲ充スコト能ハサルトキハ警備隊區司令官ヨリ第六師團長ニ第六師團長ハ之ヲ陸軍大臣ニ具狀スヘシ
- 四 徵兵事務條例施行細則第二十五條ニ依リ第六師管徵兵表其一中沖繩警備隊區ヨリ第十二師團ニ徵集スル現役兵ノ人員ハ之ヲ朱書シ第六師團ニ徵集スルモノト區分スヘシ
- 五 沖繩縣ノ島司郡區長ハ現役兵及第一補充兵現役兵ニ繰上ケタル海軍補充兵ノ戶籍寫ヲ警備隊區司令官ニ送付シ警備隊區司令官ハ第一補充兵ニシテ現役兵ニ繰上ケサル者ヲ除ク外之ヲ各隊長又ハ海兵團長ニ送付スヘシ
- 六 徵兵事務條例補則第十一條ノ引率吏員ハ現役兵交付ノ際徵兵事務條例第四十四條ノ入營延期

願濟ノ者其他事故不參者ノ人名ヲ各隊或ハ海兵團ニ通知シ又引率ノ際永久兵役ニ堪ヘ難キト

認ムル者アルトキハ警備隊區司令官ニ通知スヘシ

七 徵兵事務條例施行細則中ニ記載スル警備隊區司令官ノ職務ハ沖繩警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官之ヲ行フ

沖繩縣ニ在テ市長ノ職務ハ區長、市書記ノ職務ハ區書記、町村長ノ職務ハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

北海道ニ在テ郡市長ノ職務ハ北海道廳支廳長、郡市書記ノ職務ハ北海道廳支廳ノ屬之ヲ行フ

八 前諸項中警備隊區ニ係ル事項ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス其以前ニ在テ警備隊區司令官ノ職務ハ聯隊區司令官之ヲ行フ

〔參照〕

明治三十年八月七勅令第二百五十八號ハ沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令施行ノ件ナリ

○陸軍省令第四號

陸軍六週間現役兵條例施行細則中左ノ通改正ス。

明治三十一年三月十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍六週間現役兵條例施行細則

第二條中「警備隊司令官」ノ下ニ「沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官以下同シ」ノ分註ヲ加フ

第三條第二項中「沖繩縣在籍」ノ分註ヲ削除シ「東京市、京都市、大阪市及北海道ニ在テハ東京市、京都市、大阪市及北海道ニ在テハ區長以下同シ」ニ改ム

第四條中但書ヲ削除ス

第五條ヲ左ノ如ク改ム



第五條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師團長地方長官協議ノ上時宜ニ依リ教職ニ就クヘキ年身體検査ヲ爲シ又北海道ニ在テハ居住地所在ノ聯隊區外ニ於テ身體検査ヲ爲スコトヲ得

第六條 中但書ヲ削除ス

第七條 中ノ者ヲ除クノ分註ヲ削除ス

附則

沖繩警備隊區ニ係ル事項ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス其以前ニ在テ警備隊區司令官ノ職務ハ聯隊區司令官之ヲ行フ

(參照)

- 陸軍省令第九號陸軍六通間現役兵條例施行細則(明治三十年四月五日)抄錄
- 第二條 府縣廳ニ於テハ徵兵事務條例施行細則第一條式ニ準シ六通間現役兵名簿ヲ作り身體検査ニ先タチ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付シ検査ノ手續ヲ協議スヘシ但官立小學校ノ教職モ亦本文同様該校所在府縣ニ於テ取扱フヘシ
  - 第三條 聯隊區司令官警備隊區司令官ハ六通間現役兵ノ身體検査ニ關シテハ尋常徵兵ト同一ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ附錄第一條式ノ合格證書ヲ付與シ其ノ名簿ヲ師團長ニ送付シ且其ノ成績ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ
  - 其ノ徵集ニ適セサル者ハ徵集延期徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集延期名簿ヲ北海道廳又ハ府縣知事ニ送付スヘシ
  - 送付シ徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ本府所管ノ島司郡市長ニ送付スヘシ
  - 第四條 師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應ジ適宜之ヲ各隊ニ配付スヘシ但沖繩縣ニ在職ノ者ハ步兵第四十五聯隊ニ入隊セシムルモノトス
  - 第五條 北海道及沖繩縣ニ在ル者ノ身體検査ハ左ノ諸項ニ依ルヘシ
    - 一 北海道ニ在ル者ハ札幌聯隊區司令部沖繩縣ニ在ル者ハ鹿兒島聯隊區司令部ニ於テ身體検査ヲ行フ但北海道ニ在テ師範學校卒業ノ翌年以後ノ者ニ在テハ札幌聯隊區司令部又ハ函館聯隊區司令部若クハ該聯隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ行フ
    - 二 北海道廳及沖繩縣廳ニ於テハ教職トナルヘキ年豫メ第二條ニ準シ名簿ヲ作り該聯隊區司令部ニ送付スヘシ
    - 三 札幌聯隊區司令部ハ三月一日迄鹿兒島聯隊區司令部ハ成ルヘク五月二十五日ヨリ同月三十一日迄ノ間ニ身體検査ヲ行フヘシ但第一項但書ニ該ル者ハ此ノ限ニアラス
    - 四 鹿兒島聯隊區司令部ハ合格者ノ人名簿ヲ師團長ニ送付シ又其ノ名簿ヲ聯隊長ニ送付スヘシ
    - 五 身體検査ノ爲メ沖繩縣ヨリ鹿兒島聯隊區司令部ニ對シテハ合格者ハ縣官一名之ヲ引率セシムヘシ

第六條 身體検査ノ後教職ヲ罷メタル者アルトキハ道廳府縣廳ヨリ直ニ該聯隊區司令部ニ通報スヘシ但北海道ニ在テハ検査後入整期日迄ニ教職ヲ命セサル者アルトキ亦同シ

第七條 身體検査ヲ受ケタル者ハ五月三十一日迄ニ合格者クハ其ノ受ケン處分ヲ本府所管ノ島司郡市長ニ届出ヘシ

○陸軍省令第五號

第七師管旭川聯隊區司令部設置迄同聯隊區ニ係ル事務ハ札幌聯隊區司令部ニ於テ執行ス

本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治三十一年三月二十三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省令第二號

海軍內國旅費規則左ノ通り定ム

明治三十一年三月二十八日

海軍大臣侯爵西鄉從道

海軍內國旅費規則

- 第一條 海軍軍人軍屬公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキハ此ノ規則ニ依リ旅費ヲ支給ス
- 第二條 海軍內國旅費ハ第一表ノ旅費等級ニ從ヒ順路ニ依リ第二表乃至第六表ニ定ムル所ノ定額ヲ支給ス但シ此ノ規則ニ於テ特ニ實費拂フ規定シタルモノ及汽車料船舶料車馬料ノ定額ヲ以テ支辨シ難キトキ海軍大臣ニ於テ特ニ實費拂フ認許シタルモノハ各其ノ實費ヲ支給ス
- 第三條 汽車料又ハ船舶料ノ實費ヲ支給スル場合ニ於テ汽車又ハ船舶ノ客室ニ等級アルトキハ其ノ等級ハ旅費等級四等以上ノ者ハ上等トシ五等及六等ノ者ハ中等トシ七等及八等ノ者ハ下等トス但シ中等ナキトキハ五等ノ者ハ上等トシ六等ノ者ハ下等トス
- 第四條 汽車料ハ哩數、船舶料ハ海里數、車馬料ハ里數、日當ハ日數、宿泊料ハ泊數ニ應シ之ヲ支給シ



食卓料ハ官用船舶ニテ旅行シ官ヨリ賄フ爲サ、ルトキ日數ニ應シ之ヲ支給ス但シ海路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス

第五條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ第三表ノ定額ヲ支給ス

- 一 軍人軍屬出張ヲ命セラレ旅行スルトキ
- 二 准士官以上豫備後備若ハ退役ト爲リ歸郷スルトキ
- 三 豫備後備退役ノ者ニ在職在役中ノ公務ニ關シ旅行ヲ命スルトキ
- 四 事務引繼職務取調等ノ爲メ免官廢官免役若ハ豫備後備退役ノ者ニ旅行ヲ命スルトキ但シ免官廢官若ハ免役ノ者ハ従前ノ等級ニ依ル
- 五 新ニ武文官ニ任用若ハ雇員傭人ニ採用スル爲メ召喚スルトキ但シ其ノ任用若ハ採用スル所ノ等級ニ依ル

第六條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ第三表ノ定額ヲ支給ス

- 一 准士官以上候補生及文官ニシテ新ニ任地ニ赴クトキ若ハ舊任地ヨリ新任地ニ赴クトキ
- 二 准士官以上候補生及文官ニシテ艦船乗組ヲ命免セラレ旅行スルトキ
- 三 准士官以上待命休職停職ト爲リ東京ニ歸住若ハ指定ノ地ニ赴クトキ
- 四 外宿下士ニシテ新ニ任地ニ赴キ若ハ舊任地ヨリ新任地ニ赴クトキ又ハ本籍海兵團所在地外ニ在テ勤務ヲ免セラレ歸國スルトキ

第七條 前條第一乃至第三ノ事項ノ一ニ該ルモノニシテ家族ヲ移轉スルトキハ左ニ掲クル場合ニ應シ別ニ第四表ノ定額ヲ支給ス

- 一 准士官以上及文官ニシテ新ニ任地ニ赴キ若ハ舊任地ヨリ新任地ニ赴クトキハ出發地若ハ舊任地ヨリ新任地マテ
- 二 准士官以上ニシテ陸上勤務ヲ免セラレ艦船乗組ヲ命セラレタルトキハ其ノ地ヨリ東京マテ

三 准士官以上及文官ニシテ艦船乗組ヲ免セラレ陸上勤務ヲ命セラレタルトキハ東京又ハ前勤務所在地ヨリ新勤務所在地マテ但シ文官ハ前勤務所在地ヨリ新勤務所在地マテニ限ル

四 准士官以上ニシテ待命休職停職ト爲リタルトキ艦船乗組ノ者ハ前勤務所在地ヨリ東京マテ陸上勤務ノ者ハ其ノ地ヨリ東京マテ但シ陸上勤務ノ者滞在在地ヲ指定セラレタルトキハ其ノ指定ノ地マテ

五 待命休職停職ノ准士官以上ニシテ指定地ノ滞在ヲ免セラレ東京ニ歸住スルトキハ其ノ地ヨリ東京マテ但シ滞在在地ヲ更定セラレ更ニ指定地ニ赴クトキハ該指定地マテ

六 准士官以上ニシテ臺灣島若ハ澎湖島ノ陸上勤務ヲ命セラレ同地ニ家族ヲ移轉セサルトキハ前勤務所在地ヨリ東京マテ

七 臺灣島若ハ澎湖島ノ陸上勤務ヲ免セラレタル准士官以上及文官ニシテ同地勤務中同所ニ家族ヲ移轉セサル者該島以外ノ陸上勤務ヲ命セラレタルトキハ東京又ハ前勤務所在地ヨリ新勤務所在地マテ但シ文官ハ前勤務所在地ヨリ新勤務所在地マテニ限ル

第八條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ第五表ノ定額ヲ支給ス

- 一 下士卒豫備後備免役若ハ歸休兵ト爲リ歸郷スルトキ
- 二 豫備後備ノ准士官以上及下士卒並ニ歸休兵召集地ニ旅行シ若ハ召集地ヨリ歸住スルトキ但シ豫備後備ノ准士官以上召集中死亡シタルトキハ本項ノ例ニ依ル
- 三 行軍若ハ演習ノ隊外員其ノ職務ヲ以テ旅行スルトキ
- 四 行軍演習其ノ他射擊操練ノ實視若ハ見學又ハ學術研究ノ爲メ旅行スルトキ
- 五 學術受験ノ爲メ旅行スルトキ
- 六 入校試験ニ及第シタル生徒志願者ニ生徒ヲ命スル爲メ召喚スルトキ



- 七 艦船ノ乗員公暇上陸中本艦船出航ノ爲メ追尾掃投スルトキ
- 八 下士以下勤務ヲ命免セラレ旅行スルトキ又ハ生徒下士以下入院退院シ若ハ施療場所ヲ移轉セシムルトキ
- 九 准士官以上公務ニ原因シ疾病傷痍ニ罹リ軍醫官ノ指定ニ依リ入院退院シ若ハ施療場所ヲ移轉セシムルトキ但シ所轄長ニ於テ海軍大臣ノ認許ヲ得タルトキニ限ル
- 第九條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ第六表ノ定額ヲ支給ス
  - 一 臥具炊具ノ設備ナキ船艦ニ乗組出張スルトキ
  - 二 刑事被告事件ニ依リ旅行スルトキ
  - 三 刑期滿限ニ依リ復歸スルトキ
  - 四 軍艦乗組備人公務旅行中若ハ備入地外ニ於テ解備ト爲リ該地ヨリ備入地マテ旅行スルトキ
- 第十條 測量ノ爲メ出張シ測量ニ從事スルトキハ其ノ地到着ノ翌日ヨリ發程ノ前日マテ汽車料船泊料及車馬料ヲ支給セス其ノ日數ニ應シ第二表日當ノ一割ヲ増給ス但シ官用ノ船車馬ヲ使用セシムルトキハ日當ノ割増ヲ支給セス
- 第十一條 前條ノ場合ヲ除クノ外三十日以上同一ノ地ニ滞在スル出張者ニハ其ノ地到達ノ翌日ヨリ起算シ三十一日目ヨリ發程ノ前日マテ第二表ノ宿泊料ヲ支給シ日當ハ支給セス
- 測量土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡迴シ若ハ現場ニ滞在スル者又ハ平常現場ニ旅行ヲ要スル者ニ對シテハ海軍大臣ノ認許ヲ得テ第二表定額以内ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得
- 第十二條 艦船試運轉速力試驗若ハ銃砲水雷試射ノ爲メ艦船ニ乗組出張スルトキハ其ノ日數ニ應シ第二表ノ食卓料ヲ支給シ日當ハ支給セス但シ臥具ノ設備ナキ爲メ宿泊ヲ要スルトキハ其ノ間第二表宿泊料ノミヲ支給ス

- 第十三條 豫備後備ノ准士官以上及下士卒竝ニ歸休兵召集セラレ就職乗組若ハ入團以前滞在ヲ要スルトキハ滞在ノ翌日ヨリ就職乗組入團ノ前日マテ(若シ他地方ニ發程スル)第五表ノ宿泊料ヲ支給シ日當ハ支給セス但シ官ニ於テ賄ヲ爲ストキハ此ノ限リニアラス
- 第十四條 賜暇旅行中出張ヲ命シ直ニ指定地ニ赴クトキハ現所在地ヨリ定額ヲ支給シ又特ニ公務ニ從事セシムルトキハ其ノ間日當及宿泊料ヲ支給ス
- 第十五條 艦船乗組ノ下士以下公務ヲ以テ上陸シ風波ノ爲メ掃投スルコト能ハサルトキハ第三十三條ノ規程ニ拘ラス第五表ノ宿泊料ヲ支給シ日當ハ支給セス
- 第十六條 待命休職停職及非職中就職ノトキハ現住地ヨリ勤務地マテ第六條ニ依リ定額ヲ支給ス
- 第十七條 准士官以上及外宿下士賜暇旅行中若ハ公務旅行中轉職又ハ轉勤ヲ命シ直ニ赴任スルトキハ現所在地ヨリ勤務地マテ第六條ニ依リ定額ヲ支給ス
- 第十八條 准士官以上及文官ニシテ公務旅行中死亡シタル者若ハ廢官、退官、非職トナリタル者ハ左ノ區分ニ依リ旅費ヲ支給ス
  - 一 出張ノ途中ニ在テハ出發地所在地マテ第五條ノ定額ヲ支給ス
  - 二 赴任途中ニ在テハ舊任地マテ第六條ノ定額ヲ支給ス
- 第十九條 汽車路十二哩海路十二海里陸路六里未滿ノ旅行ニハ公務ノ都合又ハ避ク可ラサル事故ニ因リ宿泊ヲ要スルトキニ限リ其ノ泊數ニ應シ宿泊料ヲ支給シ日當食卓料ハ支給セス又赴任ノ旅行ニシテ家族ヲ移轉スルモ第七條ノ定額ヲ支給セス
- 旅行ノ各種ニ跨ルトキハ汽車路二哩海路二海里陸路一里ニ計算シ前項ノ支給區分ヲ定ム
- 第二十條 行軍、演習、營舎移轉其ノ他隊伍ヲ組ミ旅行スルトキハ食卓料汽車料船泊料ハ第六表ノ各定額以内、宿泊及賄費ハ同表ノ日當及宿泊料ヲ併算シタル金額以内ニ於テ實費ヲ支給ス但シ宿泊ヲ要セス一時ノ休憩ニ止ルトキハ第十九條及第三十三條ノ規程ニ拘ラス一人ニ付一錢以内



ノ實費ヲ支給ス

- 第二十一條 北海道旅行ハ十一月ヨリ三月マテ五箇月間車馬料ニ限り定額ヲ以テ支辨シ難キ場合ニ於テ其ノ實費ヲ支給ス
- 第二十二條 生徒及下士以下傷痍疾病ノ爲メ入院シ若ハ施療場所ヲ移轉セシメ又ハ下士卒ヲ歸郷シメ軍艦乗組員ヲ備入地ニ復歸セシムル場合ニ於テ軍醫官ノ診斷及所轄長ノ認定ニ依リ特ニ舟車馬肩輿等ヲ要スルトキハ其ノ實費ヲ支給ス
- 第二十三條 刑事被告人若ハ患者ノ護送者ニシテ刑事被告人若ハ患者ヲ護送スル爲メ同車同船ヲ要スル場合ニ於テハ第三條ノ例ニ照シ護送者ノ等級下級ニ屬スルトキハ被告人若ハ患者ノ等級ニ包含スル旅費等級中ノ最下級ニ從ヒ汽車料及船舶料ノ定額ヲ支給ス
- 第二十四條 一日ノ行程ハ汽車路二百哩海路百海里陸路十二里ヲ旅行スルヲ例トス但シ川留雪支、船待其ノ他避ク可ラサル事故若ハ特命ニ依ル滞在此ノ例ニアラス
- 明治三十一年勅令第四十六號ニ依リ支給スル旅費及此ノ規則第十八條ニ依リ死亡者ニ支給スル旅費ハ現日數ニ拘ラス前項里程ノ規準ニ依リ之ヲ計算シ日當及宿泊料ヲ支給ス
- 第二十五條 明治三十一年勅令第四十六號ニ依リ旅費ヲ支給シ前條第一項但書ノ事故ヲ生シタルトキハ同勅令第一第二若ハ第五ノ旅行ニ在テハ特ニ海軍大臣ノ認許ヲ得タルモノニ限り又第三若ハ第四ノ旅行ニ在テハ左ノ證明書アルモノニ限り事故ノ爲メ増加シタル日數及泊數ニ對シ別ニ日當及宿泊料ヲ支給ス
  - 一 傷痍疾病ニ因リ滞在シタルトキハ醫證
  - 二 船待ノ爲メ滞在シタルトキハ船舶會社若ハ回酒店又ハ船長ノ證明書
  - 三 川留雪支其ノ他避ク可ラサル事故ニ因リ滞在シタルトキハ其ノ實況ヲ證明シタル書類
- 第二十六條 第二十四條第二項ノ日數及泊數ヲ計算スル場合ニ於テ各行程一日未滿ノ端數ヲ生ス

ルトキハ汽車路十六哩海路八海里陸路一里ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行時間ヲ十二時間トシ一時間ヲ超ユルトキハ日當一日分十二時間ヲ超ユルトキハ宿泊料一泊分ヲ支給ス

第二十七條 明治三十一年勅令第四十六號第三若ハ第四ノ旅行ニシテ追尾乘組員スルトキ若ハ天災其ノ他避ク可ラサル事故ノ爲メ經路ヲ變更シタルトキハ之カ爲メ生シタル旅費ノ差増額ヲ支給ス

前項ニ依リ日數及泊數ヲ計算スルニハ最初ヨリ通シテ第二十四條第二十五條及第二十六條ノ計算法ニ依ル

第二十八條 汽車料船舶料及車馬料ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ一位未滿ノ端數ハ計算セズ

汽車船舶ノ乗下若ハ乗換ノ場合ニ於テ其ノ里數一里ニ滿メサルモノ及發著地ノ市町村ハ總里數ニ算入セズ

第二十九條 行程ヲ計算スルニハ海軍里程表ニ依ル若シ之ニ依リ難キモノアルトキハ郵便線路圖又ハ水路部鐵道局鐵道會社或ハ地方廳ノ測定スル所ニ依ルヘシ

海軍里程表ハ別ニ之ヲ定ム

第三十條 旅行ノ性質ニ依リ定額ニ差異アル場合ニ於テ一日ノ旅行各種ニ跨ルトキハ其ノ多額ニ就キ之ヲ支給ス

第三十一條 歸郷旅費ハ從前ノ勤務地若ハ現所在地ヨリ原籍マテ之ヲ支給ス但シ寄留地ニ於テ召集セラレ直ニ召集ニ應シタル者ハ區長若ハ市町村長ニ於テ當時其ノ地ノ寄留者タルロトヲ證明シタルモノニ限り該寄留地マテ支給スルコトヲ得

第三十二條 旅行中任官進級等ニ因リ旅費等級ニ異動アリタルトキハ辭令受領ノ日ヨリ相當ノ旅費ヲ支給ス



旅行中豫備後備ト爲リタルトキハ其ノ辭令受領ノ翌日ヲ以テ旅費ノ支給ヲ區分ス

第三十三條 勤務廳所在及乘組艦船碇泊ノ市町村内ニ止マル旅行ニハ旅費ヲ支給セス

第三十四條 軍艦其ノ他官用ノ船車馬ニテ旅行スルトキハ汽車料船船料及車馬料ヲ支給セス

第三十五條 旅行中私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ經過スルトキハ日當及宿泊料ハ其ノ日ヨリ再ヒ順路ニ復スル日マテ汽車料船船料及車馬料ハ迂路ニ入りタル間之ヲ支給セス但シ赴任途中他ノ公務ヲ以テ迂路ヲ經過スルトキハ其ノ間仍ホ第六條ノ定額ヲ支給ス

第三十六條 旅費ハ所轄廳ニ於テ之ヲ支給ス但シ本條第一第二第三ノ場合ニ於テハ出發廳ニ於テ

第四ノ場合ニ於テハ兼務廳ニ於テ第五ノ場合ニ於テハ當該用務廳ニ於テ之ヲ支給ス

一 本人ノ請求ニ依リ赴任旅費ヲ概算渡スルトキ

二 明治三十一年勅令第四十六號ニ依リ旅費ヲ支給スルトキ

三 他所管ニ屬スル刑事被告人ヲ旅行セシムルトキ

四 兼務廳ノ用務ヲ以テ旅行セシムルトキ

五 所轄廳以外ノ用務ヲ以テ旅行セシムルトキ

第三十七條 前金渡トシテ支給スル旅費ハ支出ノ日ヲ以テ會計年度ヲ區分シ其ノ他ノ場合ニ於テ旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ日當宿泊料車馬料及食卓料ハ會計年度分界ノ日ニ依リ區分シ汽車料船船料ハ其ノ乘車券若ハ乘船券ニ記載ノ地ニ到達マテ前年度ノ所屬トス

第三十八條 本則中下士以下トハ下士卒及艦團部隊砲術練習所水雷術練習所ニ屬スル從僕、割烹、剃夫、給仕ヲ云ヒ家族トハ父母妻子ヲ云フ

第三十九條 准士官以上及文官ニシテ家族ヲ移轉シ第七條ノ旅費定額ヲ受ケントスルトキハ辭令受領後三十日以内ニ所管長官ニ申請シ家族移轉ノ承認ヲ受ケヘシ其ノ承認ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ家族ヲ移轉セサルトキハ其ノ旨ヲ速ニ届出テ既ニ旅費定額ヲ給シタルモノハ還納セ

シム但シ疾病若ハ忌服等ノ爲メ移轉スル能ハサルトキハ所管長官ニ於テ相當ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得

准士官以上及文官ニシテ前項ノ日限内未タ家族ヲ移轉セスシテ更ニ轉職轉勤シ若ハ待命休職停職ト爲リタルトキハ前項ノ規程ニ依リ前勤務廳所在地ヨリ新任地若ハ東京又ハ指定地マテ旅費定額ヲ支給スルコトヲ得

附則

第四十條 此ノ規則ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第一表

等級	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等
軍人	大將及中將少將以上	長官候補生准士官	下等士官	士生卒				
軍醫	高等官親任高等官二等	高等官以下	補判任官判任官見習	員	庶人			
備考	學生ハ軍醫學生藥劑學生造船學生造船兵學生ヲ云フ							

第二表

旅費等級	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等
日當	二圓五十錢	一圓五十錢	一圓	七十五錢	五十錢	四十錢	三十五錢	二十五錢
宿泊料	三圓	二圓	一圓五十錢	一圓二十錢	一圓	七十錢	五十錢	四十五錢
汽車料	六錢	五錢	四錢	三錢	二錢	二錢	二錢	二錢
船船料	七錢	六錢	五錢	四錢	三錢	二錢	二錢	二錢
車馬料	三十五錢	三十錢	二十錢	二十錢	十五錢	十二錢	十二錢	十二錢



第三表

食料	一圓七十錢	一圓五十錢	一圓三十錢	一圓九十錢	六十錢	四十五錢	四十錢
炭費	一等	二等	三等	四等	五等	六等	
汽車料	八	七	六	六	五	五	
船料	九	八	七	七	六	五	
車馬料	五十錢	四十五錢	三十錢	三十錢	二十二錢	十六錢	
備	日當泊料食料八第二表ノ定額ヲ給ス						

第四表

炭費	一等	二等	三等	四等	五等	六等
汽車料	四	三	二	二	一	一
船料	五	四	三	三	二	二
車馬料	二十錢	十五錢	十錢	十錢	八錢	八錢
備	三十五圓	三十五圓	三十圓	二十圓	十五圓	十五圓

第五表

炭費	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等
汽車料	二	一圓二十錢	八十錢	六十錢	四十錢	三十錢	二十五錢	二十錢
船料	二圓五十錢	一圓八十錢	一圓三十錢	一圓八十錢	六十錢	四十錢	二十五錢	二十錢

第六表

汽車料	三	三	三	二	二	一圓五錢	一圓五錢
船料	四	四	四	三	三	二	二
車馬料	二十錢	二十錢	十五錢	十五錢	十二錢	八錢	八錢
食料	一圓二十錢	一圓八十錢	六十錢	五十錢	四十錢	三十五錢	三十錢
炭費	二等	二等	二等	五	六	七	七
日當	七十五錢	四十錢	三十錢	十五錢	十五錢	十五錢	
泊料	一	六十錢	四十錢	二十五錢	二十五錢		
汽車料	三	三	二	二	一錢五厘		
船料	四	四	三	三	二		
車馬料	二十錢	十五錢	十二錢	八錢	八錢		
食料	五十錢	三十錢	二十五錢	十五錢	十五錢		

○文部省令第十號  
 明治二十五年文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則第二條第三款中「十七年」ヲ「十六年」ニ改

明治三十一年三月二十八日

文部大臣侯爵西園寺公望

〔參照〕

文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則明治二十五年七月十一日抄録



第二條 尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ募集シ其身體品行學力等ヲ檢定シテ之ヲ選フヘシ  
三 男子ハ年齡十七年以上二十年未満女子ハ年齡十五年以上二十年未満ノ者但特別ノ事情アルトキハ二十年以上二十五  
年以下ノ者ヲ入學セシムルコトヲ得

○陸軍省令第六號

陸軍召募規則中左ノ通改正ス

明治三十一年三月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

本則中「醫科大學依託學生」ヲ「衛生部依託學生」同「依託生徒」ニ改ム  
目次中第七章ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第八章 軍樂學校生徒

第一條中「經理學校生徒」ノ下ニ「軍樂學校生徒」ヲ加フ

第四條中「砲兵工科學校生徒」ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

軍樂學校生徒

第五條中「左ノ如シ」ノ下ニ「但軍樂學校生徒ノ入學期日ハ其ノ時時告達ス」ヲ加フ

第二十八條第三十一條第三十七條中「監軍」ニ差出スヘシヲ「教育總監」ニ送付スヘシニ改ム

第三十條中「三月二十日迄」ニ「監軍部」ヲ「三月十日迄」ニ「教育總監部」ニ改ム

第三十二條第二項中「差出ストキ監軍」ニ「報告スヘシ」ヲ「送付スルトキ」之ヲ「教育總監」ニ通報スヘシニ改ム

第三十三條第六十條及第一號書式ノ二中「監軍」ヲ「教育總監」ニ改ム

第四十三條中「差出スヘシ」ノ下「但以下ヲ削ル

第五十七條中「其ノ一通ハ二月二十日迄」ニ「監軍」ニ差出シ他ノ一通ハ三月三十一日迄ニ師團長ニ差

出スヘシ」ヲ「二月二十日迄」ニ「其ノ一通ヲ教育總監」ニ他ノ一通ヲ師團長ニ差出スヘシ」ニ改ム

第六十二條中「差出スヘシ」ノ下「但以下ヲ削ル

第六十九條 衛生部依託學生、同依託生徒ノ要員ハ陸軍省醫務局長之ヲ帝國大學總長、高等學校長  
若クハ府縣立醫學校長ニ通牒シ志願者ヲ召募スルモノトス

第七十條 志願者ハ第八條ニ定ムル願書其ノ他ノ書類ヲ帝國大學總長若クハ當該學校長ヲ經テ  
陸軍省醫務局長ニ差出シ醫務局長ハ本人ノ學力品行等ヲ審查シ且聯隊區司令部附又ハ他ノ部隊  
附軍醫ノ身體檢査ヲ受ケシメ其ノ成績ニ依リ採用スヘキ者ト否トヲ定メ帝國大學總長若クハ當  
該學校長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ其ノ採用スヘキ者ニハ依託學生若クハ依託生徒ヲ命スヘシ

身體檢査ハ醫務局長豫メ聯隊區司令官又ハ部隊長ニ照會シ之ヲ行ハシムヘシ

第七十一條 依託學生ハ帝國大學、依託生徒ハ當該學校一般ノ規定ニ從ヒ修學セシム

第七十二條 依託學生及依託生徒修學中ハ情願ヲ以テ依託學生又ハ依託生徒ヲ辭スルヲ許サス其  
ノ成業ノ目途ナキ者及品行不正學業懈怠若クハ規則違犯等ノ故ヲ以テ帝國大學總長若クハ當該  
學校長ニ於テ退學ノ處分ヲ爲スヘキ者又ハ傷痍疾病ノ爲メ休學六箇月以上ニ至リ仍ホ治癒ノ見  
込ナキ者アルトキハ陸軍省醫務局長ハ帝國大學總長若クハ當該學校長ノ通知ヲ受ケ依託學生若  
クハ依託生徒ヲ免スヘシ

第七十三條 依託學生及依託生徒ニハ授業其ノ他一切ノ費用ニ充ツル爲メ左ノ金額ヲ支給ス

依託學生 月額金拾五圓

依託生徒 同 金拾圓

第七十四條 依託學生及依託生徒ノ身上其ノ他戶籍ニ異動ヲ生シタルトキハ本人若クハ保證人ヨ  
リ之ヲ陸軍省醫務局長ニ届出ヘシ

第七十五條 依託學生及依託生徒其ノ課程ヲ卒ヘ卒業試驗ヲ終リタルトキハ陸軍省醫務局長ハ帝  
國大學總長若クハ當該學校長ヨリ其ノ試驗成績等ニ關スル通知ヲ受ケ之ニ見習醫官又ハ見習藥



刑官ヲ命スヘシ

第九十七條第九十八條第九十九條中「監軍部」ヲ「教育總監部」ニ改ス

第一百條中「八」ヲ「九」ニ監軍部ヲ「教育總監部」ニ改ス

第一百九條中「六」ヲ「七」ニ改ス

第一百三十一條ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ

第八章 軍樂學校生徒

第一百二十二條 軍樂學校生徒召募ノ試驗格左ノ如シ

漢字交リ日本歴史又ハ日本地理書類(通讀)

作文 通俗文

數學 四則、比例

前項ノ外洋琴等ヲ指揮シテ二三音符ノ呂律ヲ判別セシメテ聽官ヲ檢シ又若干ノ口述試驗ヲ行フ

第一百二十三條 志願者ハ第八條ニ定ムル願書其ノ他ノ書類ヲ居住地ノ市町村長ニ差出シ市町村長

ハ之ヲ調査シ願書印シテ戶山學校長ニ送付スヘシ但志願者出願期日及市町村長ヨリ戶山學校

長ニ書類送付ノ期日ハ其ノ時時告示ス

第一百二十四條 檢査ハ左ノ二箇所ニ於テ軍樂學校長又ハ第四師團軍樂隊長之ヲ行フ

東京(陸軍戶山學校) 大阪(第四師團軍樂隊長)

第一百二十五條 戶山學校長ハ檢査期日ヲ定メ市町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ又試驗問題其ノ他

試驗ノ日時及方法ヲ定メテ之ニ檢査ヲ受クヘキ者ノ人名書ヲ添ヘ軍樂學校長及第四師團軍樂隊長

長ニ交付スヘシ

第一百二十六條 身體檢査ハ東京ニ在テハ戶山學校附軍醫之ヲ行ヒ大阪ニ在テハ檢査日時ヲ戶山學校

校長ヨリ第四師團軍醫部長ニ通知シ軍醫部長ハ聯隊區司令官又ハ他ノ部隊長ニ照會シ該部隊附

軍醫之ヲ行フモノトス

第一百二十七條 軍樂學校生徒ハ時ニ齒列正シク齶齒ナキ者ニアラサレハ採用セサルモノトス

第一百二十八條 軍樂學校長又ハ軍樂隊長ハ試驗ノ成績ニ依リ優劣ヲ定メ檢査書類ト共ニ之ヲ戶山

學校長ニ差出シ戶山學校長ハ之ヲ審查シ採用スヘキ者ト否トヲ定メ市町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ

通達シ其ノ採用スヘキ者ニハ入學ヲ命スヘシ

第一百二十九條 入學ヲ命セラレタル者ノ旅費日當ハ師團監督部ヨリ支給ス

第一百三十條 以下逐條條下ク

第一號書式ノ六ノ次ニ左ノ一書式ヲ加フ

第一號書式ノ七(用紙美濃自紙)

軍樂學校生徒願

陸軍出身志願ニ付軍樂學校生徒ニ御採用被成下度入學ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ醫ナ陸軍ニ從軍可仕候仍テ戶山學校長、歷歷

番相添ヘ身元保證人連署此段奉願候也

府(縣)郡(市)町(村)番地住

府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

身元保證人

府(縣)郡(市)町(村)番地住(寄留)

同

氏

氏

氏

氏

氏

氏

氏

氏

氏

氏

氏



追テ東京(大阪)ニ於テ受檢認定致候也  
前書之起調査候處相違無之候也

年月日

府縣郡市町村長 氏 名印

〔參照〕

- 陸軍省令第二十六號陸軍召集規則(明治二十九年十二月十九日)抄錄
- 第一條 本則ハ陸軍各兵科現役士官候補生、中央幼年學校生徒、地方幼年學校生徒、見習醫官、見習藥劑官、醫科大學依託學生、軍醫學校生徒、獸醫學校生徒、教導團生徒、要務砲兵射擊學校生徒、砲兵工科學校生徒、經理學校生徒召集ノ手續ヲ規定スルモノトス
- 第四條 志願者ノ年齢及身長左ノ如シ但年齢ハ入學又ハ入學ノ期月(昭和十一年三月三十一日迄ニ至ルモノ)ヲ以テ之ヲ算ス(左記略ス)
- 第五條 士官候補生其ノ他諸生徒ノ入隊又ハ入學期日左ノ如シ(左記略ス)
- 第二十八條 前條ノ志願者尋常中學全科卒業試驗ヲ終ルトキハ學校長ヨリ其ノ成績ヲ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ監軍ニ差出スヘシ
- 第三十條 志願者中願書差出後檢査場ノ變更ヲ望ム者ハ最初願出ノ手續ニ依リ其ノ變更ヲ願出ヘシ但其ノ願書三月二十日迄ニ監軍部ニ到達セサルモノハ採用セズ
- 第三十一條 師團長ハ郡市長及部隊長ヨリ差出シタル第二十五條及第二十六條ノ書類ヲ審查シ檢査場毎ニ區分シタル甲種書類ニシテ乙種書類ニシテ之ヲ二種ノ志願者人名簿ヲ製シ願書其ノ他ノ書類ト共ニ一月三十一日迄ニ監軍ニ差出スヘシ
- 第三十二條 師團長ハ甲檢査場最寄地方ノ志願者少數ナルトキハ乙檢査場ニ於テ檢査セシムルコトヲ得
- 第三十三條 師團長ハ將校生徒試驗臨時委員ヲ命ジ監軍ヨリ受領スル所ノ試驗問題等ヲ下付シ試驗ニ關スル必要ノ訓示ヲ與ヘ又志願者連名簿ヲ製シ身檢査主任ノ軍醫ニ下付スヘシ
- 第三十七條 將校生徒試驗臨時委員試驗ヲ終レハ其ノ答解書ヲ密封シ試驗ニ關スル一切ノ書類及寫真紙ト共ニ之ヲ師團長ニ差出シ師團長ハ之ヲ取題メ自己ノ意見ヲ附シ四月三十日迄ニ監軍ニ差出スヘシ
- 第四十三條 入學ヲ命ゼラレタル者ハ更ニ身元保證人ニ名ヲ定メ入學期日前ニ納金證書ヲ學校長ニ差出スヘシ但身元保證人中ノ一名ハ東京在住者タルヘシ
- 第五十七條 地方幼年學校長ハ郡市長ヨリ送付セシ前條ノ書類ヲ審查シ檢査場毎ニ區分シタル志願者人名簿ニ通テ製シ其ノ一通ハ二月二十日迄ニ監軍ニ差出シ他ノ一通ハ三月三十一日迄ニ師團長ニ差出スヘシ但師團長ニ差出スヘキ人名簿ハ

- 志願者召集ノ便ニ供スル爲メ其ノ居住地ヲ記入スヘシ
- 志願者中第五十五條第二項但書ニ該ル者アルトキハ本縣地方ノ幼年學校長ハ其ノ趣ヲ居住地地方ノ幼年學校長ニ通報シ該學校長ハ之ヲ檢査人員中ニ加入スヘシ
- 第六十條 地方幼年學校長ハ前條ノ試驗書類ヲ調査シ其ノ答解ニ評點ヲ附シ試驗成績表ヲ製シ試驗ニ關スル意見書ヲ添附シ五月三十日迄ニ監軍ニ差出スヘシ
- 第六十二條 入學ヲ命ゼラレタル者ハ第四十三條ニ準シ納金證書ヲ學校長ニ差出スヘシ但身元保證人中ノ一名ハ學校所在地居住者タルヘシ
- 第六十九條 醫科大學依託學生ノ補缺ハ陸軍省醫務局長之ヲ帝國大學總長ニ照會シ志願者ヲ召集スルモノトス
- 第七十條 志願者ハ第八條ニ定ムル願書其ノ他ノ書類ヲ帝國大學總長ヲ經テ陸軍省醫務局長ニ差出シ陸軍省醫務局長ハ本人ノ學力、身分、財產、性質、品行等ヲ審查シ且身檢査ヲ行ハシメ其ノ成績ニ依リ採用スヘキ者ト否トヲ定メ大學總長ヲ經テ之ヲ本人ニ通告シ其ノ採用スヘキ者ニハ依託學生ヲ命ジスヘシ
- 第七十一條 依託學生ハ大學一般ノ規定ニ從ヒ修學セシム
- 第七十二條 依託學生修學中ハ情願ヲ以テ依託學生ヲ辭スルヲ許サスト雖モ成業ノ目的ナキ者及品行不正學業懈怠若クハ規則違犯等ノ故ヲ以テ大學總長ニ於テ退學ノ處分ヲ爲スヘキ者アルトキハ陸軍省醫務局長ハ大學總長ノ通知ヲ受ケ依託學生ヲ免スヘシ
- 第七十三條 依託學生ニハ授業其ノ他一切ノ費用ニ充ツル爲メ毎月金拾貳圓ヲ給ス但大學ノ授業料ハ本人ヨリ同學ニ納ムルモノトス
- 第七十四條 依託學生戶籍上ニ異動ヲ生スルトキハ直ニ本人ヨリ陸軍省醫務局長ニ届出ヘシ
- 第七十五條 依託學生大學ノ課程ヲ卒ヘ卒業試驗ヲ終リタルトキハ陸軍省醫務局長ハ大學總長ヨリ其ノ試驗成績等ニ關スル通知ヲ受ケ之ニ見習醫官又ハ見習藥劑官ヲ命ジヘキモノトス
- 第九十七條 聯隊區司令官ハ前條ノ書類ヲ調査シ志願者ノ人員ヲ一月三十一日迄ニ師團司令部ヲ經テ監軍部ニ報告スヘシ
- 志願者中前條第二項ニ依リ他ノ聯隊區ニ於テ檢査ヲ受クヘキ者アルトキハ甲乙兩聯隊區司令官協議ノ上之ヲ許可スヘシ
- 第九十八條 聯隊區司令官ハ學科試驗前身體檢査ヲ結了スル如ク志願者ヲ召集シ軍醫ヲシテ身體檢査ヲ爲サシメ又監軍部ヨリ受領セシ試驗問題ニ依リ學科試驗ヲ行フヘシ
- 第九十九條 聯隊區司令官檢査ヲ終レハ學科試驗ノ答解ニ評點ヲ附シ試驗成績表ヲ調製シ之ニ志願者ヨリ差出シタル書類及志願者連名簿ヲ添テ派(答解書類ト共ニ三月三十一日迄ニ監軍部ニ差出スヘシ)
- 第一百一條 第九十八條ノ書類ハ監軍部ニ於テ之ヲ調査シ教導團及要務砲兵射擊學校ニ配當ス
- 第一百九條 前條ノ場合ニ於テ志願者ハ第八條ニ定ムル願書ヲ聯隊區司令官ニ差出シ聯隊區司令官ハ檢査期日ヲ定メ志願者ヲ召集シテ檢査ヲ行ヒ第一百十六條ノ例ニ準シ該書類ヲ經理學校長ニ送付スヘシ



○農商務省令第三號

明治三十年法律第四十八號生絲直輸出獎勵法施行細則左ノ通相定ム

明治三十一年三月三十日

農商務大臣男爵伊東巳代治

生絲直輸出獎勵法施行細則

- 第一條 生絲直輸出獎勵金ヲ受ケントスル者ハ離形第一號ノ請求書ヲ生絲検査所ニ差出スヘシ  
前項ノ請求書生絲検査所所在地ニ在ラサルトキハ其所在地ニ代理者ヲ置キ検査ヲ請求スヘシ
- 第二條 生絲ノ検査ハ左ノ方法ニ據リ之ヲ行フモノトス
  - 一 原量  
天秤ヲ以テ生絲一俵ノ全量ヲ檢シタル後風袋其他附屬物ノ重量ヲ秤リ之ヲ控除シタルモノ  
ヲ生絲ノ原量トス
  - 二 色澤  
肉眼査定ニ據ル
  - 三 再練  
生絲一俵中ヨリ五本ヲ採リ之ヲ再練器ニ掛ケ生絲ノ細太ニ應シ一分時間四十回内外ノ速力  
ヲ以テ二時間繰返シ絲條ノ切斷數ヲ定ム
  - 四 細度  
生絲一俵中ヨリ五本ヲ採リ一本毎ニ長サ五百「メートル」ヲ、四口ヲ採リ其一口毎ニ「グラ  
ム」ヲ以テ原量ヲ秤リ之ヲ舊式細度四百七十六「メートル」ニ對スル「デニール」ニ換算シ其最  
大最小兩數ヲ以テ細度ノ差ヲ定ム
  - 五 額節  
生絲一俵中ヨリ五本ヲ採リ檢額器ニ掛ケ一本毎ニ五百「メートル」ニ對スル額節ノ數ヲ檢シ  
其平均ヲ以テ額節ノ數ヲ定ム

- 第三條 前條ノ検査ヲ經タル生絲ハ再ヒ其検査ヲ受クルコトヲ得ス
- 第四條 生絲検査所ハ検査合格ノ生絲一俵毎ニ離形第二號ノ検査合格證正副二通ヲ検査請求者ニ  
交付ス
- 第五條 生絲検査所ハ前條ノ生絲ニ對シ所員立會ノ上検査請求者ヲシテ一俵毎ニ荷造ヲ爲サシメ  
検査合格證一通ヲ封入セシメ當該検査所名、検査番號及合格等級ヲ記シ封印ヲ施スモノトス  
前項荷造ニ係ル費用ハ検査請求者ノ負擔トス
- 第六條 第五條ノ手續ヲ經タル生絲ニシテ直輸出前其封印ヲ破毀シタルトキハ検査合格ノ資格ナ  
キモノトス
- 第七條 検査合格證アル生絲ヲ直輸出セントスル者ハ其検査合格證ノ裏面ニ自己ノ住所氏名ヲ記  
シ封印ノ上其送狀ト共ニ輸出地帝國稅關ニ差出スヘシ
- 第八條 帝國稅關ハ前條ノ裏書アル検査合格證ト其貨物ヲ照合シ一回ノ輸出額五百斤以上(検査  
番號同一ナルモノ)ナルトキハ検査合格證ニ其輸出手數濟年月日ヲ記入シ證印ヲ押捺シテ之ヲ  
請求者ニ交付スルモノトス
- 第九條 獎勵金ノ下付ヲ請求セントスル者ハ離形第三號ノ請求書ニ前條ノ手續ヲ經タル検査合格  
證及外國仕向港ニ陸揚ノ證明書ヲ添ヘ農商務大臣ニ申請スヘシ
- 第十條 前條ノ申請期限ハ生絲ヲ直輸出シタル日ヨリ百八十日以内トス
- 第十一條 生絲直輸出者委託販賣ヲ爲ストキハ其受託者ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ  
株主トスル商會社ニ限ルモノトス
- 第十二條 本則ニハ明治二十九年農商務省令第三號生絲検査所法施行細則第四條(但書ヲ)第七條
- 第十三條 第十四條 第十五條ヲ適用ス
- 第一號 直輸出生絲検査請求書
- 請求者商會社ナルトキハ榮務檢登ノ任  
直輸出生絲検査請求書
- 請求者商會社ナルトキハ榮務檢登ノ任  
社員若ハ取締役ノ署名印ヲ要ス
- 一、生絲ノ種類、數量

- 第十三條 第十四條 第十五條ヲ適用ス
- 第一號 直輸出生絲検査請求書
- 請求者商會社ナルトキハ榮務檢登ノ任  
直輸出生絲検査請求書
- 請求者商會社ナルトキハ榮務檢登ノ任  
社員若ハ取締役ノ署名印ヲ要ス
- 一、生絲ノ種類、數量



- 二、生產地名(縣、市、町、村、番地)
  - 三、商標ノ登録番號及其ノ稱呼
  - 四、生絲ノ種類若ハ番號
- 隨記ノ生絲抽者(本社)所有ニ有之直輸出致度ニ付御検査相成度此段請求候也

明治 年 月 日

第二號 直輸出生絲検査合格證  
 横濱(神戸)生絲検査所長宛

何國何州何市何番地

氏 名 印

面 表

**帝國日本生絲検査所**  
 直輸出生絲検査合格證  
 (明治三十年四月法律第四十八號)

生絲所有者  
 生絲ノ種別  
 商標ノ登録番號(又ハ稱呼)  
 生產地名

結 要	正式検査五百	検査四百七十六
	1トニ1ニ對スル (モリチケラム)	1トニ1ニ對スル スル、ゴニ1ト
原量	斤	
色澤	純清一	
切斷ノ數(至本機)	同	
縮度ノ差	(%)	
頭節ノ數(至本機)	顆	
生絲検査所印	合格印	
検査番號	第 號	
證書下付月日	明治 年 月 日	

面 裏

<p>生絲直輸出者  <small>(若シハ委託販賣者トシテ生絲直輸出者トシテ)</small></p> <p>縣 府 市 町 村 番地</p> <p>氏 名 印</p>	<p>帝國稅關檢證</p> <p>明治 年 月 日 輸出手數済</p>
<p>受托販賣者</p> <p>縣 府 市 町 村 番地</p> <p>氏 名 印</p>	<p>輸出地稅                  關 印</p>

第三號 生絲直輸出獎勵金請求書  
 生絲直輸出獎勵金請求書  
 一、金何圓何拾錢也  
 二、生絲何斤ニ對スル獎勵金

- 內 詳
- 甲、第何號(何枚生絲何斤ニ對スル獎勵金)
  - 乙、第何號(同)
  - 丙、第何號(同)
- 金何圓何拾錢也  
 金何圓何拾錢也  
 金何圓何拾錢也
- (何枚生絲何斤ニ對スル獎勵金)







一 小學校教員檢定等ニ關スル規則ニ依リ乙種檢定ヲ受クル者其ノ試験ニ合格セサルモ一部ノ成績  
 佳良ナルトキハ其ノ部分ニ對シ三箇年間有效ノ證明書ヲ授與シ其ノ有効期間ニ於テ更ニ檢定ヲ  
 出願スルトキハ證明書ニ記載シタル部分ノ試験ヲ缺クコトヲ得

〔参照〕

文部省令第九號(明治二十七年三月五日)抄録  
 第三項

一 小學校教員檢定等ニ關スル規則ニ依リ乙種檢定ヲ受クル者其ノ試験ニ合格セサルモ一部ノ成績優等ナルトキハ其ノ部分  
 ニ限リ次回ノ檢定期ニ於テ試験ヲ缺クコトヲ得

○司法省令第四號

大津地方裁判所管内彦根區裁判所管轄犬上郡東甲良村ヲ同區裁判所多賀出張所ノ管轄ニ改メ鹿兒  
 島地方裁判所管内加治木區裁判所屬分出張所管轄始良郡西國分村大字小濱ヲ同區裁判所管轄ニ改  
 メ登記管轄區域表中左ノ通改正ス

明治三十一年四月九日

司法大臣曾禰荒助

鹿兒島	加治木	國分	大濱	大上郡ノ内	彦根町	南青柳村	北青柳村	松原村	磯田村	福浦村	青波村
		大濱	大濱	近江	近江	近江	近江	近江	近江	近江	近江
		給良郡ノ内	給良郡ノ内	給良郡ノ内	給良郡ノ内	給良郡ノ内	給良郡ノ内	給良郡ノ内	給良郡ノ内	給良郡ノ内	給良郡ノ内
		東國分村大字	西國分村大字	東國分村大字	西國分村大字	東國分村大字	西國分村大字	東國分村大字	西國分村大字	東國分村大字	西國分村大字

○陸軍省令第七號

明治二十三年陸軍省令第十號陸軍給與令細則旅費ノ部中左ノ通改正ス

明治三十一年四月十四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第十六條 陸地測量及修技所生徒測量修業ノ爲メ出張セシムル者ハ左ノ各項ニ依リ乙表ノ旅費ヲ  
 給ス其北海道内旅行ニシテ旅次日當ニ限リ又ハ作業日當ヲ支給スル場合ハ庚表ノ區分ニ依  
 リ日當ヲ加給ス但時宜ニ依リ該定額内ヲ以テ實費支給スルコトヲ得

- 測量班ヲ設ケサル地方ヘ測量ノ爲メ出張ノ者モ亦本條ニ準シ旅費ヲ給ス
- 一 在職ノ地ヨリ測量班ノ地區ニ至ル往返及測量班ノ地區分割セルトキ甲地區内ヨリ乙地區内  
 ニ轉スルノ旅行ハ一日行程汽車路二百哩海路百海里陸路十二里ヲ以テ算出シタル日數ニ應  
 シ乙表ノ旅次日當ヲ給ス其一日未滿ノ行程ハ時間十二時ヲニ改算シ一時間未滿ハ給セス七  
 時間未滿ハ半額七時間以上ハ全額ヲ給ス但在職地ヨリ陸路三里未滿ハ各種ノ路程ニ跨ルトキ  
 ノ地ニ至ル旅行ニハ旅費ヲ給セス若シ船舶ニアラサレハ到リ難キ地ニアリテハ一海里以上  
 ハ實費ヲ給ス
  - 二 測量地到着翌日ヨリ其地引揚ケ前日迄ハ其日數ニ應シ又前項但書ノ場合ニ在テ宿泊セシム  
 ルトキハ宿泊費ニ應シ及甲地區内ヨリ乙地區内ニ轉スルトキ一日行程ニ滿タサル場合ニハ  
 前項ニ依ラス作業日當ヲ給ス
  - 三 陸地測量ノ爲メ備夫ヲ出張セシムルトキハ總テ乙表ノ區分ニ依リ出發當日ヨリ歸著當日迄  
 日數ニ應シ日當ヲ給シ舟車馬ニテ旅行セシムルトキハ實費ヲ給ス但第一項但書ノ場合ニ於  
 ケル日當ハ宿泊費ニ應シ支給スルモノトス
  - 四 出張中事故ニ依リ滞在スルトキハ乙表ノ區分ニ依リ滞在日當ヲ支給ス



第十八條但書中「依リ」ヲ「依ル」ニ改メ又以下ヲ削リ左ノ一項ヲ加フ  
 郵便線路圖ニ掲ケサル里程ハ地方官衙若クハ公署ノ證明セル里程ニ依ル但豫メ地方官衙ノ證明  
 ニ基ケル里程表ヲ編製シ之ニ依リ計算スルコトヲ得

乙表

名 稱	旅大日當	作 業		測 量 係	測 量 係	測 量 係	測 量 係	測 量 係	測 量 係
		檢査係	測 量 係						
少佐或相當測量師	七	三	四	二	二	二	二	二	二
大尉或相當測量師	五	三	三	二	二	二	二	二	二
中少尉或相當測量師	五	三	三	二	二	二	二	二	二
准 士	三	二	二	二	二	二	二	二	二
下士或相當測量師	三	二	二	二	二	二	二	二	二
月給十二圓以上履員	三	二	二	二	二	二	二	二	二
月給十二圓未満履員	三	二	二	二	二	二	二	二	二
修 技 所 生 徒	三	二	二	二	二	二	二	二	二
測 量 備 夫	三	二	二	二	二	二	二	二	二

- 一 心得勤ノ者及班長代理ノ者作業日當ハ其當額ノ金額ヲ給ス(代理條例ニ依リ代理スル者ハ此限ニアラス)
- 二 陸地測量手ニシテ檢査係及測點係代理ノ者作業日當ハ一圓七十錢ヲ給ス(代理條例ニ依リ代理スル者ハ此限ニアラス)
- 三 修技所教官及助教ハ其官等ニ應ジ教官ハ檢査係助教ハ檢査係代理ノ金額ヲ給ス
- 四 測量班ヲ設ケサル地方ノ測量ノ爲メ出張スルモノニハ其官等ニ應ジ測量係ノ金額ヲ給ス
- 五 日給履員ヲ出張セシムルモノハ日給三十日分ヲ月給トナシ本表月給履員ニ準シ旅費ヲ給ス
- 六 表中一二等アルモノハ卒業上奔走ノ程度ヲ量リ所屬長官其一等若クハ二等ヲ定ムヘシ但測量班ヲ設ケサル地方へ出張ノ者ハ二等ノ金額トス

庚表

名 稱	旅大日當	作 業		測 量 係	測 量 係	測 量 係	測 量 係	測 量 係	測 量 係
		檢査係	測 量 係						
少佐或相當測量師	七	三	四	二	二	二	二	二	二
大尉或相當測量師	五	三	三	二	二	二	二	二	二
中少尉或相當測量師	五	三	三	二	二	二	二	二	二
准 士	三	二	二	二	二	二	二	二	二
下士或相當測量師	三	二	二	二	二	二	二	二	二
月給十二圓以上履員	三	二	二	二	二	二	二	二	二
月給十二圓未満履員	三	二	二	二	二	二	二	二	二
修技所生徒	三	二	二	二	二	二	二	二	二
測量備夫	三	二	二	二	二	二	二	二	二

一陸地測量手ニシテ檢査係及測點係代理ノ者毎年十一月ヨリ翌年三月迄作業日當支給ノトキハ七十錢ヲ加給ス  
 此他總テ乙表備考一、三、四、五、六ノ各項ニ準シ加給ス

(參照)

陸軍省令第十號陸軍給與令細則第九章旅費(明治二十三年四月一日抄録)  
 第十六條 陸地測量及修技所生徒測量修業ノ爲メ出張セシムル者ハ左ノ各項ニ依リ乙表ノ旅費ヲ給ス其北海道内ノ旅行ニシテ甲類若クハ乙類ヲ支給スル場合ニ在テハ毎年十一月ヨリ翌年三月マテノ五箇月間ハ庚表ノ金額ヲ加給ス但時宜ニ依リ該定額内ヲ以テ實費支辨スルコトヲ得  
 測量班ヲ設ケサル要塞堡壘砲臺地ニ關シ測量ノ爲メ出張ノ者モ亦本條ニ準シ旅費ヲ給ス  
 一 在職ノ地ヨリ測量地ニ在ル土地ヲ云フニ到ル往返及測量地數班ニ分割シタルトキ甲班ヨリ乙班ニ轉スル旅行ハ陸路十二里毎ニ甲類ヲ給ス十二里以上ノ端里數一里未満ハ給セス一里以上七里未満ハ半額七里以上八全額トス但海路ニ非ラザレハ至リ難キ地方ハ之ヲ陸路ニ改算スヘシ  
 二 測量地到着翌日ヨリ其地引揚ケ前日迄其日數ニ應ジテ乙類ヲ給ス  
 三 旅中傷疾疾病又ハ船待川留留支等ニ依リ滞在スルトキハ丙類ヲ給ス



- 四 在職ノ地ヲ距ル陸路六里未満ノ地域内ニ在テハ旅費ヲ給セス事業ノ都合ニ依リ宿泊セシムルトキハ其宿泊費ニ應ジ乙額ヲ給ス
- 五 檢査掛及測量掛ノ乙額ハ事業上奔走ノ多少ニ依テ測量部長其一等若クハ二等ノ金額ヲ給スルモノトス
- 六 心得勤ノ者及代理勤ノ者ハ乙額ニ限リ乙表第一項乃至第四項ノ金額ヲ給ス但一時不在ノ爲メ代理條例ニ依リテ代理スル者ハ此限ニ非ラス
- 七 陸地測量ノ爲メ健夫ヲ出張セシムルトキハ出張當日ヨリ隨着當日マテ日數ニ應ジ旅費ヲ給ス其甲額ノ等級區分ハ事業上奔走ノ多少ニ依リ測量部長之ヲ定ム若シ舟車馬ニテ旅行ヲ命ジタルトキハ其買費ヲ支給ス但作業又ハ陸路ニ里以上ノ旅行ヲ爲サハルトキ並ニ傷寒疾病又ハ船待川留等支等ニ依リ滞在スルトキハ乙額ヲ給ス
- 第十八條 差遣巡回出張及赴任歸郷旅行ノ経路ハ陸軍里程表ニ依ルモノトス但陸軍里程表ニ掲ケサル地ニ在テハ總テ郵便線路圖ニ依リスルモノトス又陸路ニ掲ケサル里程ハ地方官衙若クハ公署ノ證明セル里程ニ依ル

○陸軍省令第八號

明治三十一年陸軍省令第三號中左ノ一項ヲ追加ス

明治三十一年四月十六日

陸軍大臣子爵桂 太郎

九 北海道ニ在テ一徵募區ニ二箇所以上徵兵署ヲ設ケントスルトキ一箇所ニ召集スヘキ壯丁ノ數ハ徵兵事務條例施行細則第四條第二項ノ例ニ依ラサルコトヲ得

〔參照〕

明治三十一年三月十日 陸軍省令第三號ハ徵兵事務條例施行細則中北海道及沖繩縣並ニ小笠原島ニ施行シ難キ條件取扱方ナ

○大藏省令第四號

明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程中第十九條ヲ左ノ通改メ第九號書式ヲ削ル

明治三十一年四月二十三日

大藏大臣伯爵井上 馨

第十九條 官廳又ハ權利者ニ於テ寄托シタル有價證券ニ屬スル利子ノ渡期ニ至リ之カ利札ノ交付ヲ受ケントスルトキハ第十號書式ノ領收證書ヲ金庫ヘ差出スヘシ

金庫ハ前項ノ領收證書ト引換ニ利札ヲ交付スヘシ

〔參照〕

大藏省令第二十號保管物取扱規程(明治二十六年九月二十日)抄錄

第十九條 官廳又ハ權利者ニ於テ其寄托シタル有價證券ニ屬スル利子ノ渡期ニ至リ之カ利札ノ交付ヲ請求セントスルトキハ第九號書式ノ請求書ヲ金庫ヘ差出スヘシ

金庫ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ第十號書式ノ領收證書ヲ發シ之ト引換ニ利札ヲ交付スヘシ

○大藏省令第五號

明治二十九年三月法律第三十五號葉煙草專賣法第十八條ニ依リ當該官吏葉煙草耕作地及貯藏所其ノ他所在ノ場所ヲ檢査スルトキハ左ノ様式ノ檢査證書ヲ攜帶スヘシ

明治三十一年四月二十三日

大藏大臣伯爵井上 馨

用紙原紙 縦二寸五分 横一寸五分

表 檢 査 證 書 <div style="border: 1px solid black; width: 50px; margin: 0 auto; padding: 2px;">           大 藏 省 印         </div>	裏 「何」葉煙草專賣所 「官 氏 名」
--	---------------------------

○海軍省令第三號

海軍志願兵徵募細則左ノ通改正ス

明治三十一年四月二十七日

海軍大臣侯爵西鄉從道



海軍志願兵徵募規則

- 第一條 海軍志願兵ハ須用ニ應シ各鎮守府ヲシテ本則ニ依リ徵募セシム但シ軍樂生ハ營分ノ内積須資鎮守府ニ於テ徵募ス
- 第二條 海軍志願兵ノ徵募數額及其ノ入團期日ハ海軍大臣之ヲ鎮守府司令長官ニ告達ス  
鎮守府司令長官前項ノ告達ヲ受ケタルトキハ志願人員表移牒期日ヲ定メ其ノ期日及志願兵徵募數額ヲ地方長官ニ通知ス
- 第三條 地方長官前條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ海軍志願兵徵募規則第四條ノ年齡ニ適スル者ヲ出願セシメ島司郡市長ヲシテ之ヲ調査セシメ島郡市及兵種ヲ區別シ志願人員表ヲ作り検査場所ヲ定メ移牒期日迄ニ之ヲ海軍志願兵徵募區ヲ管スル鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ  
島司郡市長ハ志願者ヲ調査スルニ當リ海軍志願兵徵募規則第五條ニ觸ル、者ナキヤ否ヤヲ審査スヘシ
- 第四條 徵兵令ニ依リ兵役ニ服スヘキ者第二補充兵若ハ海軍補充兵ニ編入セラレタルトキハ海軍志願兵タルコトヲ得
- 第五條 海軍志願兵徵募區ハ左表ニ依ル
- 第六條 鎮守府司令長官ハ海軍兵志願者検査ノ爲必要ニ應シ海兵團徵募官及軍醫官ヲ派出シ左ノ諸員ヲ隨行セシム
 

筆記	一名
看護手	二名
卒	一名

 軍醫官以下諸員ハ徵募官ノ指揮ヲ受ケ服務ス  
軍醫官ハ海兵團勤務ノ者ニ限ラス鎮守府管内勤務中ノ者ヨリ選定派出セシムルコトヲ得

第七條 地方長官ハ徵募官ノ巡迴ニ先テ海軍兵役志願人検査所ヲ設ケ島司郡市長ニ達シ検査ノ準備ヲ爲サシムヘシ

第八條 地方長官島司郡市長ハ徵募官ノ巡迴ニ際シ屬書記ヲ派出シ徵募ノ事務ヲ補助セシムヘシ  
地方長官ハ豫メ志願者人名簿ヲ整頓シ置キ徵募官巡迴ニ際シ屬官ヲシテ之ヲ徵募官ニ出サシムヘシ

第九條 海軍兵役志願人検査所ハ一地方應管轄地ノ廣狹及志願人ノ多少ニ依リ検査ニ便ナル場所ヲ選ミ概ネ一郡市ニ一箇所ヲ設クヘシ  
志願人十名ニ滿タサル郡市及一地方管轄地ヲ通シ十名ニ滿タサル地方ニ在テハ検査所ヲ設ケス便宜ノ検査所ニ集メ検査ヲ施行ス但シ地形ニ依リ召集ニ便ナラサルトキハ地方長官ハ鎮守府司令長官ノ承認ヲ得特ニ検査所ヲ設ケルコトヲ得

第十條 徵募官ハ地方長官ニ協議シ検査所巡迴日割及毎日検査ヲ行フヘキ人員ヲ定メ島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ検査ノ日時及集合スヘキ検査所ヲ豫メ志願人ニ達スヘシ

第十一條 島司郡市長ハ徵募官ノ巡迴日割ニ依リ志願人ノ検査ヲ受クヘキ日限及順序ヲ定メ志願人ニ告知シ其ノ當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願人ヲ引纏メ検査所ニ出頭セシムヘシ  
島司郡市長ハ検査ノ日検査所ニ出席スヘシ  
検査呼出ニ際シ疾病又ハ事故ニ依リ出頭シ難キ者アルモ之カ爲ニ日時ヲ遷延シ更ニ検査所ヲ開クコトナレ但シ甲地志願人乙地検査所ニ至リ検査ヲ願フ者ハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十二條 徵募官軍醫官ハ検査所ニ於テ志願人ノ身體ヲ検査シ合格不合格ヲ定ムヘシ

第十三條 志願人身幹左ノ定尺ニ達シ身體完全強健精神異狀ナキ者ヲ身體検査合格トシ否ラサル者ヲ不合格トス



- 一 水兵、機關兵、看護志願者ニ在テハ五尺二寸
- 二 軍樂生志願者ハ齒列齊正ニシテ十五年以上ニ在テハ五尺十五寸未滿ニ在テハ四尺八寸
- 三 木工、鍛冶、主厨志願者ニ在テハ五尺
- 第十四條 志願人ノ身體検査合格者ヲ甲乙ノ二種ニ分チ先ツ甲種合格者ヲ採用シ次ニ乙種合格者ニ及ハヌモノトス
- 第十五條 木工、鍛冶ニ志願ノ者ハ一箇年以上該職業ニ服セシ者ニ限り採用ス其ノ證明書ハ市町村長ヨリ巡迴ノ徵募官ニ出スヘシ
- 第十六條 軍樂生、看護志願ノ者ハ身體検査ニ合格スト雖讀書、作文、算術ノ試験ニ合格セザレハ採用セズ
- 讀書ハ平易ナル漢字交リ文、作文ハ通俗文、算術ハ四則ヲ解シ得ルヲ以テ程度トス
- 第十七條 身體ノ検査及讀書作文算術ノ試験ニ合格スト雖他ノ原因ニ依リ徵募官ニ於テ海軍兵ニ適セサル者ト認ムルトキハ採用セサルコトアルヘシ
- 第十八條 徵募官ハ一検査所ノ検査ヲ了リタル後其ノ合格ノ者ニハ島司都市長ヲ經テ合格證書ヲ附與ス
- 合格證書ヲ附與セラレタル者採用以前ニ在テ轉籍、死亡、逃亡、公權停止、廢疾不具等身上ニ異動ヲ生シタル者アルトキハ島司都市長ハ地方廳ヲ經由シ速ニ其ノ人名及異動ノ事項轉籍者ハ其ノ轉籍地ヲ併記スヘシヲ當該海兵團長ニ通知スヘシ但シ轉籍者ニ在テハ同時ニ其ノ旨ヲ轉籍地ノ島司都市長ニ通知スヘシ
- 海兵團長他鎮守府徵募區ニ轉籍セシ者ノ通知ヲ受ケタルトキハ徵募官ヲシテ其ノ兵種及検査成績ヲ轉籍地ノ海兵團徵募官ニ通知セシムヘシ
- 第十九條 徵募官ハ徵募區内各府縣志願人ノ検査ヲ了ルトキハ前條ノ異動人員ヲ加除シ志願兵檢

- 查總人員表ヲ作り海兵團長ヲ經由シ鎮守府司令長官ニ進達スヘシ
- 第二十條 鎮守府司令長官ハ合格者ノ數ヲ率トシ比例ヲ以テ採用スヘキ人員ヲ各地方ニ配當シ海兵團長ヲシテ採用證書ヲ地方長官ニ送付シ且入團期日ヲ通知セシムヘシ但シ所管徵募區ニ於テ合格者ノ數所要ノ兵員ニ充テサルトキハ他鎮守府司令長官ニ協議シ補充スルコトヲ得其ノ採用證書送付方及入團期日通知等ノ手續ハ補充ヲ要スヘキ鎮守府所屬ノ海兵團長ヲシテ爲サシムルモノトス
- 鎮守府司令長官ハ前項ノ配當人員表ヲ作り第十九條ノ志願兵検査總人員表ト共ニ海軍省ニ送付スヘシ
- 第二十一條 地方長官採用證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ島司都市長ヲシテ之ヲ各自ニ附與シ誓約書ヲ出サシムヘシ
- 第二十二條 地方長官前條ノ手續ヲ了リタルトキハ徵募兵員ヲ便宜ノ場所ニ集メ屬官又ハ郡市町村吏員ヲ附シ入團地ニ至ル期日ヲ計リ出發セシムヘシ但シ五人未滿ナルトキハ單行セシムルコトヲ得
- 第二十三條 兵員入團ニ際シ疾病又ハ事故ニ依リ入團ノ延期ヲ願フ者アルトキハ海兵團長ニ於テ二十日以内ノ延期ヲ許スコトアルヘシ
- 兵員入團スルトキハ直ニ身體検査ヲ施行ス此ノ検査ニ於テ到底海軍兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ之ヲ採用ヲ取消シ旅費ヲ給シテ歸郷セシメ海兵團長ヨリ之ヲ地方長官ニ通知シ之ト同時ニ本人ノ戶籍明細書及誓約書ヲ市町村長ニ返付スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ更ニ補缺員ヲ同府縣内同兵種ノ合格者ヨリ徵募スルモノトス但シ同府縣内ニ於テ徵募スルコト能ハサルトキハ同鎮守府徵募區内ヨリ補フコト能ハサルトキハ他鎮守府司令長官ハ協議シ其ノ徵募區内ヨリ補フコトヲ得



補缺徵募兵員ノ採用證書送付方及入團期日ノ通知其ノ他ノ手續ハ一般ノ徵募兵員ニ準ス

第二十四條 地方長官ハ市町村長ヲシテ採用セラレタル者ノ戶籍明細書ヲ作ラシメ第二十一條ノ誓約書ト共ニ海兵團長ニ送付スヘシ

第二十五條 附添人旅費並ニ徵募兵員各自居住ノ地ヨリ入團迄ノ旅費ハ一般徵兵ノ定則ニ依リ官給ス但シ検査所ヘ往復ノ費用並ニ検査ヲ受クル爲ニ滞在ノ費用ハ自辨トス

第二十六條 本規則中市町村長ノ職務ハ市町村制ヲ施行セサル地ニ在テハ區長戶長又ハ之ニ相當スル吏員之ヲ行ヒ又市長ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ在テハ區長之ヲ行フ

本規則中郡長ノ職務ハ北海道其他郡長ヲ置カサル地ニ在テハ之ニ相當スル官吏之ヲ行フ

第二十七條 志願人員表(第一式)合格證書(第二式)採用證書(第三式)誓約書(第四式)戶籍明細書(第五式)ハ各其ノ様式ニ從ヒ調製ス

附則

第二十八條 本則ハ明治三十一年五月一日ヨリ施行ス

海軍志願兵	所管領守府	府	縣	名
第一	横須賀鎮守府	北海道	釧路川	新瀉 埼玉 群馬 千葉
第二	吳鎮守府	茨城	栃木	三重 愛知 靜岡 山梨 岐阜 富山 石川
第三	佐世保鎮守府	長野	宮城	福島 山形 秋田
		東京	大坂	兵庫 奈良 和歌山
		京都	大阪	兵庫 奈良 和歌山
		神戶	愛知	高知 廣島 山口
		長崎	熊本	宮崎 鹿兒島
		福岡	大分	佐賀 熊本 宮崎 鹿兒島
合計				

様式第一 海軍兵志願人員表(用紙英通紙)

何府縣海軍兵志願人員表

口兵	水兵	軍樂生	木工	機關兵	鍛冶	看護	主厨	記	事
合計									

様式第二 合格證書(用紙程村ハツ切)

第何海軍志願兵徵募區  
府(縣)市(町)村(庄)  
氏 名  
何海兵團徵募官 氏 名 印  
明治 年 月 日

心得

一 此證書ハ海軍志願兵ノ體格検査ヲ受ケ合格シタル者ニ附與ス

二 此證書ヲ受ケタル者ハ體格ニ於テ帝國海軍軍人タル資格ヲ有スルモノトス

三 此證書ハ海軍志願兵入團期日迄效力ヲ有ス

四 此證書ヲ附與セラレタル者ハ凡テ合格者ナルモ其ノ優等ナルヲ甲種トシ之ニ次ク乙種トス

五 海軍兵ニ採用サルヘキ順序ハ甲種ヨリ乙種ニ及フヘキモノトス

六 海軍兵ニ採用サレ入團スルトキハ此證書及採用證書ヲ携帶スヘシ

七 海軍兵ニ採用サレ入團スルトキハ再ヒ體格検査ヲ受ケ不合格ノ者ハ採用ヲ取消スカ故ニ之カ爲自己ノ志望ヲ送ル能ハサルコトアリ之レ等ハ多ク自己ノ攝生定マラサルト採行不良ナルトニ依リ生シタル結果ニシテ不面日此上ナキコトナルカ故ニ此證書ヲ受領シタル後ハ彌々其ノ攝生ト操行トヲ慎ミ健康ヲ害セサル様心懸クヘシ











扶助金額	金壹圓八拾五錢 金八拾五錢
新募入管年月日	明治何年何月何日
再服役年月日	明治何年何月何日許可ヲ得何年何月何日ヨリ再服役
本籍地名	何府縣何々
家族人名	「實父某」 「長男某」 「實母某」 「何々々」 「妻某」 「何々々」
扶助金受領者 人名及其居所	「戶主某」 「何府縣何々」 海軍
家族現職及職記事	
扶助金支給停止ニ係ル記事	「何年何月何日逃亡何日歸還」
考欄	

○逓信省令第六號  
 明治三十年十二月 逓信省令第三十一號電話交換規則中左ノ通改正ス  
 明治三十一年四月二十九日 逓信大臣文學博士男爵末松謙澄  
 第十四條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス  
 前二項ノ規定ハ加入申込ノ讓渡又ハ繼承ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第十五條 第六條但書ニ據リ電話機ノ設置ヲ許可シタル加入申込ヲ他人ニ讓渡ストキハ其許可ヲ取消スヘシ但其既ニ設置セルモノハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十六條中「加入」トアルヲ「加入申込又ハ加入」ト改正  
 第四十二條中「同一ノ電話交換局ニ加入申込ヲ爲スヲ得ス」トアルヲ「同一ノ電話交換局ニ加入申込又ハ加入ヲ爲スヲ得ス」ト改正

〔参照〕

逓信省令第三十一號電話交換規則(明治三十年十二月一日)抄録  
 第十四條 加入者自己ノ加入ヲ他人ニ讓渡サントスルトキハ當事者ノ連署シタル請求書(第十條)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ加入者死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テ其加入ヲ繼承セムトスル者ハ其相續人又ハ管理人タルノ證明書ヲ添ヘ其請求書(第十條)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ  
 第十五條 第六條但書ニ據リ開通シタル電話加入ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス  
 第十六條 電話加入ノ讓受人又ハ繼承人ハ其加入ニ關スル權利義務ヲ繼承ス  
 第四十二條 前條ニ據リ加入ヨリ除名セラレタル者ハ其除名ノ日ヨリ滿一年ヲ經過スルニアラサレハ再々同一ノ電話交換局ニ加入申込ヲ爲スヲ得ス



○逓信省令第七號

明治三十一年五月十一日 逓信省令第二十三號郵便貯金條例施行細則中左ノ通改正シ明治三十一年六月一日ヨリ施行ス

明治三十一年五月三日

逓信大臣文學博士男爵末松謙澄

第二十條ノ次ニ左ノ三條ヲ加ヘ之ヲ第二十一條第二十二條第二十三條トシ以下順次繰下ク  
第二十一條 貯金預ケ人ハ貯金圓位以上ノ幾分拂戻ニ限リ電報拂戻ヲ請求スルコトヲ得

但其拂戻金ノ拂渡ハ請求書經由ノ局ニ限ル

前項ノ場合ニ於テハ郵便切手ヲ以テ手数料金三十二錢ヲ納付シ且ツ第十四條ノ規定ニ依ルノ外  
尙請求書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十二條 前條ノ請求アリタルトキハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ拂戻證書ヲ發行セ  
ス左ノ例ニ依リ電報ヲ以テ拂戻許可ノ旨ヲ請求書經由局及請求人ニ通知スヘシ

但郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ拂戻施行上特ニ調査ヲ要スルトキハ其旨ヲ請求人ニ  
通知シ通常拂戻ノ手續ヲ爲スコトアルヘシ此場合ニ於テハ郵便切手ヲ以テ先ニ納付シタル手  
敷料ヲ還付ス

電報例

SS(11111111)キヨカス

第二十三條 貯金拂戻請求人前條ノ電報ヲ受ケタルトキハ其電報送達紙ヲ拂渡局ニ差出シ尙通帳  
受取證書ヲ提供シ同局ヨリ交付スル拂戻證書ニ記名關印ノ上拂戻金ノ拂渡ヲ受クヘシ

○内務省令第五號

北海道廳鐵道書記試驗規則左ノ通定

明治三十一年五月十八日

内務大臣子爵芳川顯正



北海道廳鐵道書記試驗規則

- 第一條 北海道廳鐵道書記ノ試験ハ北海道廳長官又ハ其ノ委任ヲ受ケタル北海道廳事務官之ヲ行フ
- 第二條 試験ヲ行フヘキ期日及場所ハ豫メ官報及試験施行地ノ新聞紙ニ公告スヘシ
- 第三條 年齢二十年以上ノ男子ニシテ一箇年以上鐵道ノ業務ニ從事シ徵兵ニ相當セス且左ノ諸號ノ一ニ該當セサル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得
  - 一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
  - 二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
  - 三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 第四條 試験ヲ受ケント欲スル者ハ願書ヲ北海道廳長官ニ差出シ手数料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ但其ノ手数料ハ登記印紙ヲ用井願書ニ貼附スヘシ
- 第五條 試験ヲ受ケント欲スル者ハ先ツ身體検査ヲ行ヒ其ノ合格者ニ就キ學術試験ヲ行フ
- 第六條 學術試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ
  - 一 讀書 漢文又ハ漢字交リ文
  - 二 作文 普通往復文 記事文
  - 三 筆寫 楷書 行書
  - 四 算術 筆算 珠算
  - 五 鐵道ニ關スル法規
- 前項ノ外受験者ノ望ニ依リ簿記、外國語又ハ會計ニ關スル法規ヲ試験スルコトアルヘシ

- 第七條 試験合格者ニハ合格證書ヲ附與シ其ノ有効期限ヲ一箇年トス
- 第八條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケント企テタル者及試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ其ノ期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第九條 試驗合格證書ヲ附與シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格證書ヲ無効トス
- 第十條 本令施行ノ際北海道官設鐵道ノ業務ニ従事スル事業手又ハ雇員ハ施行後六箇月間ニ限り
- 第三條ノ年限ニ拘ラス試験ヲ受クルコトヲ得

○逓信省令第八號

明治二十三年十一月 逓信省令第二十三號郵便貯金條例施行細則中左ノ通改正ス

逓信大臣文學博士男爵末松謙澄

- 第二條中「氏名」ノ下「住所」ノ二字及ヒ「居所」ノ下「身分、職業」ノ四字ヲ刪除ス
- 第九條第二項第三項ヲ左ノ一項ニ改ム
  - 町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ニ於テ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ管理者一名又二人以上共同シテ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ總代人一名ヲ定ムヘシ
  - 但一名ニ限り加印者ヲ定ムルコトヲ得
- 第十一條第二項第三項ヲ左ノ一項ニ改ム
  - 町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ノ貯金ハ其名稱ヲ肩書シ管理者記名調印スルカ若ハ其名稱ヲ記シ共印ヲ捺シ且ツ管理者記名調印シ又共同貯金ハ總代人記名調印スヘシ
  - 但加印者アルトキハ尙加印者連署スヘシ
- 第二十四條第二十六條中「住所」ノ文字ヲ刪除シ「擔當人」ヲ「管理者」ト改ム



第三十一條中「受ケタルトキハ」ノ下「該告知書及」ノ五字ヲ删除ス  
 第三十二條中「調製シ」ノ下「前條ノ告知書及」ノ七字ヲ删除ス  
 第四十三條第二項ヲ左ノ通改ム  
 時價トハ東京ニ於ケル購入前日ノ買買價格ヲ云フ

〔參照〕

逓信省令第二十三號郵便貯金條例施行細則(明治二十三年十一月二十六日抄録)  
 第二條 貯金預ケ人通報ヲ受領シタルトキハ其通報ニ氏名、住所、居所、身分、職業ヲ記入シ且其印鑑ノ部ニ捺印ノ上預ケ金ヲ添ヘテ局所ノ主務者ニ差出シ預ケ金ノ記入ヲ受ケテ之ヲ所持スヘシ  
 第九條第二項第三項  
 町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ニ於テ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ擔當人一名ヲ定ムヘシ  
 二人以上共同シテ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ總代人一名ヲ定ムヘシ但共同者中ノ一名ヲ加印者ト爲スコトヲ得  
 第十一條第二項第三項  
 町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ノ貯金ニハ町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ尙擔當人記名調印スヘシ  
 共同者ノ貯金ニハ總代人記名調印シ加印者アルトキハ尙加印者連署スヘシ  
 第二十四條 貯金預ケ人氏名、住所、居所、印形ニ變更ヲ生シタルトキハ其旨ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ届出ヘシ但改印ニ係ル屆書ニハ其印鑑ヲ添フヘシ  
 引受人、擔當人、加印者アル預ケ人前項ノ變更ヲ生シ又ハ其引受人、擔當人、加印者ニ異動ヲ生シ若クハ此等ノ氏名、住所、居所、印形ニ變更ヲ生シタルトキハ其引受人、擔當人、加印者連署ヲ以テ前項同様届出ヘシ但引受人、擔當人、加印者ノ變更ノ場合ニ於テハ前任者モ亦屆書ニ連署スヘシ若シ連署シ能ハサルトキハ証人ヲ立テ其事實ヲ證明スヘシ  
 第二十六條 貯金預ケ人第二十四條及第二十五條ノ屆書ヲ差出シタルトキハ同時ニ通報ノ氏名、住所、居所、印鑑等ノ諸項ニ就キテ其變更ノ廉ヲ訂正スヘシ  
 第三十一條 貯金再度通報ヲ請求シタル者前條ノ告知ヲ受ケタルトキハ該告知書及通報受取證書ヲ請求將經由ノ局所ニ差出シ新規通報ノ交付ヲ受クヘシ但請求人新規通報ヲ請求將經由ノ局所外ニ於テ受取ラント欲スルトキハ初メ請求書ヲ差出ストキ其局所ヲ指定シテ申出ヘシ  
 第三十二條 貯金再度通報發行通知書ヲ受ケタル局所ハ請求人ノ求メニ從ヒ該通知書ニ依リ再度通報ヲ調製シ前條ノ告知書及通報受取證書ヲ引換ヘ之ヲ其請求人ニ交付スルモノトス  
 第四十三條 公債證書ハ時價ニ依リ購入スルモノトス  
 時價トハ東京ニ於ケル購入當日ノ買買價格ニ購入口錢ヲ加ヘタルモノトス

○陸軍省令第九號

明治二十七年ノ戰役ニ從事シ死歿シタル陸軍軍人軍屬雇員備人ノ遺族ニシテ明治三十年七月陸軍省令第十八號ニ依リ特別賜金ノ給與ヲ受ケントスル者ノ出願期限ハ本令第九號發布ノ日ヨリ三年トス

明治三十一年五月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省令第五號

明治二十七年ノ戰役ニ從事シ死歿シタル海軍軍人軍屬雇員備人ノ遺族ニシテ明治三十年七月海軍省令第十三號ニ依リ特別賜金ノ給與ヲ受ケントスル者ノ出願期限ハ本省令第五號發布ノ日ヨリ三年トス

明治三十一年五月二十八日

海軍大臣侯爵西鄉從道



○司法省令第五號  
東京地方裁判所管内東京區裁判所内藤新宿出張所ヲ豐多摩郡淀橋町元角管ニ移シ淀橋出張所ト改稱ス

但當分ノ内元内藤新宿出張所廳舎ニ於テ共事務ヲ取扱フ  
明治三十一年六月十日  
司法大臣曾禰荒助

○遞信省令第九號  
香港及在清國各地香港郵便局ヨリ小包郵便ニ依リ輸入スル物品ハ來七月一日ヨリ凡テ上陸地稅關ニ於テ開封検査ス  
有稅品ヲ包有スル小包郵便物ノ受取人ハ其郵便物ニ對シ賦課セル輸入稅ヲ納付スルニアラサレハ之ヲ受取ルヲ得ス此場合ニ於ケル郵便物ハ總テ差立地ヘ返送スヘシ  
明治三十一年六月十三日  
遞信大臣文學博士男爵末松謙澄

○陸軍省令第十號  
明治三十年陸軍省令第二十五號陸軍召集諸費支出規程第四十條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
明治三十一年六月十七日  
陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍召集條例第六十六條ニ該ル者並豫備役後備役將校下士兵卒第一補充兵ニシテ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スノ許可ヲ受ケタル者並陸軍補充條例第五十九條第六十條第六十五條第六十七條ニ依リ准士官下士ヲ勤務演習ノ爲メ召集スルトキ之ニ支給スヘキ旅費ハ現住地ヨリ召集地迄ノ里程ニ依ル但其ノ召集ニ係ル旅費ハ本八居住地所管ノ師團ヨリ支給スルモノトス  
〔參照〕

陸軍省令第二十五號陸軍召集諸費支出規程(明治三十年十月十二日)抄錄  
第四十條第二項  
豫備役後備役將校下士兵卒及第一補充兵ニシテ他ノ師管ニ寄留シ該師管ニ於テ勤務演習ニ應スルコトノ許可ヲ受ケタル者並一年志願兵終末試驗及第證書及士官適任證書ヲ所持スル准士官下士ヲ勤務演習ノ爲メ召集スルトキ之ニ支給スヘキ







○大藏省令第六號

明治二十二年大藏省令第十三號出納官吏現金取扱規則第十條ヲ第九條トシ左ノ一箇條ヲ追加ス  
明治三十一年六月二十二日  
第十條 出納官吏在勤地外ニ於テ取扱フ所ノ現金ハ本章ニ準シ便宜其地ノ金庫ニ委託スルコトヲ得  
大藏大臣伯爵井上 馨

○海軍省令第六號

明治二十一年海軍省令第六號同二十二年海軍省令第九號同二十三年海軍省令第一號及同三十年海軍省令第三號ヲ廢ス  
明治三十一年六月二十二日  
海軍大臣侯爵西鄉從道

〔參照〕

明治二十一年五月十日海軍省令第六號ハ海軍預備役後備役兵身上異動ノトキ取扱方ノ件、同二十二年九月二日海軍省令第九號ハ傷病疾病ニ依リ歸郷ノ海軍下士卒護送人附添並ニ途中死亡ノトキ取扱方ノ件、同二十三年十一月二日海軍省令第一號ハ海軍預備役後備役兵兵籍ノ件、同三十年三月十日海軍省令第三號ハ海軍下士卒現役中刑罰ニ處セラレタルトキ通知方ノ件ナリ

○逓信省令第十號

廳舎ノ建築若クハ修繕工事請負ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ規定セル資格ノ外尙ホ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス  
但鐵道作業會計ニ屬スル廳舎ノ建築若クハ修繕工事ニ付テハ明治三十年七月逓信省令第二十二號ヲ適用ス  
明治三十一年六月二十四日  
逓信大臣文學博士男爵末松謙澄

第一條

廳舎ノ建築若クハ修繕工事請負ノ競争ニ加ハラントスル者ハ競争入札加入ノ際二年以來引續キ左ノ區別ニ從ヒ所得稅ヲ納ムルコトヲ要ス

第一 一口ニ付各自見積代金貳千圓未満ノ場合ニハ參圓以上

第二 一口ニ付各自見積代金壹萬圓未満ノ場合ニハ五圓以上

第三 一口ニ付各自見積代金五萬圓未満ノ場合ニハ七圓以上

第四 一口ニ付各自見積代金貳拾萬圓未満ノ場合ニハ拾五圓以上

第五 一口ニ付各自見積代金貳拾萬圓以上ノ場合ニハ參拾圓以上

第二條 合名會社ニアリテハ其社員ノ一人合資會社ニアリテハ無限責任社員ノ一人ニ於テ第一條ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第三條 株式會社ニアリテハ其資本金第一條第一號第二號ノ場合ニ於テハ壹萬圓以上第三號ノ場合ニ於テハ五萬圓以上第四號ノ場合ニ於テハ拾萬圓以上第五號ノ場合ニ於テハ貳拾萬圓以上ノ拂込ヲ終リタルモノタルコトヲ要ス

第四條 北海道沖繩諸島小笠原島及海外ニ於テ競争入札ヲ執行スル場合ニハ當分ノ内本令ヲ適用セス

○外務省令第三號

明治二十九年外務省令第三號移民保護法施行細則中左ノ通改正ス  
明治三十一年六月三十日  
外務大臣男爵西德二郎

第七條ニ左ノ一項ヲ追加ス

主タル營業所ヲ置ク廳府縣以外ノ地ニ於ケル支店若クハ出張所ノ廢置移轉ハ其地ノ地方長官東京府ハニモ届出ツヘシ

第九條移民ノ渡航地ニ在留セシムルトキ「下」又ハ其ノ歸國若クハ解任ノトキ「ノ」十四字ヲ加フ

第十條第一項中「主タル營業所ヲ置ク」ヲ「九字ヲ「移民原籍」ノ四字ニ改メ左ノ二項ヲ追加ス  
書面契約認可ノ後移民取扱人ト移民トノ間ニ解約アリタルトキハ移民原籍地ノ地方長官東京府ハ登記



地方長官書面契約ニ對シ認可ヲ與ヘタルトキハ契約書寫ヲ添ヘ認可ノ年月日、移民ノ氏名、年齢、

職業、籍貫、並ニ契約番號ヲ外務大臣ニ報告シ又移民取扱人ノ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官  
東京府ハニ通知スヘシ解約ノ届出アリタルトキ亦同シ  
第十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ以下各條順次繰下ク

第十一條 移民取扱人外國ニ於ケル移民雇主ノ注文ニヨリ移民ヲ募集セントスルトキハ雇主ノ注  
文書ニ移民募集地方別豫定表ヲ添ヘ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官東京府ハニ届出ツヘシ  
前項ノ届出アリタルトキハ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ハ移民募集地方別豫定員數ヲ當該  
地方長官東京府ハニ通知スヘシ  
第十九條ニ左ノ一項ヲ追加ス

移民取扱人前項ノ契約ニ基キ移民ヲ募集シタルトキハ第十條ノ手續ヲ爲スニ當リ該契約書寫ヲ  
添フヘシ

第二十條 主タル營業所ヲ置ク地ノ下ニ並ニ移民原籍地ノ七字ヲ加フ  
第二十五條中 第十一條第十二條第十七條第二十一條及第二十三條ヲ「第十二條第十三條第十八條  
第二十二條及第二十四條」ニ改ム  
第二十六條中「第十八條第十九條第二十條第一項及第二十二條」ヲ「第十九條第二十條第二十一條第  
一項及第二十三條」ニ改ム

附則  
本令ハ明治三十一年八月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

外務省令第三號移民保護法施行規則(明治二十九年五月二十七日)抄録

第九條 移民保護法第十一條ニ依リ業務擔當社員若クハ取締役又ハ代理人ヲ移民ノ渡航地ニ在留セシムルハ其ノ氏名  
及在留地ヲ詳細ニ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官東京府ハニ届出ツヘシ  
第十條 第一項

移民保護法第十三條ニ掲グル書面契約ニ對シ認可ヲ受ケント欲スルトキハ其ノ契約書全文ニ移民ヲ渡航セシムヘキ土地  
ノ情況ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官東京府ハニ届出スヘシ  
第十九條 移民取扱人移民ニ關シ別ニ他人ト契約ヲ爲シタルトキハ該契約書寫ヲ添ヘ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地  
方長官東京府ハニ通知スヘシ在留地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ  
第二十條 移民取扱人移民ノ身上ニ異變ヲ生ゼシ報告ニ據シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官  
東京府ハニ通知スヘシ在留地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ  
第二十五條 渡航ノ目的又ハ渡航年限ヲ詳リテ渡航ノ許可ヲ受ケタル者並ニ第六條第十一條第十二條第十七條第二十一條及  
第二十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二十六條 第七條第九條第十八條第十九條第二十條第一項及第二十二條ニ違反シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處  
ス

○文部省令第十四號

京都帝國大學理工科大學中ニ數學、物理學、純正化學、製造化學、電氣工學及採鑛冶金學ノ六學科ヲ增  
設シ本年九月十一日ヨリ授業ヲ開始ス  
明治三十一年六月三十日  
文部大臣文學博士外山正一

○逓信省令第十一號

明治二十四年ハ逓信省令第十二號三等郵便電信局長郵便局長電信局長手當年額別表ヲ本年七月一  
日ヨリ左ノ通改正ス  
明治三十一年六月三十日  
逓信大臣文學博士男爵末松謙澄

年	額	一級	二級	三級	四級	五級	六級
百二十四	八十四圓	六十圓	四十八圓	三十六圓	二十四圓		



〔參照〕

逓信省令第十二號(明治二十四年八月五日)抄録  
 三等郵便電信局長郵便局長電信局長手當金年額ヲ改定シ左表ニ依リ支給ス  
 其勤勞顯著ナル者ハ特ニ左表ノ範圍ニ拘ラス漸次年額四百圓迄ヲ給與スルコトアルヘシ

一級	九拾六圓	三級	七拾二圓	五級	四拾八圓	七級	二拾四圓	九級	拾二圓
二級	八拾四圓	四級	六拾圓	六級	三拾六圓	八級	拾八圓	十級	九圓六拾錢

○逓信省令第十二號

明治三十年五月逓信省令第六號船舶検査法施行細則中左ノ通追加ス

明治三十一年六月三十日

逓信大臣文學博士男爵末松謙澄

第二十条第二項ノ次へ左ノ一項ヲ加フ

旅客ヲ搭載スル場合ニ於テ五歳以上十二歳未満ノ者ハ二人、五歳未満ノ者ハ四人ヲ以テ前條及本條ニ依リ定メタル旅客定員ノ一人トシテ計算スルコトヲ得

○逓信省令第十三號

明治二十三年十一月逓信省令第二十號船籍規則施行細則ハ商法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十一年七月一日

逓信大臣林 有造

○逓信省令第十四號

逓信省ニ於テ新造スル小蒸汽船製造受負ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ掲グル事項ノ外左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

明治三十一年七月二日

逓信大臣林 有造

第一 内地ニ於テ總噸數二十噸以上ノ汽船ノ船體汽機及汽缸ヲ製造スルニ適當ナル工場船臺及機械ヲ有シ且從來是等ヲ製造シタル經驗アルコト  
 第二 造船及機械専門ノ技術者ヲシテ二箇年以上引續キ其業務ヲ擔當セシメ居ルコト

○外務省令第四號

明治二十九年外務省令第六號中左ノ通り改正ス

明治三十一年七月六日

外務大臣伯爵大隈重信

明治二十九年外務省令第六號中「朝鮮國」ヲ「清國及韓國」ニ改メ第一號表中「東京釜山間」ノ前ニ左ノ如ク加ヘ「東京釜山間」ヲ同「釜山間」ニ改ム

東京	上海	海間	五六〇〇〇	三五〇〇〇
同	芝罘	同	六八〇〇〇	四八〇〇〇
同	天津	同	七八〇〇〇	五五〇〇〇



〔參照〕

外務省令第六號朝鮮國在動警部巡査任用及支給規則(明治二十九年十二月十日)抄録  
第一號

人馬船車料定額

東京	釜山	山間	警	部	巡	査
				四五〇〇〇		三〇〇〇〇

○大藏省令第七號

明治三十年十一月 當省令第二十一號葉煙草專賣支所名稱位置中鹿兒島葉煙草專賣支所管内那覇葉煙草專賣支所ノ次へ名護葉煙草專賣支所ヲ加へ其ノ位置ヲ沖繩縣國頭郡名護間切大兼久村ト定メ同管内宮古葉煙草專賣支所ヲ廢ス

明治三十一年七月六日

大藏大臣松田正久

○內務省令第六號

第一條 神社寺院及ヒ佛堂ハ任意ノ賽物ノ外參拜者ニ對シ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ參拜セシムル爲メ特ニ料金ヲ徵收スルコトヲ得ス

第二條 神社寺院及ヒ佛堂ニシテ其ノ殿堂、庭園、什寶等ヲ觀覽セシムルカ爲メ料金ヲ徵收セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 神社寺院及ヒ佛堂ニシテ寄付金ヲ募集セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ特ニ氏子、檀徒若ハ信徒ノミニ對シ募集スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 前各條ニ違背シタルトキハ神社寺院及佛堂ノ管理者ヲ貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 本令ハ明治三十一年八月一日ヨリ施行ス

明治三十一年七月七日

內務大臣伯爵板垣退助

○大藏省令第八號

明治三十一年法律第七號ニ依リ特別輸出港ヨリ左ノ物品ノ輸出ヲ許ス

明治三十一年七月八日

大藏大臣松田正久

木炭

「セメント」

硫酸

滿俺礦

晒粉

○司法省令第六號

法人及ヒ夫婦財產契約登記取扱規則左ノ通相定ム

明治三十一年七月八日

司法大臣大東義徳

法人及ヒ夫婦財產契約登記取扱規則

第一條 法人登記簿ハ附録第一號離形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條 法人登記見出帳ハ附録第二號離形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條 營利ヲ目的トスル法人ノ登記簿ハ明治二十三年司法省令第八號第一條第六乃至第八ノ區別ニ從ヒ別ニ之ヲ調製スヘシ

第四條 營利ヲ目的トスル法人ノ登記見出帳ハ前項ニ掲ケタル司法省令第四條ノ規定ニ準據シ之ヲ調製スヘシ

第五條 夫婦財產契約登記簿ハ附録第三號離形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第六條 夫婦財產契約登記見出帳ハ附録第四號離形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七條 登記所ニ印鑑簿ヲ備フ

第八條 登記ノ申請人又ハ其法定代理人ハ登記所ニ保存スヘキ印鑑ヲ提出スヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ

第九條 前項ノ規定ニ依リテ提出シタル印鑑ハ之ヲ印鑑簿ニ貼付シ登記官吏印ヲ爲スヘシ

第十條 同シ



第五條 民法施行法第二十條第一項ノ規定ニ依リテ申請シタル法人ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙  
 中第四欄ニ主務官廳ノ認可アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載スヘシ  
 第六條 夫婦財產契約ノ變更又ハ契約者ノ表示ノ變更ハ登記用紙中管理者ノ變更及ヒ共有財產ノ  
 分割欄ニ之ヲ登記スヘシ  
 夫婦財產契約ノ終了ノ登記ハ消滅欄ニ之ヲ爲スヘシ  
 第七條 登記番號欄ニハ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載スヘシ  
 第八條 法人ノ名稱又ハ夫ノ氏名ノ變更ノ登記ヲ爲シタルトキハ見出帳ヲ改正シ備考欄ニ其事由  
 ヲ記載スヘシ  
 第九條 營利ヲ目的トスル法人ノ登記ニ付テハ明治二十三年司法省令第八號ノ規定ヲ準用ス  
 第十條 明治二十三年司法省令第七號登記法取扱規則第八條、第三十七條及ヒ同年司法省令第八  
 號第三條第二項、第八條、第九條第一項、第十一條、第十三條第一項第二項ノ規定ハ本令ノ登記ニ  
 之ヲ準用ス

(附錄第一號)

法人登記簿

紙數表紙ヲ除キ 枚

地方裁判所長

(雛形中)ノ内及斜線はニ印章ハ執毛朱)

登記 番號 印	一	名稱	立麻布病院
	二	事務所	第一事務所 「東京市麻布區狸穴町六番地」 第二事務所 「同市本郷區靈町拾番地」
三	目的	「貧民治療」	
四	設立許可 年月日	「明治參拾壹年七月拾六日」	
五	存立時 期		
六	資本金 總額	「金貳萬圓也」	
七	出資 ノ方	「東京市小石川區指ヶ谷町七番地」 「原田光一ハ各事務所ニ先ツヘキ 家屋ヲ建築スヘシ此價格金壹萬 圓也同市麻布區材木町八番地頭 山幸二郎同所番地横山清ハ共 同シテ金壹萬圓ヲ出資ト爲ス」	
八	理事 ノ氏 名、住 所	「東京市小石川區指ヶ谷町 七番地」 「原田光一」 「同市麻布區材木町八番地」 「頭山幸二郎」	
九	解散ノ 原因及 年月日	「明治參拾壹年八月拾日設立ノ許 可ヲ取消セリ」 「明治參拾壹年八月拾五日 登記」 「判事 木村 浩」	
十	清算 ノ人、住 所	「東京市麻布區材木町八番地」 「頭山幸二郎」 「明治參拾壹年八月拾五日 登記」 「判事 木村 浩」	
變	「(八)理事原田光一ハ明治參拾壹年七月貳 拾六日死亡セリ」 「右明治參拾壹年八月拾日登記」 「判事 木村 浩」		















印刻ヒ及章印ルア附日		號七第		印刻ヒ及章印ルア附日		號五第		印刻ヒ及章印ルア	
		件名	署名者 ノ氏名			件名	署名者 ノ氏名		
印刻ヒ及章印ルア附日		號八第		印刻ヒ及章印ルア附日		號六第		印刻ヒ及章印ルア	
		件名	署名者 ノ氏名			件名	署名者 ノ氏名		

日附アル印章離形



外圍徑 一寸  
内圍徑 六分



外圍徑 一寸  
内圍徑 六分

○司法省令第八號

人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於テハ東京市ヲ以テ住所地トス

明治三十一年七月八日

司法大臣大東義徹

〔参照〕

法律第十三號人事訴訟手續法(明治三十一年六月二十一日官報)抄録  
 第一條 婚姻ノ無効若クハ取消離婚又ハ夫婦ノ同居ヲ目的トスル訴ハ夫カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但婚姻ノ取消又ハ離婚ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス  
 前項ノ普通裁判籍ハ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ニ依リ居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マル  
 最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ司法省令ヲ以テ指定シタル地ヲ住所地トス

○司法省令第九號

人事訴訟手續法第三章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ハ裁判ノ要旨ヲ官報及ヒ法人ノ登記ノ公告ニ付キ選定シタル新聞紙上ニ少クモ一回掲載シテ之ヲ爲スヘシ但上級裁判所ノ裁判ノ公告ハ其所在地ノ區裁判所カ選定シタル新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ  
 前項ノ新聞紙ナキトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲スヘシ

明治三十一年七月八日

司法大臣大東義徹



(參照)

明治三十一年六月二十日法律第十三號人事訴訟手續法第三章ハ禁治產及口準禁治產ニ關スル手續ナリ

○農商務省令第四號

地方水產試驗場及地方水產講習所規程左ノ通定ム

但明治二十七年ハ農商務省令第八號農事講習所規程第十一條ヲ削除ス

明治三十一年七月九日

農商務大臣大石正己

地方水產試驗場及地方水產講習所規程

第一條 府縣稅(又ハ地方稅)郡市町村費若クハ之カ補助ヲ以テ設立スル水產試驗場又ハ水產講習所ハ此規程ニ準據スヘシ

第二條 水產試驗場ハ水產業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ地方ノ必要ニ應シ左ノ事項ニ就キ試驗ヲ行フモノトス

一 漁撈

二 製造

三 養殖

第三條 水產試驗場ハ左ノ設備ヲ爲スヘシ

一 漁撈ヲ主トスルモノハ漁船及漁具

二 製造ヲ主トスルモノハ製造場及製造器具

三 養殖ヲ主トスルモノハ養殖場又ハ孵化場並其器具

第四條 水產講習場ハ必要ニ應シ其試驗ノ結果ヲ地方當業者ニ傳習スルコトヲ得

第五條 水產講習所ハ地方當業者ニ水產ニ關スル技術ヲ傳習スルヲ以テ目的トシ其傳習科目ハ漁撈製造養殖ノ三科ニ係ルモノヲ主トシ補助科トシテ之ニ關係アル他ノ學科ヲ加フルコトヲ得但

地方ノ情況ニヨリ漁撈製造養殖ノ三科ノ中一二科若クハ一科中ノ種目ヲ限リ專修セシムルコトヲ得

第六條 府縣稅(又ハ地方稅)ヲ以テ水產試驗場又ハ水產講習所ヲ設立シ若クハ補助セントスルトキハ地方長官ハ其規則及各種ノ豫定設備及經費概算額ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

郡市町村費ヲ以テ設立シ又ハ補助セントスルトキハ前項ニ準シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 前條ノ認可ヲ經水產試驗場又ハ水產講習所ヲ設立シ若クハ補助シタルトキハ速ニ左ノ事項ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ但第二號ハ毎年三月三十一日マテニ其他ノ各號ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

一 名稱及位置

二 經費ノ種別及其豫算金額

三 試驗若クハ傳習ニ要スル設備ノ種別及其數又ハ其面積

四 建物ノ種別及其坪數

五 職員ノ履歷及其擔任ノ業務

第八條 水產試驗場又ハ水產講習所ハ必要ニ應シ便宜ノ季節ヲ撰ヒ隨所ニ開設スルコトヲ得

第九條 地方長官ハ水產試驗場事業ノ成績水產講習所業務ノ功程ヲ調査シ前年度分取纏メ毎年四月三十日マテニ農商務大臣ニ報告スヘシ

附 則

第十條 此規程ニ準據スヘキ現在ノ水產試驗場又ハ水產講習所ニ付テハ明治三十一年七月三十一日マテニ其規則ヲ添ヘ第七條ノ手續ヲ爲スヘシ



〔參照〕

農商務省令第八號 農商務省所規程(明治二十七年八月六日)抄錄  
第十一條 水產講習所又ハ傳習所ハ此規程ニ準スヘシ

○司法省令第十號

第一條 非訟事件手續法第四十二條第一項及ヒ第五十七條第一項ニ依リ謄本ノ交付ヲ申請スル者ハ其謄本一枚ニ付キ手数料金拾錢ヲ納ムヘシ但一行二十字詰二十行以下十一行以上ハ一枚トシ十行以下ハ半枚トス

第二條 同法第二百二十五條ニ依リ法人及ヒ夫婦財產契約登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請スル者ハ其用紙一枚ニ付キ手数料金拾錢ヲ納ムヘシ但一枚ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス

第三條 手数料ハ登記印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ム可シ

○司法省令第十一號 明治三十一年七月十一日 司法大臣大東義徹

私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者ハ每一件ニ付キ手数料金拾錢ヲ納ムヘシ

登記所ニ納ムヘキ手数料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

○司法省令第十二號 明治三十一年七月十二日 司法大臣大東義徹

東京市、京都市及ヒ大阪市ノ各區ニ於テハ區長ヲ以テ戶籍吏トス

○司法省令第十三號 明治三十一年七月十二日 司法大臣大東義徹

戶籍法ノ規定ニ依リテ納付スル手数料ノ金額左ノ通相定ム

明治三十一年七月十二日

司法大臣大東義徹

第一條 身分登記簿又ハ戶籍簿ノ閱覽ヲ請求スル者ハ金拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 身分登記又ハ戶籍ノ謄本若クハ抄本ヲ請求スル者ハ一枚ニ付キ金拾錢ヲ納ムヘシ共一枚ニ滿タサルモノト雖モ亦同シ但枚數ハ原本ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 身分又ハ戶籍ニ關スル届出若クハ申請ノ受理ノ證明書ヲ請求スル者ハ一件ニ付キ金五錢ヲ納ムヘシ

第四條 手数料カ國庫ノ收入ト爲ルヘキ場合ニ於テハ前三條ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ前項ノ場合ニ於ケル手数料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

○海軍省令第七號 總噸數七百噸以上ノ西洋形船舶ノ製造ニ著手スル者若ハ購入スル者ハ左ノ事項ヲ記載シ地方官廳ヲ經由シテ海軍大臣ニ届出ヘシ但シ本邦人ヨリ購入スル者ハ單ニ其ノ船名ハ改稱シタルモノ及舊所有者氏名ノミヲ届出其ノ他ノ事項ハ届出ルニ及ハス

明治三十一年七月十四日

海軍大臣侯爵西鄉從道

- 一 船名
- 二 製造所名
- 三 造船規程「ロイド」規程等ニ合格スルモノハ合格ノ等級
- 四 上甲板ノ種類(重甲板船輕甲板船覆甲板船ノ類)
- 五 船籍港名、管轄廳名
- 六 船主ノ氏名住所
- 七 甲板ノ層數、橋ノ數、索具ノ裝置及船體ノ材料
- 八 船舶ノ長、幅及深
- 九 船體ノ大體圖及中央切斷圖
- 十 機關ノ種類及數
- 十一 汽罐ノ種類及數
- 十二 船艙ノ數



- 十三 二重底ノ長
  - 十四 各船艙ノ荷積噸數
  - 十五 總噸數
  - 十六 全速力
  - 十七 使用ノ目的
  - 十八 飲料水ノ貯量高
  - 十九 竣工豫定年月
  - 二十 製造年月(購入)
- 前諸項中國面ナキモノ若ハ詳知レ難キモノハ之ヲ省キ該事項件名ノ下ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

○司法省令第十四號

東京地方裁判所管内東京區裁判所富士見町出張所、同巴町出張所、同二長町出張所及ヒ同林町出張所ノ管轄ニ屬スル法人及ヒ夫婦財產契約ノ登記ノ事務ハ東京區裁判所ニ於テ之ヲ取扱ハシムル大阪地方裁判所管内大阪區裁判所天王寺出張所、同島ノ内出張所及ヒ同天満出張所ノ管轄ニ屬スル法人及ヒ夫婦財產契約ノ登記ノ事務ハ大阪區裁判所ニ於テ之ヲ取扱ハシム

明治三十一年七月十四日

司法大臣大東義徳

○司法省令第十五號

大阪地方裁判所管内大阪市及ヒ西成郡内ノ商業登記ハ同管内大阪區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ本令ハ本月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年七月十四日

司法大臣大東義徳

○大藏省令第九號

横濱税關ニ於テ購入スル小蒸汽船製造ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ定メタル資格ノ外尙ホ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

明治三十一年七月十五日

大藏大臣松田正久

第一條 資産ニ關スル條件左ノ如シ

第一 直接國稅五圓以上二箇年以來引續キ納付スル者

第二 各名會社ニアリテハ其社員ノ一人又合資會社ニアリテハ其業務擔當社員ノ一人直接國稅五圓以上ヲ納付スル者アルコト

第三 株式會社ニアリテハ資本金ニ萬圓以上ノ拂込ヲ終リタルコト

第二條 營業ニ關スル條件左ノ如シ

第一 總噸數三百噸以上ノ蒸汽船ヲ製造スルニ適當ナル工場ヲ有スル者

第二 總噸數三百噸以上ノ蒸汽船ヲ製造シタル經驗ヲ有スル者

第三 造船學ヲ修得シタル技術者ヲ聘用スル者

○大藏省令第十號

明治三十年當省令第二十號中(本籍地)ノ三字ヲ刪除ス

明治三十一年七月十六日

大藏大臣松田正久

〔參照〕

大藏省令第二十號(明治三十年十一月十日)  
本年法律第五十號家課稅典廢除分法ニ依リ給與ヲ受ケントスル者ハ願書ニ錯誤ノ理由ヲ詳細シ證書附屬並ニ市町村長ノ印明シタル新舊戶籍ノ謄本ヲ添へ本籍地地方廳ヲ經由シ大藏省へ提出スヘシ

○大藏省令第十一號

明治三十年十一月十一號當省令第二十一號葉煙草專賣支所名稱位置表中左ノ通追加ス  
明治三十一年七月十六日  
松本葉煙草專賣支所、生阪葉煙草專賣支所ノ次ニ

阪北葉煙草專賣支所 長野縣東筑摩郡坂北村



高粱葉煙草專賣所、草間葉煙草專賣支所ノ次ニ

後免葉煙草專賣所、西豐永葉煙草專賣支所ノ次ニ  
中津井葉煙草專賣支所 岡山縣阿賀郡中津井村

高森葉煙草專賣所、南小國葉煙草專賣支所ノ次ニ  
東豐永葉煙草專賣支所 高知縣長岡郡東豐永村

高千穂葉煙草專賣所、宮崎葉煙草專賣支所ノ次ニ  
坂梨葉煙草專賣支所 熊本縣阿蘇郡坂梨村

鹽北葉煙草專賣支所 宮崎縣兒湯郡上穂北村

○文部省令第十五號

中央氣象臺附屬測候所職員月手當給與細則ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 明治三十一年七月十六日

文部大臣尾崎行雄

第一條 中央氣象臺附屬測候所職員ノ月手當金ハ任地著翌日ヨリ任地替等ノ爲メ其地出發前日迄之ヲ支給ス

第二條 他職へ轉任セシ者ノ月手當金ハ其發令當日迄退官又ハ非職トナリシ者ノ月手當金ハ辭令接受ノ當日迄之ヲ支給ス但退官又ハ非職者ニシテ特ニ事務引繼ヲ命シタルトキハ事務引繼當日迄之ヲ支給ス

第三條 歸省其他私事旅行中ノ日數ハ月手當ヲ支給セス

第四條 任地替ノ爲メ月手當金ノ増減ハ總テ其任地著翌日ヨリ計算ス

第五條 在勤中死亡セシ者ノ其月分ノ手當金ハ全額ヲ支給ス

第六條 第一條乃至第四條ノ場合ニシテ一箇月未滿トナル月手當金ハ總テ其月ノ日割ヲ以テ計算ス

第七條 月手當金ハ毎月末日支給スルモノトス但休暇日ニ當ルトキハ繰上ケトス

○陸軍省令第十一號

本年勅令第七十一號ニ依リ來ル九月以後移住ノ屯田兵ニ給與スヘキ鹽菜料金額左ノ通定ム  
 明治三十一年七月二十日 陸軍大臣子爵桂 太郎

甲額 七拾參錢九厘 乙額 四拾九錢 丙額 參拾四錢五厘

○大藏省令第十二號

明治三十一年勅令第四百十號ニ依ル收入印紙ノ形式左ノ通相定ム  
 明治三十一年七月二十八日

大藏大臣松田正久

(雜形)



一厘 朋黄色  
 二厘 橙黄色  
 三厘 淡青色  
 四厘 淡青色  
 五厘 紅色

金額ハ各相當額ヲ記ス



一錢 淡青色  
 二錢 綠色  
 五錢 紫藍色  
 十錢 紅色

金額ハ各相當額ヲ記ス





金額ハ各相當額ヲ記ス

五十圓	上模樣	淡紅色
一圓	上模樣	青色
五圓	上模樣	黃色
地紋	上模樣	青色
地紋	上模樣	紅色



金額ハ各相當額ヲ記ス

十圓	橙黃色
五十圓	青色
百圓	紫色

○大藏省令第十三號

明治三十一年法律第二十二號ニ依リ水害地地租免除ヲ請ハントスル者ハ收穫ノ皆無タリシ事實ヲ證明シ願書ヲ所轄稅務署ニ差出スヘシ

明治三十一年七月二十九日

大藏大臣松田正久

○内務省令第七號

市制特例廢止ニ際シ市長事務取扱方並事務引繼ニ關スル件左ノ通り相定ム

明治三十一年八月三日

内務大臣伯耆板垣退助

第一條 東京市京都市大阪市ノ市長就職スルニ至ルマテ東京府京都府大阪府ノ知事ハ各其ノ事務ヲ取扱フヘシ

前項事務取扱ニ關スル費用ハ市ノ負擔トス

第二條 市長就職シタルトキハ府知事ハ從前府廳ニ於テ取扱ヒタル市ノ事務ニ關シ願書ヲ製シ書類帳簿並金員等ト共ニ之ヲ市長ニ引繼クヘシ

○農商務省令第五號

第一條 保險業ヲ營マントスル者ハ其營業所ヲ設クヘキ地ノ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ營業ノ許可ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ目論見書、假會社契約假定款及ヒ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ但目論見書假會社契約(假定款)中ニ記載シアルモノハ此限ニ在ラス

甲 生命保險業ヲ營マントスル者ニ在リテハ

- 一 純保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎トシタル豫定利率、死亡生殘表及ヒ其死亡生殘表ノ名稱(若シ死亡生殘表ヲ名稱洽ネク知レサル者ナルトキハ死亡表調製ノ原料、方法及ヒ死亡率表並ニ平均命數表)
- 二 純保險料、責任準備金及ヒ解約價格ノ算出方式
- 三 責任準備金資本金及其他ノ積立金利用ノ方法

- 四 營業保險料、純保險料及ヒ附加保險料ノ對照表
- 五 一被保險者ノ生命ニ關シ支拂フヘキ保險金最高額



六 保險契約ノ種類  
 七 普通保險契約  
 八 保險契約締結ノ手續

乙 損害保險業ヲ營メントスル者ニ在リテハ  
 一 保險料ノ計算ニ關スル統計表  
 二 前號第二第三第七及第八ニ掲ケタル事項

第二條 保險營業ヲ目的トスル株式會社ノ發起人ハ發起認可ノ申請書ト同時ニ營業許可ノ申請書ヲ差出スヘシ

第三條 保險營業者ハ左ノ事項ヲ其都度營業所所在地ノ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ報告スヘシ  
 一 登記ヲ受ケタルトキハ其事項及ヒ登記ノ年月日  
 二 第一條第二項ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ其事項及ヒ其變更ノ年月日  
 三 每事業年度ノ收支一覽表、財産目錄、貸借對照表、事業並ニ其成果ノ報告書及ヒ支出殘金ノ處分方法  
 四 商法第六百九十條ノ規定ニ從ヒテ證券ヲ裁判所ニ寄託シタルトキハ其債、裁判所及寄託ノ年月日  
 五 代辦人ヲ以テ保險契約ヲ取結フトキハ其氏名及ヒ其營業所所在地

第四條 地方長官ハ保險營業者ノ行爲ヲ法令ニ違反シ又ハ業務ノ安全ヲ缺キ若クハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ速カニ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第五條 明治三十一年七月一日前ヨリ保險業ヲ營ム者ハ左ノ事項ヲ詳具シ明治三十一年九月三十日マテニ營業所所在地ノ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ届出ツヘシ但株式會社ニ在リテハ第一

一號及第三號ニ掲ケタル事項ハ届出ツルコトヲ要セス  
 一 登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日  
 二 第一條第二項甲號乙號ニ定メタル事項及ヒ會社契約(定款)  
 三 前事業年度ニ於ケル收支一覽表、貸借對照表及ヒ財産目錄  
 四 代辦人ノ氏名及ヒ其營業所所在地

明治三十一年八月五日  
 農商務大臣大石正己

○逓信省令第十五號  
 明治二十五年九月逓信省令第十三號小包郵便法施行細則中左ノ通改正來十一月一日ヨリ施行ス  
 但(乙)送票ハ當分ノ内從前ノ用紙ヲ混用スルコトアルヘシ  
 明治三十一年八月五日  
 逓信大臣林 有造

一小包送票用紙離形(甲)(乙)共ニ色分ヲ廢シ(甲)ヲ左ノ一種ニ改ム

(甲) 小包送票			
號番	重量	要摘	郵便切手貼附欄
受引	配		



○大藏省令第十四號

明治十九年大藏省令第二十一號印紙類賣下賣捌規則中左ノ通改正ス  
第一條中登記印紙ノ次ニ收入印紙ヲ加フ  
第七條 刪除

明治三十一年八月六日

大藏大臣松田正久

〔參照〕

大藏省令第二十一號印紙類賣下賣捌規則(明治十九年六月八日)抄録  
第一條 此規則ヲ以テ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類左ノ如シ  
證券印紙 手形用紙  
煙草印紙  
訴訟用印紙  
實業印紙  
登記印紙

第七條 煙草營業人若クハ其家族又ハ同居ノ者ニハ煙草印紙賣捌ヲ許可セス賣捌營業者請賣者行商者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニハ賣捌印紙賣捌ヲ許可セサルモノトス  
煙草稅則第三十九條賣捌印紙稅規則第八條訴訟用印紙規則第十一條證券印紙規則第二十五條登記印紙規則第四條ニ依リ賣捌ヲ受ケタル者ニハ滿三年間印紙類ノ賣捌ヲ許可セサルモノトス

○文部省令第十六號

明治二十二年 文部省令第十二號ハ自今廢止ス  
明治三十一年八月十一日

文部大臣尾崎行雄

說明

教員生徒ノ集會會館其他取締ニ關シ從來本省ノ發シタル省令諸達訓令中爾後法律ノ制定ニ依リテ其用ヲ見サルニ至レルモノアリ或ハ時勢ヲ矯正センカ爲ニ發シタルモノハ時勢ノ推移ト共ニ今ハ其必要ヲ認メサルモノアリ間又多少ノ必要ヲ認ムルモノナキニアラスト雖モ多クハ特ニ本省ノ訓令ヲ俟タス當然地方長官學校長教員ノ職務ニシテ其分内ニ關スト思考スルカ故ニ總テ之ヲ廢止セリ凡ソ學校長教員タル者ハ其重大ナル職務ト高尚ナル地位トヲ願念シ生徒ノ養育ニ専心ナルヘキハ勿論明リニ上司ニ反抗シ公衆ヲ挑發シ其本務ヲ忘レテ政爭ニ狂奔スル等ノ舉動アルヘカラサルハ官ハ公ニシテ明ナリ又學校生徒タル者師ヲ尊ビ長ヲ敬フノ第一義ヲ忘却シ徒黨シテ學校長教員ニ對シ強迫ノ舉動ヲ爲スカ如キハ學究教育ノ實未タ完カラサルニ起因ス地方長官タル者須ラテ學校長教員ヲ督勵シテ其實效ヲ責ムヘク尙ホ不順ナル者アラハ校規ニ照ラシテ處分セシメハ足レリ之ヲ要スルニ從來ノ省令諸達訓令ヲ廢止スルハ地方長官學校長教員ノ地位責任ヲ重視シ特ニ之ヲ存スルノ要ナキヲ認メタルニ依ル

〔參照〕

文部省令第十二號(明治二十二年十二月二十日)  
小學校及其他普通學校ノ教員ニシテ集會及政社法ニ依リ罰金ノ處分ヲ受ケタル者又ハ政黨ニ關係スル者ハ其情狀ニ依リ府縣知事ヨリ文部大臣ニ稟申シ該府縣内ニ於テ教員タルコトヲ差止ムヘシ

○文部省令第十七號

明治二十五年文部省令第六號師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸額ヲ改正スルコト左ノ如シ但明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

文部大臣尾崎行雄

明治三十一年八月十三日  
師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸額  
第一條 師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸給ハ左表ニ依リ支給スヘシ但委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル教諭ニシテ一級俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ハ該表ノ範圍ニ拘ラス漸次百五拾圓マテ増俸スルコトヲ得  
第二條 師範學校教諭及助教諭ノ俸給ハ其授業ノ時間及學科ノ輕重難易等ニ依リ左表ニ掲グル俸給等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

職名	月 俸 額						
	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級
教諭	上九十圓	七十五圓	六十五圓	五十五圓	四十五圓	三十五圓	
	下八十圓	七十四圓	六十四圓	五十四圓	四十四圓	三十四圓	



助教諭	四十圓		三十五圓		三十圓		二十五圓		二十圓	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
四十四	三十五圓	三十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	二十五圓	二十圓	十七圓	
四十五	三十五圓	三十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	二十五圓	二十圓	十七圓	
四十六	三十五圓	三十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	二十五圓	二十圓	十七圓	
四十七	三十五圓	三十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	二十五圓	二十圓	十七圓	
四十八	三十五圓	三十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	二十五圓	二十圓	十七圓	
四十九	三十五圓	三十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	二十五圓	二十圓	十七圓	
五十	三十五圓	三十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	二十五圓	二十圓	十七圓	

○内務省令第八號

北海道移住民渡航船舶取締規則左ノ通相定ム

明治三十一年八月十六日

内務大臣 伯耆板垣退助

北海道移住民渡航船舶取締規則

- 第一條 北海道移住民一百名以上ヲ搭載セントスル船舶ハ其都度左ノ事項ヲ掲記シ船長又ハ船舶所有者ヨリ所轄警察署ヘ届出ツヘシ其寄港及著港シタル場合亦同シ但一時間以内ノ寄港ニシテ移住民ヲ搭載セサル場合ハ此限ニアラス
- 一 船名 船籍地 登簿噸數 旅客定員 船舶所有者及船長ノ氏名
  - 二 發航ノ日時 寄港地著港地及其日時
  - 三 搭載スル移住民ノ員數船費及貨物運搬費
  - 四 食料ノ種類及其供給ノ方法
  - 五 移住民又ハ回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者ト特別ノ契約アルトキハ其契約
- 第二條 前條ノ届出ヲ受ケタル警察署ハ直ニ其船舶ヲ臨檢スヘシ
- 第三條 前條ノ臨檢ヲ爲シタル警察署ハ第一條各號ノ事項及發航日時ヲ直ニ其寄港地及著港地ノ各警察署ヘ通報スヘシ

第四條 第一條ノ船舶ハ第二條ノ臨檢ヲ受ケタル後ニアラサレハ發航スルコトヲ得ス

第五條 回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者ハ移住民渡航ノ都度左ノ事項ヲ掲記シ所轄警察署ヘ届出ツヘシ但移住民十名以下ナルトキハ此限ニアラス

- 一 船名及發航日時
  - 二 移住民ノ員數船費及渡航周旋料又ハ手数料
  - 三 移住民又ハ船舶所有者若ハ船長トノ契約
  - 四 移住民ヲ投宿セシメタルトキハ其月日
- 第六條 前條ノ渡航周旋料又ハ手数料ヲ不當ナリト認ムルトキハ所轄警察署ハ之ヲ低減セシムルコトヲ得
- 第七條 回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者正當ノ理由ナクシテ第五條ノ發航日時ニ移住民ヲ出發セシメサルトキハ其出發延期ノ爲ニ生スル移住民ノ費用ヲ負擔スヘシ
- 第八條 回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者第五條ノ船費宿泊料渡航周旋料又ハ手数料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス移住民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受クルコトヲ得ス
- 第九條 左ニ掲グル事項ノ一ニ該當スル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第一條ノ届出ヲ爲サスシテ航行シ又ハ同條若ハ第五條ノ場合ニ於テ虚欺ノ届ヲ爲シタル者
  - 二 第四條ノ臨檢以前ニ發行シタル者
  - 三 第五條ノ届出ヲ爲サスシテ周旋ヲ爲シタル者
  - 四 第八條ニ違背シ金錢又ハ物品ヲ受ケタル者
  - 五 船舶内ニ於テ天災其他避クルヘカラサル事故ニ由ルニアラスシテ飲食物ノ供給ヲ怠リタル者



第十條 前條ハ商事會社ニ在リテハ其所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役又ハ使用人ニ之ヲ適用ス

○司法省令第十六號

明治二十四年司法省令第三號判事檢事登用試驗規則第五條第一號ヲ左ノ如ク改ム  
明治三十一年八月十六日 司法大臣大東義徹

一 官立學校及司法大臣ニ於テ指定シタル公私立學校ニ於テ二學年間法律學ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

〔參照〕

司法省令第三號判事檢事登用試驗規則(明治二十四年五月十五日)抄錄  
第五條 判事檢事登用試驗ヲ受クルコトヲ得ル者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ニ記載シタル者ニ限ル

一 官立學校及司法大臣ニ於テ指定シタル公私立學校ニ於テ三年以上法律學ヲ修メタル證書ヲ有スル者

○大藏省令第十五號

明治二十二年大藏省令第三十四號印紙類賣下賣捌規則施行細則第二條中「登記印紙百分ノ六共トアルヲ百分ノ六ニ」他ノ印紙百分ノ四共トアルヲ百分ノ四ニ改メ第三條中「登記印紙百分ノ七共トアルヲ百分ノ九ニ」他ノ印紙百分ノ八共トアルヲ百分ノ八ニ改ム  
本令ハ明治三十一年九月一日ヨリ施行ス  
明治三十一年八月二十五日 大藏大臣松田正久

〔參照〕

大藏省令第三十四號印紙類賣下賣捌規則施行細則(明治二十三年十一月十四日)抄錄  
第二條 印紙類ハ額面ニ對シテ左ノ割合ヲ以テ賣下ケ又ハ賣渡スモノトス

一 間稅署ヨリ元賣捌人 ニ賣下クルトキ	〔登記印紙〕 百分ノ六 〔其他ノ印紙〕 百分ノ七
一 元賣捌人ヨリ賣捌人 ニ賣渡ストキ	〔登記印紙〕 百分ノ四 〔其他ノ印紙〕 百分ノ五
第三條 規則第八條ノ割合並合ハ額面ニ對シテ左ノ如シ	
一 賣捌人ヨリ元賣捌人 ニ請求スルトキ	〔登記印紙〕 百分ノ九 〔其他ノ印紙〕 百分ノ十
一 元賣捌人ヨリ間稅署 ニ請求スルトキ	〔登記印紙〕 百分ノ八 〔其他ノ印紙〕 百分ノ九

○文部省令第十八號

- 一 明治十九年文部省令第四號ヲ廢止ス
- 一 明治二十四年文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則第十五條第二項ヲ削除ス
- 一 明治二十四年文部省令第二十六號師範學校附屬小學校規程第一條乃至第三條中「文部大臣ノ許可ヲ受クヘシトアルヲ」文部大臣ニ開申スヘシト改ム
- 一 明治二十五年文部省令第十號師範學校生徒募集規則第四條ヲ削除ス
- 一 明治二十五年文部省令第十一號師範學校卒業生服務規則第二條中「ニシテ第一種ノ生徒タリシ者ハ其薦舉セラレタル郡市内東京市京都市大阪府又ハ其道府縣内郡市區内ニ適當ノ位ニ於テ第二種ノ生徒タリシ者」トアルヲ削除ス但本項ハ本令發布以後ニ於テ師範學校ニ入學スル者ニ限リ適用ス
- 一 明治二十五年文部省令第十一號師範學校卒業生服務規則第三條及第五條ヲ削除ス
- 一 明治二十八年文部省令第一號高等女學校規程第一條第二項中「文部大臣ノ許可ヲ受ケ」トアルヲ「地方長官ニ於テ」ト改ム



一 明治二十九年文部省令第七號市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法施行規則第四條ヲ左ノ通  
改ム

増俸減俸又ハ其他ノ事由ニ依リ本俸ニ異動ヲ生シタル場合ニ於テハ年功加俸ハ其異動ヲ生シ  
タル月ノ末日ニ於ケル本俸額ニ對シテ之ヲ給ス

一 明治二十年文部省令第十一號高等師範學校卒業生服務規則第三條及第五條ヲ削除ス

一 明治二十年文部省令第十二號女子高等師範學校卒業生服務規則第二條及第四條ヲ削除ス

一 明治三十年文部省令第十九號師範學校教諭助教諭會監訓導及書記ノ人員第八條ヲ削除ス

文部大臣尾崎行雄

〔參照〕

文部省令第四號(明治十九年三月二十五日)

北海道廳 府廳

學務課長及府縣立學校長ノ變更進退ノ節ハ其姓名官等奉給履歷ヲ具シ開申スヘシ

文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則(明治二十四年十一月十七日)抄錄

第十五條 府縣知事ハ小學校教員候補者ノ名籍ヲ作り免許狀ヲ授與シタル者アル都度其氏名等ヲ之ニ登錄スヘシ

府縣知事ハ前項ノ登錄ヲ了リタルトキハ其氏名等ヲ管内ヘ告知スヘシ

文部省令第二十六號師範學校附屬小學校規程(明治二十四年十一月十七日)抄錄

第一條 附屬小學校ハ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令中小學校ノ本旨種類教科目修業年限教則教授時間ノ制限  
教科用圖書祝日大祭日ノ儀式休業日補習科等ニ關スル規程ニ準據スヘシ但教科目ノ加除補習科ノ設置廢止及修業年限ハ  
府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 附屬小學校ノ設備ハ管内最多數ノ小學校ノ設備ヲ例トシ本年十月一號文部省令第十五號小學校設備準則ニ準據シ府縣  
知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 附屬小學校ノ學級ノ編制等ハ管内最多數ノ小學校ノ學級ノ編制等ヲ例トシ本年十月一號文部省令第十二號小學校ノ學  
級編制等ニ關スル規則ニ準據シ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ但單級ノ制ニ依リタル學級ハ必ス之ヲ設ク  
ルコトヲ要ス

文部省令第十號師範學校卒業生服務規則(明治二十五年七月十一日)抄錄

第四條 師範學校ノ生徒ハ左ノ二種ヨリ募集スヘシ但土地ノ情況ニ依リ第二種ノ生徒ヲ募集セサルコトヲ得

第一種 郡長市長ノ薦舉ニ係ル者

第二種 直ニ師範學校ニ願出トル者

前項ノ郡長市長ノ薦舉ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區長之ヲ行ヒ郡長市長ヲ置カサル地方ニ於テハ島司區長又ハ之ニ  
準スヘキ者之ヲ行フヘシ

文部省令第十一號師範學校卒業生服務規則(明治二十五年七月十一日)抄錄

第一條 師範學校卒業生ハ左ノ服務年限間其道府縣内ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス但第二條ノ義務ヲ卒  
リタル者ハ小學校ニアラサル官立公立學校教員ノ職若クハ學務ニ關スル他ノ公職ヲ以テ本文ノ職ニ代フルコトヲ得

一 男子卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十年トス

二 女子卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年トス

第二條 義務ヲ卒リタル者ニシテ特別ノ事情アルトキハ北海道廳長官府縣知事ノ許可ヲ受ケ他ノ道府縣内ニ於テ就職ス  
ルコトヲ得

第三條 師範學校卒業生ニシテ第一種ノ生徒タリシ者ハ其薦舉セラレタル郡市内市町村ニ於テ又ハ其道府縣内市町村  
ニ於テ就職スルニ於テ第二種ノ生徒タリシ者ハ其道府縣内ニ於テ左ノ年限間北海道廳長官府縣知事ノ指定スル小學校教員  
ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス

一 男子卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年

二 女子卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年

第三條 第一條第二條ノ義務ヲ卒リタル者ハ其經歷書ヲ具シテ北海道廳長官府縣知事ニ届出ツヘシ

第五條 師範學校卒業生ハ其服務年限中毎年未服務ノ情況ヲ管該師範學校ニ報告スヘシ又服務ヲ卒リタル後ト雖モ其身分  
職業等ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度報告スヘシ

文部省令第一號高等女學校規程(明治二十八年一月二十九日)抄錄

第一條第二項 外國語、圖畫、音樂ハ府縣立學校ニ就キテハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ其ノ他ノ學校ニ就キテハ地方長官ノ許可ヲ受ケテ之ヲ  
缺クコトヲ得又生徒ノ志望ニ依リ之ヲ課セサルコトヲ得

文部省令第七號市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法施行規則(明治二十九年五月十六日)抄錄

第四條 增俸減俸又ハ其他ノ事由ニ依リ本俸ニ異動ヲ生シタル場合ニ於テハ年功加俸ハ市町村ヨリ現ニ受領スル本俸額ニ



對シテ之ヲ給ス

- 文部省令第十一號高等師範學校卒業生服務規則(明治三十年七月二十一日)抄録
- 第一條 高等師範學校本科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十年トシ其ノ間教育ニ關スル職務ニ從事スル職務ヲ有スルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル職務アルモノトス
- 第二條 高等師範學校官費專修科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ七箇年トシ其ノ間教育ニ關スル職務ニ從事スル職務ヲ有スルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル職務アルモノトス
- 第三條 第一條第二條ノ服務ヲ終リタル者ハ其ノ經歷書ヲ具シテ文部大臣ニ届出ツヘシ
- 第五條 第一條第二條ノ卒業生ハ其ノ服務年限中毎年未服務ノ情況ヲ文部省ニ報告スヘシ
- 文部省令第十二號女子高等師範學校卒業生服務規則(明治三十年七月二十一日)抄録
- 第一條 女子高等師範學校卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年トシ其ノ間教職ニ從事スル職務アルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル職務アルモノトス
- 第二條 第一條ノ服務ヲ終リタル者ハ其ノ經歷書ヲ具シテ文部大臣ニ届出ツヘシ
- 第四條 卒業生ハ其ノ服務年限中毎年未服務ノ情況ヲ文部省ニ報告スヘシ
- 文部省令第十九號師範學校教諭助教諭會監副導及書記ノ人員(明治三十年十月十一日)抄録
- 第六條 特別ノ事情アルトキハ第一條ノ教諭助教諭ノ人員ヲ増スコトヲ得又助教諭ヲ以テ教諭ニ代フルコトヲ得
- 第七條 教諭助教諭又ハ副導タルニ適當ノ候補者ヲ得ルコト能ハサルトキハ豫メ期限ヲ定メ原教員ヲ以テ第一條ノ教諭助教諭又ハ第三條ノ副導ニ代フルコトヲ得
- 第八條 第六條後段及第七條ノ場合ニハ地方長官ハ其事由ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

○海軍省令第八號

海軍内國旅費規則中左ノ通改正シ明治三十一年九月一日ヨリ施行ス

明治三十一年八月三十一日

海軍大臣侯爵西鄉從道

- 第七條中第六第七ヲ左ノ通改ム
- 六 准士官以上ニシテ臺灣島、澎湖島若ハ竹敷要港部ノ勤務ヲ命セラレ同地ニ家族ヲ移轉セサルトキハ前勤務廳所在地ヨリ東京マテ

七 臺灣島、澎湖島若ハ竹敷要港部ノ勤務ヲ免セラレタル准士官以上及文官ニシテ同地勤務中同所ニ家族ヲ移轉セサル者同地以外ノ陸上勤務ヲ命セラレタルトキハ東京又ハ前勤務廳所在地ヨリ新勤務廳所在地マテ但シ文官ハ前勤務廳所在地ヨリ新勤務廳所在地マテニ限ル同條ニ左ノ一項ヲ加フ

下士ニシテ准士官ニ新任ノ場合ニ在テ本籍海兵團所在地若ハ同上以外ノ勤務地ヨリ家族ヲ移轉スルトキハ其ノ地ヨリ前項ノ例ニ依リ第四表ノ定額ヲ支給ス

第八條第一中「爲リ」ノ下「又ハ志願兵入營ノ際疾病其ノ他事故ノ爲メ其ノ採用ヲ取消サレ」ノ二十八字ヲ加フ

- 第二十五條 前條第一項但書ノ事故ヲ生シタル場合ニ於テ明治三十一年勅令第四十六號第一第二若ハ第五ノ旅行ニ在テハ特ニ海軍大臣ノ認許ヲ得タルモノニ限り其ノ他ノ旅行ニ在テハ左ノ證明書アルモノニ限り事故ノ爲メ増加シタル日數及泊數ニ對シ別ニ日當及宿泊料ヲ支給ス
- 一 傷疾疾病ニ因リ滞在シタルトキハ醫證
- 二 船待ノ爲メ滞在シタルトキハ船舶會社若ハ回漕店又ハ船長ノ證明書
- 三 川留、雪支其ノ他避ク可ラサル事故ニ因リ滞在シタルトキハ其ノ實況ヲ證明シタル書類

〔參照〕

- 海軍省令第二號海軍内國旅費規則(明治三十一年三月二十八日)抄録
- 第七條 前條第一乃至第三ノ事項ノ一ニ該ルモノニシテ家族ヲ移轉スルトキハ左ニ掲クル場合ニ應シ別ニ第四表ノ定額ヲ支給ス
- 六 准士官以上ニシテ臺灣島若ハ澎湖島ノ陸上勤務ヲ命セラレ同地ニ家族ヲ移轉セサルトキハ前勤務廳所在地ヨリ東京マテ
- 七 臺灣島若ハ澎湖島ノ陸上勤務ヲ免セラレタル准士官以上及文官ニシテ同地勤務中同所ニ家族ヲ移轉セサル者該島以



外ノ陸上勤務ヲ命セラレタルトキハ東取又ハ前勤務所所在地ヨリ新勤務所所在地マテ但シ支管ハ前勤務所所在地ヨリ新勤務所所在地マテニ限ル

第八條 左ニ掲ケル事項ノ一ニ該ルトキハ第五條ノ定額ヲ支給ス

一 下士卒豫備役後備役免官免役者ハ歸休兵ト爲リ歸郷スルトキ

第二十五條 明治三十一年勅令第四十六號ニ依リ旅費ヲ支給シ前條第一項但書ノ事故ヲ生シタルトキハ同勅令第一第二若

ハ第五ノ旅行ニ在テハ特ニ海軍大臣ノ認許ヲ得タルモノニ限り又第三若ハ第四ノ旅行ニ在テハ左ノ證明書アルモノニ限

リ事故ノ爲メ増加シタル日數及泊數ニ對シ別ニ日當及泊料ヲ支給ス

一 傷疾疾病ニ因リ滞在シタルトキハ八日

二 船待ノ爲メ滞在シタルトキハ八日船會社若ハ同濟店又ハ船長ノ證明書

三 川買雪支其ノ他運ク可ラサル事故ニ因リ滞在シタルトキハ其ノ實況ヲ證明シタル書類

○文部省令第十九號  
民法第三十四條ニ依リ學術教育ニ關スル社團又ハ財團ヲ法人ト爲サントスルモノ又ハ學術教育ニ關スル社團又ハ財團ニシテ民法施行法第十九條ニ該當スルモノハ其事務所所在地ノ地方長官ノ許可又ハ認可ヲ受クヘシ  
明治三十一年九月一日  
文部大臣尾崎行雄

〔參照〕

法律第十一號民法施行法(明治三十一年六月二十一日官報)抄録

第十九條 民法施行前ヨリ獨立ノ財産ヲ有スル社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ掲ケタル目的ヲ有スルモノハ之ヲ法人トス

前項ノ法人ノ代表者ハ民法第三十七條又ハ第三十九條ニ掲ケタル事項其他社員又ハ寄附者カ定メタル事項ヲ記載シタル

書面ヲ作り民法施行ノ日ヨリ三ヶ月内ニ之ヲ主務官廳ニ提出タシ其認可ヲ請フコトヲ要ス此場合ニ於テ主務官廳ハ其書

面カ民法其他ノ法令ニ反スルトキ又ハ公益ノ爲メ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ認可ヲ得タル書面ハ定款又ハ寄附行爲ト同一ノ效力ヲ有ス

○逕信省令第十六號

開港港則施行細則左ノ通相定メ開港港則實施ノ日ヨリ施行ス

明治三十一年九月二日

逕信大臣林 有造

開港港則施行細則

第一條 港務局官吏船舶ニ臨檢シ該船舶ヲ健康ナリト認ムルトキハ第一號書式ノ交通證書ヲ船長ニ交付スヘシ

第二條 港長ノ示定シタル泊船所ヲ移轉セントスルトキハ船長ハ願書ヲ港務局ニ差出シ豫メ允許ヲ受クヘシ

第三條 船舶ノ著港届ハ第二號書式ニ依リ港務局ニ差出スヘシ



第四條 開港港則第九條ニ於テ爆發物ト稱スルハ「プロラスチング」「セラチン」「彈藥包」「爆發管」「ダイナマイト」「煙火」「導火管」「ゼリグナイト」「ナイトログリセリン」「火藥」「棉火藥」「無煙火藥」「雷管」ノ類ヲ謂ヒ容易ニ燃燒スヘキ物料ト稱スルハ「ブルマ油」「生石油」「石油」「ナフタ」「ナフタリン」「ラングー」「油」「ロック」「油」「松精油」ノ類其他華氏九十五度以上ノ熱度ニ依リ發火スヘキ氣體ヲ發スルモノヲ謂フ

第五條 船舶ニ設備スル大砲一門毎ニ火藥五十發分導火管類七十箇、小銃一挺毎ニ火藥百發分雷管百五十箇及信號用ノ榴彈、火箭、焰管、救命焰ヲ除クノ外爆發質ノ物料ハ總テ之ヲ常用外ト看做ス

第六條 信號用ノ外港界内ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發セントスルトキハ願書ヲ港務局ニ差出シ豫メ允許ヲ受クヘシ

第七條 港界内ニ於テ船舶ヲ休繫シ又ハ修繕セントスルトキハ豫メ其旨ヲ港務局ニ届出ツヘシ

第八條 開港港則第十二條第六項ノ船舶及碇泊中獸類傳染病ノ發生シタル船舶ハ速ニ其旨ヲ港務局ニ届出ツヘシ

第九條 動物ノ死體灰燼塵芥等ヲ取棄ントスル船舶ハ港務局ニ於テ承認シタル塵船ヲ使用スヘシ

第十條 塵船ヲ使用セントスル船舶ハ船内見易キ處ニ「F」ノ信號若ハ籠ヲ掲ケテ目標トナスヘシ

料ヲ添ヘ港務局ニ差出シ允許ヲ受クヘシ

第十一條 繫船浮標使用料ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條 繫船浮標使用ノ允許ヲ受ケタル船舶ハ港長ノ指定シタル繫船浮標ニ限り之ヲ使用スルコトヲ得

港長ハ必要ニ依リ使用スヘキ浮標ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條 船舶出港セントスルトキハ第四號書式ノ出港届ヲ港務局ニ差出スヘシ

外國通航船舶前項ノ手續ヲ終リタルトキハ健全證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得此場合ニ於テハ手数料トシテ五圓ヲ納ムヘシ但條約ニ於テ該手数料ヲ定メタルトキハ其額ニ依ル

健全證書ハ第五號書式ニ依ル

第十三條 一定ノ日時ニ發著スル汽船ニシテ其著港及出港ニ付一回ノ届出ヲ爲ス者ハ第六號書式ニ依ルヘシ

第十四條 出港シタル船舶避難修繕其他事故ノ爲メ出港後十二時間内ニ歸港シタルトキハ其事由ヲ記載シタル届書ヲ港務局ニ差出シ著港届ニ代フルコトヲ得

第十五條 開港港則第二十條ニ規定スル擔保物ハ帝國ノ通貨及帝國政府ノ公債證書ニ限ル

第十六條 本則ノ規定ハ第二條第八條及第九條ヲ除クノ外軍艦ニハ之ヲ適用セス

第十七條 第一條ノ規定ハ沿海通航船ニハ之ヲ適用セス

第十八條 船籍證書ヲ受有スルニ及ハサル船舶及一定ノ港津間ニ往復スル積量百噸以下ノ沿海通航船ハ船主ヨリ豫メ港務局ニ届出テ允許ヲ受クルニ於テハ第三條及第十二條第一項ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 警報信號「正午標準時」港界内ノ航路、泊船所碇泊所ノ區域船舶ノ運動及繫船ノ方法ハ各港ニ付キ港長之ヲ定ム

第一號書式

交通證書

(船名)ハ健康ト認ムルヲ以テ船長某ヘ此交通證書ヲ付與ス

年月日

何港務局長



第二號書式

著港届

- 一 船ノ種類
  - 一 船名
  - 一 船主
  - 一 國籍
  - 一 船籍港名
  - 一 總噸數
  - 一 登簿噸數
  - 一 發航地名(原出地)及發航年月日
- 右 年 月 日 時當港ニ入船候間此段及御届候也

何港務局宛

船長 某

第三號書式

繫船浮標使用願

- 一 船名
- 右何日間繫船浮標使用ノ假許可相成度使用料添此段相願候也
- 年 月 日

何港務局宛

船長 某

第四號書式

出港届

- 一 船名
- 右 年 月 日 時(何地)ノ向ケ當港出船可致候間此段及御届候也

船長 某

第五號書式

健全證書

現時當港ニハ傳染病又ハ流行病之ニ無ク且本日出港(船名)ノ健全ナルコトヲ證明スル爲メ此證書ヲ船長某ニ付與ス

年 月 日

何港務局長

第六號書式

著發届

- 一 船名
  - 一 船主
  - 一 國籍
  - 一 船籍港名
  - 一 總噸數
  - 一 登簿噸數
  - 一 發航地名(原出地)及發航年月日
  - 一 到達地名
- 右 年 月 日 時當港入船 年 月 日 時出船可致候間此段及御届候也

何港務局宛

船長 某

○農商務省令第六號

明治二十八年三月農商務省令第四號狩獵法施行細則第十六條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加シ第十七條ヲ第十八條トシ以下逐條繰下ケ第十八條中第十七條ヲ第十八條ト改ム

明治三十一年九月六日

農商務大臣大石正己



第十七條 左ニ掲クル鳥類ハ五月一日ヨリ九月二十日マテ捕獲スルコトヲ停止ス  
一 鴉  
一 鴉

○陸軍省令第十二號

陸軍省令第十二號

明治三十一年九月八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

目次中「獸醫學校生徒」ヲ「獸醫部依託學生」同依託生徒ニ改ム

第一條中「獸醫學校生徒」ヲ「獸醫部依託學生」同依託生徒ニ改ム

第三條第一項割書中及「獸醫學校生徒」ヲ削ル

第四條中「獸醫學校生徒」年<sub>年</sub>齡<sub>齡</sub>二十<sub>十</sub>年<sub>年</sub>以上<sub>上</sub>三十<sub>十</sub>年<sub>年</sub>以下<sub>下</sub>身長<sub>身長</sub>五<sub>五</sub>尺<sub>尺</sub>以上<sub>上</sub>二十<sub>十</sub>年<sub>年</sub>以上<sub>上</sub>二十<sub>十</sub>年<sub>年</sub>以下<sub>下</sub>身長<sub>身長</sub>五<sub>五</sub>尺<sub>尺</sub>以上<sub>上</sub>ニ改ム

第五條中「獸醫學校生徒」ノ一項ヲ削ル

第六條第二項中「志願者及」以下ヲ及「獸醫部依託學生」同依託生徒志願ノ者亦之ニ同シニ改ム

第十一條中「獸醫學校生徒」ヲ削ル

第四章ノ下「獸醫學校生徒」ヲ「獸醫部依託學生」同依託生徒ニ改ム

第八十三條 「獸醫部依託學生」同依託生徒ノ要員ハ陸軍省軍務局長之ヲ帝國大學總長ニ通牒シ志願者ヲ召募スルモノトス

第八十四條 志願者ハ第八條ニ定ムル願書其ノ他ノ書類ヲ帝國大學總長ヲ經テ陸軍省軍務局長ニ差出シ軍務局長ハ本人ノ學力品行等ヲ審査シ且聯隊區司令部附又ハ他ノ部隊附軍醫ノ身體検査ヲ受ケシメ其ノ成績ニ依リ採用スヘキ者ト否トヲ定メ帝國大學總長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ其ノ採用スヘキ者ニハ依託學生若クハ依託生徒ヲ命スヘシ

身體検査ハ軍務局長豫メ聯隊區司令部官又ハ部隊長ニ照會シ之ヲ行ハシムヘシ  
第八十五條 依託學生及依託生徒ハ帝國大學ノ規定ニ從ヒ修學セシム  
第八十六條 依託學生及依託生徒修學中ハ情願ヲ以テ依託學生又ハ依託生徒ヲ辭スルヲ許サス其ノ成業ノ用途ナキ者及品行不正學業懈怠若クハ規則違犯等ノ故ヲ以テ帝國大學總長ニ於テ退學ノ處分ヲ爲スヘキ者又ハ傷痍疾病ノ爲メ休學六箇月以上ニ至リ仍ホ治癒ノ見込ナキ者アルトキハ陸軍省軍務局長ハ帝國大學總長ノ通知ヲ受ケ依託學生若クハ依託生徒ヲ免スヘシ  
第八十七條 依託學生及依託生徒ニハ授業其他一切ノ費用ニ充ツル爲メ左ノ金額ヲ支給ス  
依託學生 月額金拾五圓  
依託生徒 同 金拾圓

第八十八條 依託學生及依託生徒ノ身上其ノ他戶籍ニ異動ヲ生シタルトキハ本人若クハ保證人ヨリ之ヲ陸軍省軍務局長ニ届出ヘシ  
第八十九條 依託學生及依託生徒其ノ課程ヲ卒ヘ卒業試験ヲ終リタルトキハ陸軍省軍務局長ハ帝國大學總長ヨリ其ノ試験成績ニ關スル通知ヲ受ケ之ニ見習獸醫官ヲ命スヘシ  
第九十條 第九十一條ヲ削除ス

附則  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス但シ明治三十一年召募ノ獸醫學校生徒ニ關シテハ本令施行後ト雖仍ホ從前ノ規定ニ依ル  
第一號書式ノ四第一行及第三行中「獸醫學校生徒」ヲ「獸醫部依託學生」同依託生徒ニ改メ同書式宛名ノ次行「軍醫學校生徒」ノ下「及」以下ヲ「志願者」ニ在テハ該學校長獸醫部依託學生、同依託生徒志願者ニ在テハ陸軍省軍務局長宛トスニ改ム

〔參照〕  
陸軍省令第二十六號陸軍召募規則(明治二十九年十二月十九日)抄録



第六條第二項

- 士官候補生志願者中陸軍補充條例第七條第二ニ該ル者ハ學科試驗ヲ行ハス要スレハ若干ノ科目ヲ選ビ學力ヲ檢定ス醫科大學依託學生志願者及農科大學獸醫學科卒業者ニシテ獸醫學校生徒志願ノ者亦之ニ同シ
- 第八十三條 獸醫學校生徒召募ノ試驗科目左ノ如シ但外國醫學ハ本人ノ寫字ニ依リ英、佛、獨ノ内一種ヲ限り試驗ス
  - 化學
  - 動物學
  - 植物學
  - 解剖學
  - 生理學
  - 病理學
- 外科學
  - 藥物學
  - 外國醫學(和文歐譯、歐文和譯)
- 第八十四條 學科試驗ハ師團司令部所在地ニ於テ十月一日ヨリ之ヲ行フ
- 第八十五條 志願者ハ師團司令部所在地ニ於テ十月一日ヨリ之ヲ行フ
  - ハ之ヲ部長ニ差出スヘシ
  - ハ之ヲ部長ハ志願者ヨリ差出シタル願書其ノ他ノ書類ヲ審查シ第二十五條ノ例ニ準シ八月二十日迄ニ師團獸醫部長ニ送付スヘシ
- 第八十六條 陸軍部内ノ志願者ニ在テハ願書ヲ部長ニ差出シ部長ハ第二十六條第一項ノ例ニ準シ八月二十日迄ニ其ノ書類ヲ師團獸醫部長ニ送付スヘシ
- 第八十七條 師團獸醫部長ハ試驗問題及試驗施行ノ方法ヲ定メ陸軍省軍務局長ノ認可ヲ請ケ之ヲ密封シ九月二十五日迄ニ師團獸醫部長ニ送付スヘシ
- 第八十八條 師團獸醫部長ハ第八十五條及前條ノ書類ヲ取纏メ之ニ志願者人名簿ヲ添ヘ九月十日迄ニ獸醫學校長ニ送付スヘシ
- 第八十九條 獸醫學校長ハ試驗問題及試驗施行ノ方法ヲ定メ陸軍省軍務局長ノ認可ヲ請ケ之ヲ密封シ九月二十五日迄ニ師團獸醫部長ニ送付スヘシ
- 第九十條 師團獸醫部長ハ學科試驗前身體檢査ヲ了スル如ク志願者ヲ召集シ檢査ヲ行ヒ其ノ答解書ヲ密封シ試驗ニ關スル一切ノ書類及寫真紙ト共ニ十月二十日迄ニ獸醫學校長ニ送付スヘシ
  - 身體檢査ハ聯隊區司令部附又ハ他ノ部隊附軍醫之ヲ行フモノトス師團獸醫部長ハ該軍醫ノ出場
- 第九十一條 獸醫學校長ハ前條ノ書類ヲ檢査シ成績ニ依リ採用スヘキ者ト否トヲ定メ其ノ人名簿ニ檢査書類ヲ添ヘ陸軍省軍務局長ニ差出シ認可ヲ請ケ師團獸醫部長、郡市長、町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ其ノ採用スヘキ者ニハ入學ヲ命スヘシ

○遞信省令第十七號

明治三十一年勅令第二百九號在清國帝國領事館附司檢官以下月手當金給與手續ハ明治二十四年遞信省令第七號在外國本邦郵便電信局長郵便局長以下局員月手當金給與細則ヲ準用ス

明治三十一年九月十三日 遞信大臣林 有造

○遞信省令第十八號

帝國ト佛蘭西國及同國經由諸外國トノ間ニ交換スル小包郵便規則左ノ通相定メ本年十月一日ヨリ施行ス

明治三十一年九月二十二日 遞信大臣林 有造

帝國ト佛蘭西國及同國經由諸外國トノ間ニ交換スル小包郵便規則

- 第一條 佛蘭西國及同國經由小包郵便物ハ特ニ指定スル郵便局所ニ限り之ヲ取扱フモノトス
- 第二條 小包郵便法ニ據リ帝國內ニ於テ小包郵便物トシテ郵便ニ差出スコトヲ得サル物品ハ第一條ノ小包郵便物トナスコトヲ得ス
- 第三條 小包郵便物ノ差出人ハ郵便物ニ見易キ様「佛國小包」若ハ「佛國經由小包」ト記載シ其ノ郵便料並ニ手数料ニ對スル相當郵便切手ヲ貼附スヘシ而シテ第一條ノ郵便局所ヨリ交付スル各式紙ニ指定ノ事項ヲ記入シ之ヲ添ヘ該郵便局所ニ差出シ其ノ受取證ヲ受クヘシ
- 第四條 郵便局所ニ於テ小包郵便物中郵送禁止ノ物品封入アリト思料シ又ハ添附式紙ニ記載ノ品名ト封入物品ト相違アリト思料スルトキハ差出人若ハ受取人ヲ召喚ス召喚ヲ受ケタルモノハ郵便局所ニ出頭ノ上其ノ郵便物ヲ開封シ局員ノ檢査ニ供スヘシ
- 第五條 小包郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受クルモノハ郵便局ヨリ其ノ郵便物ニ添附スル配達證若ハ其ノ他ノ式紙ニ記名調印(外國人ナレハ調印)シ之ヲ受取ルヘシ
- 本人ノ家族若ハ雇人本人ニ代テ小包郵便物ヲ受取ルトキハ何某代人ト記載シテ記名調印スヘシ
- 肩書ノ家ニ於テ本人ニ代テ小包郵便物ヲ受取ルトキハ其ノ家主何某代人ト記載シテ記名調印スヘシ
- 官衙、公署、社寺、學校、病院、會社、協會、船舶等ニ於テ小包郵便物ヲ受取ルトキハ相當ノ資格ヲ有ス



ルモノ記名調印スヘシ

第二項第三項及第四項ノ場合ハ之ヲ正當受取人ニ交付シタルモノトス

第六條 輸入税ヲ徵收スヘキ小包郵便物ハ郵便局ヨリ輸入願書其ノ他ノ式紙ヲ以テ受取人ニ郵便物ノ到着ヲ通知スヘシ受取人ハ其ノ通知ノ日附ヨリ三十日以内ニ送付ヲ受ケタル各式紙ニ記名調印シ輸入税ト共ニ郵便局ニ持參シ其ノ郵便物ヲ受取ルヘシ

第七條 小包郵便物ノ損傷アルモノヲ配達交付スルトキハ郵便局ニ於テ損害認定書ヲ作成シ之ニ添附スヘシ但シ認定書記載ノ事項ハ追テ審査ノ上變更スルコトアルヘシ

第八條 小包郵便物損傷亡失若ハ奪掠セラレタル場合ニ於テ損害賠償若ハ郵便料返還ヲ求ムルモノハ其ノ郵便物ヲ引受ケ若ハ配達シタル郵便局ニ書面ヲ以テ申出ヘシ

第九條 名宛人ニ配達交付スルコト能ハサル小包郵便物ノ處分方ニ關シ郵便局ヨリ差出人ニ問合狀ヲ發シタルトキハ最初ノ書面ノ日附ヨリ六十日以内ニ還付ノ名宛變更若ハ放棄等其ノ希望ヲ該郵便局ニ申出ヘシ

第十條 日佛間小包郵便物交換條約ノ同條約施行細則及此ノ規則ノ規定ヲ遵守セサルモノハ其ノ小包郵便物ヲ差出シ若ハ受取ルコトヲ得ス

第十一條 配達及還付ニ能ハサル小包郵便物ハ郵便條例第十一章ニ準シテ處分スヘシ

○司法省令第十七號

明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス

但當分ノ内廣路出張所ハ元平針出張所彌富出張所ハ元十四山出張所廳舎ニ於テ各共事務ヲ取扱フ

明治三十一年九月二十七日

司法大臣大東義徳

一新潟地方裁判所管内長岡區裁判所管轄古志郡石津村ヲ同區裁判所片貝出張所ノ管轄トシ同區裁

判所椋尾出張所管轄同郡北谷村ヲ同區裁判所見附出張所ノ管轄トス

高田區裁判所安塚出張所管轄東頸城郡里見村、川邊村ヲ同區裁判所飯田出張所ノ管轄トス

一神戸地方裁判所管内龍野區裁判所上郡出張所管轄赤穂郡矢野村ヲ同區裁判所ノ管轄トス

一名古屋地方裁判所管内名古屋區裁判所平針出張所ヲ愛知郡廣路村ニ移シ廣路出張所ト稱シ同區裁判所管轄愛知郡千種村、猪子石村、鍋屋上野村及ヒ同區裁判所熱田出張所管轄愛知郡廣路村彌

富村ヲ廣路出張所ノ管轄トス

津島區裁判所十四山出張所ヲ海西郡彌富村ニ移シ彌富出張所ト稱シ同區裁判所管轄海西郡市原

村ヲ同出張所ノ管轄トス

同出張所管轄海東郡千秋村、蟹江町、新蟹江村、福屋村、福田村、茶屋村ヲ津島區裁判所井和出張所

ノ管轄トス

一山口地方裁判所管内萩區裁判所須佐出張所管轄阿武郡福賀村大字宇生賀ヲ同區裁判所奈古出張

所ノ管轄トス

一大分地方裁判所管内杵築區裁判所鶴川出張所管轄東國東郡武藏町ヲ同區裁判所瀬戸田出張所ノ

管轄トス

地方裁判所	區裁判所	同出張所	國	部	市	區	町	村
長岡			古志郡ノ内	長岡町	千手町	草生津町	新町	宮内村 中通村
			長岡本町	川西村	福月村	四箇村	芹川村	宮内村 黒橋村
			前川村	山通村	石坂村	中貫村	山本村	宮内村 新組村
			四郎丸村	川崎村	六日市村	山谷澤村	十日町村	宮内村 種々原村
			栖吉村	虫巻村				
			三島郡ノ内	大島村	日越村	王寺川村	關原村	宮本村 大積村
			才津村					



新潟				
龍野	高田	見附	片貝	桑尾
播磨	安塚	飯田	見附	桑尾
播磨	越後	越後	越後	越後
掛保郡ノ内 龍野町 神保町 新宮村	東頸城郡ノ内 安塚村 未廣村 豐坂村	中頸城郡ノ内 飯田村 東頸城郡ノ内 里見村	南頸城郡ノ内 見附町 郷分村 下關村 古志郡ノ内 北谷村	古志郡ノ内 桑尾町 西谷村 上北谷村
東栗栖村 河内村 龍野村	旭村 眞珠平村	菅原村 川邊村	帶織村 出面村 杉澤村	前東谷村 中野俣村
西栗栖村 室津村 神保村	中川村 嶺村 小切戸村	柳池村	坂井村 神通村 四王村	入東谷村 吉樫村
平井村 御津村 林田村	保倉村 大島村 行野村	高士村	今町 中之島村 大瀧村	椋畑村 五日町村
桑原村 余部村 伊勢村	元保倉村 仁上村 川上村	里五十公野村 美守村	新瀧村 中通村	荷頃村 上鹽村
布施村 堤保村 太市村	中保倉村 船倉村 沼末村	美守村	外通村 中野村	一之貝村 上鹽谷村
牟田村 香島村 小宅村	下保倉村 須川村 沖見村	上杉村	庄川村 中條村	半蔵金村 川谷村

名古屋				
津島	名古屋	熱田	廣路	井和
津島	名古屋	熱田	廣路	井和
尾張	尾張	尾張	尾張	尾張
海東郡ノ内 津島町 神守村 蜂須賀村 海西郡ノ内 開治村	愛知郡ノ内 熱田町 八幡村 星崎村	愛知郡ノ内 熱田町 八幡村 星崎村	愛知郡ノ内 廣路村 白山村 鍋屋上野村	海東郡ノ内 津島町 神守村 蜂須賀村 海西郡ノ内 開治村
八輪村	鳴尾村	鳴尾村	平針村 岩崎村 御器所村	西ノ森村 甚目寺村 寶村
六ノ和村	下之一色村	下之一色村	高社村 長湫村 彌富村	須成村 白鷹村 篠田村
早尾村	瑞穂村	瑞穂村	植田村 島野村	戸田村 東今宿村 赤星村
五合村	資田村	資田村	香久山村 田代村	豊治村 春富村 伊福村
立和村	呼坂町	呼坂町	諸和村 千種村	万須田村 森村 益和村
川治村	笠寺村	笠寺村	春木村 猪子石村	大治村 新居屋村 蟹江町







第九條 傳染病ノ爲ニ閉鎖シタル學校若クハ其舍室ハ再ヒ之ヲ使用スルニ先チ明治三十年文部省訓令第一號定期清潔方法ノ各項ヲ施行スヘシ

其二 消毒方法

第十條 學校ニ於テ第一條第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其屍體、排泄物又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ對シ左ノ區別ニ依リ消毒方法ヲ施行スヘシ但第一條第三類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適宜本條ノ消毒方法ヲ應用スヘシ

一 第一條第一類及第二類ノ傳染病患者ノ屍體、第一類ノ傳染病患者ノ用ヒタル唾壺、第二類ノ傳染病患者ノ上リタル圍房其他障壁、牀、疊、寢具、寢室器具等ハ石灰酸水ヲ以テ消毒スヘシ

二 第一條第二類ノ傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物ハ生石灰又ハ木灰汁ヲ以テ消毒シ強亞爾加里性反應ヲ呈スルニ至ルヘシ

三 食器、被服、寢具等ハ煮沸又ハ蒸氣消毒ニ附スヘシ

四 消毒困難ニシテ廉價ナルモノハ之ヲ燒却スヘシ

五 前各項ノ消毒ニ適セサルモノハ之ヲ刷掃シ數日間日光ニ曝スヘシ

第十一條 消毒ニ供スル藥劑並其應用ハ左ノ如シ

一 石灰酸水(二十倍) 結晶石灰五分、鹽酸一分、水九十

本品ハ屍體、吐瀉物其他ノ排泄物、器具、居室、手足等ノ消毒ニ用フ又衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘサルモノヲ用フヘシ

二 生石灰末 生石灰ニ少量ノ水ヲ澆キ崩壊セシメ本品ヲ以テ吐瀉物其他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ其分量ノ五十分ノ一ヲ用フヘシ又溝渠、芥溜、牀下等ヲ消毒スルニ用フ

石灰乳(十倍) 生石灰一分、水九分

三 格魯兒石灰水(二十倍) 格魯兒石灰五分、水九十

格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スヘシ

附則 第十二條 此省令ハ幼稚園ニ適用ス

(參照) 明治三十年一明十文部省訓令第一號ハ學校清潔方法ノ標準ナリ

○陸軍省令第十三號 屯田兵召集規則中左ノ通改正ス

明治三十一年九月二十九日 陸軍大臣子爵桂 太郎

第三條第四項ヲ削除シ第五項中「年齡」ノ上ニ「同戶籍内ニ」ヲ加ヘ「家族」ヲ「者」ニ改ム

第四條第二項中「身代限」ノ上ニ「本人又ハ其戶主」ヲ加フ

第七條第二項中「其家族中強壯者」二名以上ニ示セル者ヲ「第三條第五ニ該當スル者」ニ第三項中「志願者及其家族」ヲ「前項受檢者」ニ改ム

第十條中「採用者家族中」ノ「採用スヘキ者」ノ戶籍内ニ於テ「五人」ニ改ム

第十一條中「其家族」ヲ「同戶籍内ノ者」ニ改ム

第十三條中「其家族」ニシテ「其戶籍内ノ者」ニ改メ「異動ヲ生シタルトキハ」ノ下ニ「戶主ヨリ」ヲ加



「其事故屯田兵志願者」ヲ「其事故戸主」ニ改ム  
第十四條中「其家族中ノ強壯者」ヲ「第三條第五ニ該ル者」ニ改メ「診斷書ヲ添へ」ノ下ニ「戸主ヨリ」ヲ加フ

第十五條中「屯田兵志願者」ニシテ「ヲ削ル」  
第十八條中「家族」ヲ「戸籍内ノ者」ニ改ム

第五書式 用紙美濃白紙

誓文

今般何某屯田兵ニ御採用相成候ニ付テハ同戸籍内ノ者一同北海道ニ移住シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ兵役者服役中ハ決シテ免役等請願仕間數尙ホ左ノ條々堅ク遵奉可仕候依テ戸主及家族連署誓文如件  
一 兵役者年滿滿限若クハ死亡其他ノ事故ニ依リ免役ト爲リタルトキハ戸主若クハ家族中適當ノ男子ヲシテ兵役ノ殘期ヲ相續セシムヘキ事  
二 戸主ハ家族ヲ訓戒誘導シ一家學ヲ兵役者ヲ輔ケ一家ノ業務ニ從事シ特ニ兵役者出務ノ間ハ戸主若クハ家族中ノ年長者ニ於テ一切ノ取締ヲ爲シ兵役者ヲシテ内顧ノ憂ナカラシムル儘可仕事  
三 兵役者ハ勿論其他ノ者ト雖許可ヲ得スシテ兵村以外ニ寄寓シ若クハ他ノ業務ニ從事スル等ノコト仕間數事  
四 師團長及隊長ノ御遠放御訓示等ハ一家學ヲ嚴重ニ遵守シ決シテ違背仕間數事  
年月日

本人 何 某印  
父 何 某印  
母 何 某印  
兄(弟) 何 某印

〔参照〕

陸軍省令第二十一號屯田兵召募規則(明治三十年八月九日)抄錄  
第三條 屯田兵ニ採用スヘキ者ハ左ノ資格ヲ具フルヲ要ス  
四 戸主若クハ移住期迄二月主トナルヘキ者

五 年滿十五歲以上滿六十歲以下ニシテ身體強壯且北海道ニ移住シ志願者ヲ助ケ農業ニ從事スルノ志操確實ナル家族二人以上ヲ有スル者

第四條 第三條ノ資格ヲ具フル者ト雖モ左ノ事項ノ一ニ該ル者ハ採用セス  
二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者或ニ其處分ヲ受ケスト雖モ移住迄ニ負債ヲ辨償シ得サル者

第七條第二項 市町村長ハ検査當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願者及其家族中強壯者二名以上ニ同シテ検査場ニ出頭シ召集検査ヲ受ケシムヘシ

同條第三項 志願者及其家族ノ検査場往復ニ關スル費用ハ自辨トス

第十條 第七師團長ハ検査成績簿及他ノ書類ニ就キ審査ヲ爲シ採用者家族中ノ扶助ヲ受クヘキ人員ハ豫備員及集合地集合期日ヲ定メ聯隊區司令官ニ通知シ聯隊區司令官ハ島司郡市長並ニ町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ告送スヘシ

第十一條 屯田兵ニ採用ノ途ヲ受ケタル者ハ直ニ其家族トシテ共ニ第五書式ノ誓文ヲ作り市町村長並ニ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

前項ノ誓文ハ聯隊區司令官ニ取據メ第七師團長ニ送付スヘシ

第十三條 屯田兵志願者ニシテ出頭後第四條ノ事項ニ該當シ若クハ屯田兵志願者及其家族ニシテ失踪死亡犯罪其他第二書式ノ明細證明書ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ市町村長並ニ島司郡市長ヲ經テ其旨聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第十四條 屯田兵志願者及其家族中ノ強壯者ニシテ召集検査後傷病若クハ疾病ニ依リ瘥疾不具トナリタルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ速ニ市町村長並ニ島司郡市長ヲ經テ其旨聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第十五條 屯田兵志願者ニシテ第十三條第十四條ノ届出ヲ爲ササル者アルトキハ市町村長並ニ島司郡市長ヨリ速ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第十八條 屯田兵ニ採用ノ途ヲ受ケタル者若クハ其家族ニシテ疾病其他正當ノ事故ニ依リ指定ノ期日ニ移住シ難キ者アルトキハ期日ヲ豫定シ疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書其他ノ事故ニ係ル者ハ憲兵警察官若クハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ聯隊區司令官ニ移住ノ猶豫ヲ顯出テ許可ヲ受クヘシ但本文ノ事故止ミタルトキハ聯隊區司令官ニ届出テ支度料旅費日當及運搬料ヲ受領シ直ニ出發スヘシ

聯隊區司令官前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ之ヲ屯田兵受領員ニ通報スヘシ







本大臣ニ提出スル左記ノ文書ハ自今地方廳ヲ經由スルヲ要セス  
十 取引所仲買人營業免許願及免許狀受書  
十二 取引所ヨリ提出スル左記ノ報告

○農商務省令第八號

明治三十年九月十日 農商務省令第十七號重要輸出品同業組合法施行細則第四條第五條ヲ左ノ通り改正シテ第四條トシ以下各條順次繰上ク

明治三十一年十月六日

農商務大臣大石正己

- 第四條 發起人ハ地方長官ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ組合創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ左ノ書類ヲ添附シテ認可申請ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 組合ノ設置ヲ必要トスル理由
  - 二 組合ノ目的トスル物品並其ノ最近五箇年間組合地域内ニ於ケル生産製造又ハ販賣ノ數量及價額
  - 三 同業者五分ノ四以上ノ同意ヲ證明スヘキ書類
  - 四 經費ノ概算並徵收法ノ見込
- 組合ノ設置ヲ命シタル場合ニ於テハ創立委員ハ直ニ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ其認可ヲ申請スヘシ
- 前二項ノ場合ニ於テ創立總會ノ決議ニ依リ定款ノ認可申請前其ノ役員ヲ豫選シ定款ト共ニ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

〔參照〕

農商務省令第十七號重要輸出品同業組合法施行細則(明治三十年九月十七日)抄錄  
 第四條 發起人ハ地方長官ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ組合創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ役員ヲ豫選シ左ノ書類ヲ添附シテ認可申請ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 組合ノ設置ヲ必要トスル理由
- 二 組合ノ目的トスル物品並其ノ最近五箇年間組合地域内ニ於ケル生産製造又ハ販賣ノ數量及價額
- 三 同業者五分ノ四以上ノ同意ヲ證明スヘキ書類
- 四 經費ノ概算並徵收法ノ見込
- 五 組合ノ設置ヲ命シタル場合ニ於テハ創立委員ハ直ニ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ役員ヲ豫選シ其認可ヲ申請スヘシ

○大藏省令第十六號

明治十九年大藏省令第二十一號印紙類買下買捌規則中左ノ通改正ス

第十一條 印紙類ハ額面ニ對シ百分ノ四ノ割引ヲ以テ買下ヲ爲スモノトス

第十六條中「汚染シ」ノ下ニ「若ハ不用ニ歸シ」ノ七字ヲ挿入シ「八十錢」トアルヲ「九十一錢」ニ改ム

第十七條ヲ削ル

明治三十一年十月七日

大藏大臣松田正久

〔參照〕

大藏省令第二十一號印紙類買下買捌規則(明治十九年六月八日)抄錄  
 第十一條 印紙類ハ各一ト口ノ拂受高ニ從ヒ左ノ割引法ヲ以テ買下ヲ爲ス可シ

拂受高一ト口	割引高
五百圓未満	百分ノ七
五百圓未満	百分ノ八
五千圓以上	百分ノ九

第十六條 印紙類賣捌人所持ノ印紙ニシテ損傷又ハ汚染シタルモノハ十錢以上取替メタルモノニ限リ左ノ割合ヲ以テ之ヲ交換スヘシ

第十七條 印紙類賣捌ニ對シ 交換下付印紙八十錢

第十七條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ル時ハ賣捌殘餘ノ印紙類及ヒ賣捌標札ヲ返納ス可シ此場合ニ於テハ返納印紙面額十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ之ヲ買戻ス可シ

一 廢業又ハ二箇月以上休業スル時



- 一 受恩與者ニシテ恩給ヲ受ケルノ權消滅シ又ハ恩給停止ヲ受ケタル時
- 一 他郡區ニ移住スル時
- 一 實例ヲ禁止セラレタル時

○陸軍省令第十五號

陸軍召募規則中左ノ通改正ス

明治三十一年十月八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

目次第二章中「中央幼年學校生徒」及「第一款中央幼年學校生徒」ヲ削リ「第三款」ヲ「第二款」ニ改ム

第一條中「中央幼年學校生徒」ヲ削ル

第三條中「志願スル」コトヲ得スヲ「採用セス」ニ改メ第四項中「素行修マラサル者」ノ下ニ「及家庭不

良ナル者」ヲ加フ

第四條中「中央幼年學校生徒」ノ一項ヲ削リ「地方幼年學校生徒」ノ下ヲ左ノ如ク改ム

年齡十三年以上十五年以下

身長十四年未滿四尺四寸以上十四年以上四尺五寸五分以上但戰死及戰傷ニ依リ死歿シ又ハ戰役中危難ヲ冒シタルニ起因シテ死歿シタル陸海軍將校及同相當官位ニ高等文官ノ孤兒ニ在テハ身長本文ノ定限ニ違ハサルモ中央幼年學校生徒ト爲ル迄ニ該定限ニ違ハスヘキ見込アル者

第五條中「中央幼年學校生徒」九月一日ヲ削ル

第十條中「地方幼年學校生徒」ヲ削ル

第十一條中「學科試驗」ノ下ニ「及檢定試驗」ヲ加フ

第十二條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十三條 身體檢査及學科試驗或ハ檢定試驗ノ際不正ノ所爲アリテ之ヲ停止セラレタル者ハ爾後

出願スルモ採用セス

第十三條ヲ第十四條ニ改メ以下第二十六條迄逐條繰下ク

第二章ノ下「中央幼年學校生徒」ヲ削ル  
第二十一條中「生理及衛生」以下ノ科目ヲ左ノ如ク改ム

生理學

衛生學

動物學

植物學

物理學

化學

圖畫

外國語學

第二十三條ヲ左ノ如ク改ム

第二十四條 學科試驗ハ四月六日ヨリ之ヲ行フ檢定試驗ヲ行フトキハ其ノ試驗期日亦同シ

第二十六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十八條 前二條ノ身元明細書調製後第四十條ノ通達アル迄ニ其ノ記載ノ事項ニ異動ヲ生シタル者アルトキハ郡市長又ハ部隊長ヨリ速ニ之ヲ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ教育總監ニ移スヘシ但採用ノ通達ヲ受ケタル者ニ付テハ入隊迄本文ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十七條ヲ第二十九條ニ改メ同條中「檢査ノ際」ヲ「入隊スヘキ年ノ七月二十日」ニ改メ以下第二十八條迄逐條繰下ク

第二十八條中「成績」ノ下ニ「各科目ノ得點列挙」ヲ「師團長」ノ下ニ「七月三十一日迄」ニヲ加フ

第二十一條中「第二十五條及第二十六條」ヲ「第二十六條及第二十七條」ニ改ム

第二十三條中「志願者連名簿」以下ヲ「體格檢査表ヲ調製シ之ニ教育總監ヨリ送付セル志願者連名簿



第八號ヲ添へ身體検査主任ノ軍醫ニ下付スヘシニ改ム

第二十四條中「召集」ノ下ニ「檢定試験ヲ行フトキハ」ヲ加フ

第二十八條中「否トハ」ノ下ニ「教育總監ノ通知ニ依リ」ヲ加フ

第二章第二款ヲ刪除シ「第三款」ヲ「第一款」ニ改ム

第五十條ヲ「第四十一條」ニ改メ同條中「初年級」ヲ「第一年級終業」ニ改メ以下第五十八條迄逐條繰上ル

第五十三條中「第二十二條」ヲ「第二十三條」ニ改ム

第五十四條中「四月二十一日」ヲ「四月十日」ニ改ム

第五十六條中「第二十五條」ヲ「第二十六條」ニ改ム

第五十七條第一項但書中「人名書」以下ヲ「人名書ニハ年齢及居住地竝ニ戰死及戰傷ニ依リ死歿シ又ハ戰役中危難ヲ冒シタルニ起因シテ死歿シタル陸海軍將校同相當官及高等文官ノ孤兒ハ其ノ旨ヲ記入スヘシ」ニ改メ第二項中「第五十五條」ヲ「第四十六條」ニ改ム

第五十八條中「第三十條乃至第三十六條」ヲ「第三十二條乃至第三十九條」ニ改ム

第五十九條ヲ刪除ス

第六十條ヲ左ノ如ク改ム

第五十條 地方幼年學校長ハ志願者身元明細表ヲ製シ四月三十日迄ニ教育總監ニ差出スヘシ

第六十一條ヲ「第五十一條」ニ改メ同條中「否トハ」ノ下ニ「教育總監ノ達ニ依リ」ヲ加フ

第六十二條ヲ「第五十二條」ニ改メ同條中「第四十二條」ニ準シ納金證書ヲ「更ニ身元保證人二名ヲ定メ入學期日前ニ納金證書」第九號」ニ改ム

第六十三條ヲ左ノ如ク改ム

第五十三條 生徒ノ納ムヘキ金額ハ左ノ如シ

半特待生

初年度納金 十圓  
 毎月納金 三圓五十錢  
 初年度納金 六圓五十錢

自費生

特待生及半特待生中自己ノ便宜ヲ以テ退校ヲ願出ル者アルトキハ其ノ事情ヲ酌量シ自費生ノ納金額ニ準シ在學中ノ費用ヲ納メシムルコトアルヘシ

同條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第五十四條 前條ノ納金ハ實費ヲ精算シ不足スルトキハ之ヲ追納セシメ殘餘ハ之ヲ還付ス

第五十五條 初年度被服料及入學當月ノ納金ハ入學ノ前月二十八日迄ニ爾後毎月ノ納金ハ其ノ前月二十八日迄ニ身元保證人ヨリ當該學校ニ納付スヘシ但便宜ニ依リ若干月分ヲ前納スルコトヲ得

第六十四條ヲ「第五十六條」ニ改メ以下第八十九條迄逐條繰上ル

第七十九條中「第二十五條」ヲ「第二十六條」ニ改ム

第八十條中「第二十六條」ヲ「第二十七條」ニ改ム

第九十二條ヲ「第八十二條」ニ改メ以下第二百二十九條迄逐條繰上ル

第一百九條中「第九十九條」ヲ「第八十九條」ニ改ム

第一百十九條中「第一百七條」ヲ「第七條」ニ改ム

第二百三十條ヲ左ノ如ク改ム

第二百二十條 明治三十二年召募ノ地方幼年學校生徒ニ限リ年齢十六年以下ノ者ヲ採用ス但其ノ身長ハ十五年以上四尺七寸以上トス

第一號書式ノ二ヲ刪除シ同書式ノ三中追書ノ末ニ左ノ一項ヲ加ヘ之ヲ同書式ノ二ニ改メ以下順次繰上ル

入校後ノ外國語學

佛(獨)(露)語

第四號及第八號書式ヲ左ノ如ク改ム











第六十一條 志願者中採用スル者ト否トハ地方幼年學校長ヨリ郡市長町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ通知ス  
 第六十二條 入學ヲ命セラレタル者ハ第四十三條ニ準シ納金證ヲ學校長ニ送付スヘシ  
 第六十三條 費用ニ關スル件ハ第四十四條第四十五條及第四十九條ニ依ル但毎月納金ハ六圓トス  
 第六十四條 當分ノ内士官候補生、教導團生徒及要塞砲兵射擊學校生徒ハ年齢十八年以上二十六年以下ノ者ヨリ採用ス

○遞信省令第二十號

航海獎勵法ニ據リ保護ヲ受ル船舶郵便物運送規則左ノ通相定ム

明治三十一年十月八日

遞信大臣林 有造

第一條 航海獎勵法ニ據リ保護ヲ受ル船舶郵便物運送規則

セントスルトキハ其ノ都度所有者、其ノ代人若ハ本船ノ船長ヨリ船名竝ニ發航地寄港地到達地  
 及其ノ各地發着豫定年月日時ヲ遅クモ出發ノ前日ニ於テ帝國發航地郵便局ヘ届出ヘシ  
 但シ帝國各港ヘ寄港シ外國ヘ發航スル船舶ニ在テハ發航地郵便局ヘ届出ヲ要セス帝國内最  
 終ノ寄港地郵便局ヘ遅クモ其ノ港出發ノ前日ニ於テ本條ノ届出ヲナスヘシ  
 前項ニ據リ届出タル事項ヲ變更セントスルトキハ速ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第二條 前條ノ發航地若ハ最終ノ寄港地ヲ出發セントスルトキハ船長ハ成ルヘク其ノ時刻ニ接近  
 セル時ニ於テ郵便局ヘ其ノ船員ヲ出頭セシメ積載スヘキ郵便物(小包郵便物、郵便及小包郵便)受取ノ  
 手續ヲナスヘシ

但シ郵便官吏當該船舶ヘ出張シ郵便物ヲ積載スルトキハ船内ニ於テ受取ノ手續ヲナスヘシ  
 第三條 帝國郵便局ノ設置アル清淨諸港ヲ出發スル場合ニハ其ノ郵便局ニ對シ及帝國ヘ向ケ香港  
 ヲ出發スル場合ニハ香港郵便局ニ對シ當該船長第一條第二條規定ノ手續ヲナスヘシ

第四條 郵便局及船舶間ニ郵便物ノ運送ヲナストキハ夜間陸上ニ在テハ船員郵便徽章ヲ附シタル  
 角燈又ハ提灯ヲ携帯スヘシ提燈若ハ小蒸氣船ニハ晝夜ノ區別ニ依リ郵便徽章若ハ同徽章ヲ附シ

タル角燈又ハ提灯ヲ掲揚スヘシ

第五條 船舶ニハ常ニ帳簿ヲ備ヘ郵便物ヲ積載シタルトキハ其ノ年月日時、行囊若ハ包束數及郵  
 便用品ヲ受渡郵便局毎ニ區別記載シ置クヘシ

此ノ帳簿ハ全部使用シタル後二箇年間之ヲ保存スヘシ

第六條 凡テ郵便物運送中ハ其ノ亡失若ハ汚損濕漏等ノ事故ヲ生セサル様安全ニ保護スヘシ

第七條 船内設備ノ郵便函ヘ投入シタル郵便物アルトキハ本船ノ船長若ハ一等運轉士ニ於テ其ノ  
 郵便物ヲ各港碇泊中ト各港間航海中トニ依リ區別把束シ之ニ其ノ旨ヲ記シタル紙片ヲ附シ第五

條ノ帳簿ヘ各其ノ員數ヲ登記スヘシ

第八條 船舶著港シタルトキハ其ノ地郵便局ヘ引渡スヘキ郵便物及前條ノ郵便物ヲ他ノ積載セル  
 貨物ニ先チ陸揚スヘシ

第九條 陸揚シタル郵便物ハ本船ノ船員直ニ其ノ地郵便局ヘ持込ニ第五條ノ帳簿ヘ其ノ郵便物引  
 渡ノ證トシテ當該官吏ノ記名若ハ調印ヲ受ケ之ヲ引渡スヘシ

但シ郵便官吏當該船舶ヘ出張シ郵便物ヲ受取ルトキハ船内ニ於テ帳簿ヘ記名若ハ調印ヲ受ケ  
 引渡スヘシ

第十條 航海中遭難其ノ他ノ事故アリタルトキハ最モ郵便物ノ保護ニ注意シ最寄郵便局ヘ送付若  
 ハ他船ヘ移載スル等本船ノ船長限リ臨機適當ノ處置ヲナスヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ顛末ヲ遞

信省郵務局ヘ報告スヘシ

○海軍省令第十號

海軍召集條例施行細則左ノ通定ム

明治三十一年十月十日

海軍大臣侯爵西鄉從道

海軍召集條例施行細則



第一章 總則

- 第一條 本則ハ海軍召集條例施行ニ關スルコトヲ規定ス
- 第二條 充員召集及演習召集實施ニ關スル通達ハ至急官報ノ電信若ハ使丁等確實迅速ナル方法ニ依ルモノトス而シテ使丁ヲ用フル場合ニ於テハ一時間ニ一里半ノ速度ヲ以テ基準トス
- 第三條 前條ノ電信ヲ受領シタル者ハ其ノ電信ノ全文ヲ掲ケ之ヲ確受シタル旨ヲ附記シ至急官報ヲ以テ返電スヘシ
- 第四條 使丁ヲ以テスル文書ノ發送ニハ召集用封筒樣式第一ヲ用ヒ文書ノ番號封込文書ノ數及發簡時刻ヲ記入シ受領者ハ受領時刻ヲ封筒ニ記入シ受領證區畫ニ捺印ノ上返附スヘシ其ノ本人若ハ召集通報人ニ代テ受領シタル者ハ自己ノ氏名ヲ附記シ捺印スルモノトス
- 第五條 地方長官警視總監憲兵司令官憲兵隊長條例第四條第二項ノ検査ヲ爲シタルトキハ其ノ狀況ヲ鎮守府司令長官ニ通知シ海軍大臣ニ報告スヘシ
- 第六條 條例第二十三條ニ掲グル召集通報人ハ應召ノ義務ナキ親族若ハ近鄰ニ居住スル者ニシテ一家ヲ成ス者ニ限ル
- 海員タル者條例第二十二條第一項但書ニ依リ本人ノ屬スル船舶ノ船籍港若ハ平常運航ノ一港ニ於テ召集ニ應スル場合ニ於テハ陸上ニ在ル船舶所有者若ハ其ノ代理人ヲ以テ召集通報人ト爲スヘシ其ノ船舶所有者及代理人共ニ本邦人ニアラサルトキハ應召地ニ在ル本邦人ヲ召集通報人ト爲シ本邦人ヲ得難キ場合ニ於テハ本籍地ノ親族若ハ近鄰ニ居住スル者ニシテ一家ヲ成ス者ニ就キ召集通報人ヲ定ムルモノトス
- 第七條 召集通報人ヲ定ムタルトキ若ハ變シタルトキハ其ノ住所氏名及其ノ者ノ捺印シタル證書ヲ添ヘ本籍市町村長若ハ在留地ノ領事官貿易事務官ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ召集ニ應シ到著スヘキ海兵團ノ長ニ届出ヘシ

第八條 條例第二十二條第二項ノ手續ヲ了シタル後本籍地ニ復歸スルカ或ハ更ニ應召地ヲ轉シタルトキハ更ニ同項ノ手續ヲ履行スルモノトス

第九條 召集通報人ヲ定ムタル豫備役後備役軍人ノ召集令狀ハ召集通報人ニ向ケ發送スルモノトス

- 第十條 充員召集ノ軍事警報ヲ揭示スヘキ場所ハ左ノ如シ
  - 一 郡市役所 島根支廳若ハ之ニ準スヘキモノ並東京市京都市大阪市及市制ニ準スヘキモノ 町村役場 町村制ヲ施行セザル地方ニ在テハ戶長役場及之ニ準スヘキモノ以下之ニ依リ
  - 二 憲兵本部憲兵分隊首部憲兵分隊支部 警察署 警察分署 巡查派出所 其ノ他衆人ノ注目シ易キ場所

第二章 召集準備

- 第十一條 海軍省ハ豫備役後備役准士官以上ノ召集ニ關スル諸行務ヲ整備シ召集名簿樣式第二ヲ調製シ置キ召集發令ト共ニ召集ヲ行ヒ得ル如ク諸準備ヲ爲シ置クヘシ
- 第十二條 海軍省ハ豫備役後備役准士官以上ノ召集令狀樣式第三一及其ノ封筒樣式第一ヲ調製保管シ且召集旅費ヲ本人ニ直達スルノ準備ヲ爲シ置クヘシ
- 第十三條 海軍省ハ豫備役後備役准士官以上ヲ以テ充ツヘキ部署ニ關スルコトヲ定メ召集ノ際速ニ補職ノ手續ヲ爲シ得ル如ク諸準備ヲ爲シ置クヘシ
- 第十四條 鎮守府司令長官ハ召集發令後豫備役後備役下士卒ノ到著スヘキ期間日間ノ日數ヲ定メ海兵團長ヲシテ被召集員到著豫定表樣式第七ヲ作り郡市役所ニ送付セシム
- 第十五條 鎮守府司令長官ハ被召集員ヲ以テ充ツヘキ艦下艦團其ノ他各部勤務員ノ數及補充員ノ編成等ニ關スルコトヲ定メ之ヲ海兵團長ニ達シ置クヘシ
- 第十六條 鎮守府司令長官ハ召集令及召集通知書ヲ迅速ニ發スルコトニ關シ方法ヲ豫定シ置クヘシ
- 第十七條 海兵團長ハ豫備役後備役下士卒ノ召集ニ關スル諸行務ヲ整備シ兵種及豫備役若ハ後備



役編入ノ年ニ就キ第十九條ニ依リ定ムル召集區ニ別テ更ニ島郡市等ニ區分シ召集名簿格式第四ヲ調製シ置クヘシ

第十八條 海兵團長ハ豫備役後備役下士卒ノ召集令狀格式第三ニ封筒格式第一及旅費證票格式第三ヲ調製シ豫メ之ヲ郡市役所ニ送付スヘシ外國在留者ニ對スルモノハ海兵團ニ於テ之ヲ保管ス

第十九條 海兵團長ハ各地方ノ遠近ニ應シ召集區ヲ定メ召集令下達時間表格式第五及被召集員到著日數表格式第六ヲ調製シ之ヲ鎮守府司令長官ニ進達スヘシ

第二十條 召集名簿中召集通報人ヲ定メタル者ニ在テハ召集通報人ノ住所氏名ヲ記シタル紙片ヲ本人ノ住所及氏名ノ上ニ貼附シ置クヘシ

第二十一條 海兵團長ハ豫備役後備役下士卒ニシテ他ノ鎮守府ノ召集區域内ニ轉籍シタル者及條例第二十二條第一項但書ニ依リ他ノ鎮守府ノ召集區域内ニ於テ召集ニ應セントスル者アルトキハ通知書及履歷書格式第七ヲ添ヘテ召集ニ應シ本人ノ到著スヘキ海兵團ニ送付スヘシ第八條ノ場合ニ於テモ亦同シ

第二十二條 郡市長ハ海兵團長ヨリ被召集員到著豫定表、召集令狀、封筒及旅費證票ノ送付ヲ受タルトキハ管轄地内ニ在ル豫備役後備役下士卒ノ員數及住所等ニ應シ召集令狀ヲ配達スル使丁ノ受持及配達順序ヲ定ムル等最モ迅速ニ召集令狀ヲ交付シ得ヘキ方法ヲ豫定シ置クヘシ

第二十三條 郡市役所ニ於テハ格式第四ノ例ニ依リ豫メ管轄地内ニ在ル海軍豫備役後備役下士卒ノ名簿ヲ調製シ置キ海兵團ヨリ送付シ來レル召集令狀ニ照シ其ノ異同ヲ確メ召集ノ發令アルマテ召集令狀、封筒及旅費證票ト共ニ之ヲ保管シ且異動アル毎ニ訂正ヲ爲スヘシ但シ郡役所ニ於テハ町村役場ヲシテ召集令狀、封筒及旅費證票等ヲ保管セシムルコトヲ得

第二十四條 郡市長ハ豫備役後備役下士卒ニシテ他ノ郡市ニ轉籍シタル者及條例第二十二條第一項但書ニ依リ召集ニ應セントスル者アルトキハ本人ノ召集令狀旅費證票及召集ニ關スル必要ノ書類等ヲ其ノ都度速ニ應召地ノ郡市役所ニ轉送シ其ノ届書ヲ海兵團長ニ轉致スヘシ第二十一條ノ場合ナルトキハ召集ニ應シ本人ノ到著スヘキ海兵團ニ於テ更ニ召集令狀及旅費證票等ヲ調製シ之ヲ應召地ノ郡市役所ニ送付シ舊應召地ノ郡市役所ニ於テハ召集令狀及旅費證票等ヲ海兵團ニ返付スヘシ

第二十五條 市町村長條例第二十條ニ依リ海軍軍用旅舎ヲ定ムルハ約束ニ依ル

第二十六條 前條ニ依リ定メタル海軍軍用旅舎ニハ召集發令ノ際供用スヘキ標旗格式第八及標燈格式第九ヲ用意シ置カシメ且平常海軍軍用旅舎タルヲ明示スヘキ看板ヲ掲ケシムルモノトス

第二十七條 郡市長ハ海兵團長ヨリ受領シタル被召集員到著豫定表ニ就キ意見アルトキハ之ヲ海兵團長ニ通告スヘシ

第二十八條 海兵團長ハ前條ノ意見ヲ調査シ改正ヲ要スト認メタルトキハ之ヲ改正スルコトヲ得

第二十九條 憲兵分隊長ハ警部長ト協議シ第三十三條ニ掲グル諸行務ニ關スル準備ヲ爲シ置クヘシ

第三十條 憲兵本部、憲兵分隊支部、警察署、警察分署及郡市役所町村役場ニ於テハ充員召集ノ爲メ軍事警報格式第十ヲ備ヘ置クヘシ

第三章 充員召集

第三十一條 海軍大臣及鎮守府司令長官ハ充員召集ノ令アリタルトキ之ヲ部下ニ達スルニハ格式第十一ニ依ル

第三十二條 鎮守府司令長官條例第二十四條ニ依リ諸官ニ通知スルニハ格式第十二ニ依ル

第三十三條 憲兵隊長充員召集令ノ通知ヲ受タルトキ及警察署長充員召集令ノ達ヲ受タルトキハ部下ノ憲兵及警部巡查ヲシテ左ノ諸項ニ掲グル件ヲ執行セシムヘシ但シ憲兵隊ヲ置ケル地ニ於テハ憲兵主トシテ之ヲ擔當シ警部巡查ハ之ヲ補助シ憲兵隊ヲ置カサル地ニ於テハ警部巡查專ラ之ヲ擔當スヘシ

明治三十一年十月 省令 海軍省第十號 海軍召集條例施行細則



一 船舶所有主ノ家若ハ會社等ニ到リ港内船舶乘組員中ニ被召集人ノ有無ヲ質シ其ノ發足ヲ促スコト

二 豫定ノ海軍軍用旅舎ニ到リ制規ノ標旗標燈ヲ掲ケレムルコト

三 海兵團ニ到ル沿道ニ於ケル渡船場、停車場、波止場等ニ出張シ旅行ノ便宜ヲ與ルコト

四 旅費支給ノ場所ニ出張シ吏員ヲ補助シテ混雜ヲ制スルコト

五 第十條第二ノ場所ニ軍事警報ヲ揭示スルコト

第三十四條 豫備役後備役准士官以上ノ召集令狀ハ其ノ旅費ト共ニ海軍省ヨリ直ニ本人ニ送付シ第三條若ハ第四條ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第三十五條 郡市長充員召集令ノ達ヲ受タルトキハ召集令狀中ニ年月日旅費支給日時及場所被召集員到著豫定表ニ基キ定メタル到著期日等ヲ記入シ郡市長ニ在テハ之ヲ町村長ニ送付シ町村長ハ速ニ之ヲ被召集人ニ交付シ第四條ノ手續ヲ爲サシメ市長ニ在テハ直接ニ之ヲ被召集人ニ交付シ同様ノ手續ヲ爲サシムヘシ但シ町村長ヲシテ召集令狀ヲ保管セシムルトキハ郡市長ハ町村長ヲシテ本文ノ手續ヲ爲サシムヘシ

到著期日ハ鎮守府司令長官ヨリ通知ヲ發シタル日ニ被召集員到著豫定表所載ノ日數ヲ加ヘタルモノトス

第三十六條 市長充員召集令ノ達ヲ受タルトキハ稅務署長ト協議シ旅費支給ノ日時及場所ヲ定メ旅費證書ヲ稅務署長ニ交付スヘシ

第三十七條 郡市役所町村役場ニ於テ充員召集令ノ達ヲ受タルトキハ其ノ揭示場ニ軍事警報ヲ掲クヘシ

第三十八條 郡市長ハ第四條ノ手續ヲ爲サシメタル召集封筒ヲ取り纏メ召集令狀ノ漏レナク通達セシヤ否ヤヲ調査シ之ヲ海兵團長ニ送付スヘシ

第三十九條 豫備役後備役准士官以上召集令狀ヲ受領シタルトキハ二十四時間以内ニ發足シ一日行程少クトモ十二里以上汽車汽船ノ便アルトノ割合ヲ以テ旅行シ指定ノ場所ニ到著スヘキモノトス

第四十條 豫備役後備役下士卒召集令狀ヲ受領シタルトキハ召集令狀及自己ノ履歴表ヲ携ヘ召集令狀ニ記入シタル日時ニ於テ指示ノ旅費支給場ニ到リ旅費及旅費證書ヲ受領シ召集令狀ニ記入シタル期日ニ海兵團ニ到著シ召集令狀履歴表及旅費證書ヲ差出シ命ヲ待ヘシ

條例第三十四條ニ依リ召集令狀ヲ受取ラントスル下士卒アルトキハ郡市長若ハ町村長ハ第三十五條第一項ニ準シ召集令狀ニ所要ノ記入ヲ爲シ之ヲ交付シ被召集人ヲシテ前項ノ手續ヲ爲サシムヘシ但シ本人ノ發程ヲ差留ムヘキ達ヲ受タル場合ニ於テハ本文ノ手續ヲ爲サス之ヲ海兵團長ニ通知スヘシ

第四十一條 豫備役後備役下士卒海兵團ニ到著シタルトキハ海兵團長ハ其ノ召集令狀及旅費證書ヲ收メ履歴表ヲ點檢シ被服食器等ヲ給シ其ノ私服ヲ格納シ第十五條ニ依リ豫定セラレタル方法ニ依リ處置スヘシ

第四十二條 海兵團長條例第三十七條ノ報告ヲ爲スニハ様式第十三ニ依ル

第四十三條 召集解除ノ達アリタルトキハ海兵團長ハ被召集人ニ私服及旅費ヲ交付シ必要ノ訓示ヲ與ヘ履歴表ヲ檢シ所要ノ記入ヲ爲シ歸郷セシム傷痍疾病犯罪逃亡其ノ他ノ事故ニ依リ歸郷セシムルコト能ハサル者其ノ事故ノ止ミタルトキ亦同シ但シ傷痍疾病者ト雖モ海兵團軍醫長ノ診斷ニ依リ車馬料ヲ給シ歸郷セシメ差支ナシト認ムルトキハ歸郷セシムルコトアルヘシ

第四章 演習召集

第四十四條 演習召集ニハ左ニ掲クル條項ノ外第三章ヲ準用ス

一 第三十三條第一第三第五



























〔參照〕

海軍省令第十五號海軍少主計候補生採用試験規則(明治三十年八月二日)抄録  
 第一條 海軍高等武官補充條例第七條ニ依リ海軍少主計候補生ヲラントスル者ハ願書第一號ニ願書第二號ヲ添ヘ告示シタル試験期日十日目前マテニ海軍省經理局ニ提出スヘシ  
 前項ノ試験期日ハ三箇月前ニ告示ス  
 第三條 學術試験ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ  
 一 憲法 二 民法 三 行政法 四 財政學  
 五 經濟學 六 國際法 七 數學 八 物理學  
 以上ノ科目ハ受験者ニ於テ選擇取捨スルコトヲ得ス  
 一 刑法 二 商法 三 刑事訴訟法 四 民事訴訟法  
 以上ノ科目ハ受験者ヲシテ其中ニ就キ環メ一科目ヲ選擇セシメ之ヲ試験ス  
 前記科目ノ外ニ外國語學ハ其ノ及第點學ヲ隨意科目ト爲シ受験者ノ望ニ依リ試験シ相當ノ點數ヲ與フ

○逓信省令第二十一號

萬國電信條約ニ據リ發送スル電報ノ料金ハ二等電信局三等郵便電信局及電信取扱所ニ在リテハ郵便切手ヲ其電報紙面ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ  
 萬國電信條約ニ據ル電報ニ關シ料金ノ追納ヲ要スルトキハ明治十八年五月太政官布達第七號電信取扱規則第五十六條ニ據ルヘシ

明治二十九年十一月十一日 逓信省令第二十三號ハ之ヲ廢止ス  
 明治三十一年十月十三日

〔參照〕

逓信省令第二十三號(明治二十九年十一月二十四日)  
 萬國電信條約ニ依リ發送スル電報ノ料金ハ二等電信局三等郵便電信局電信局及特ニ指定スル電信取扱所ニ在リテハ相當ノ郵便切手ヲ其電報紙面ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ  
 ○逓信省令第二十一號

逓信大臣林 有造

明治十八年五月太政官布達第七號電信取扱規則第五十六條但書中「鐵道所屬」ノ四字ヲ削除ス  
 明治三十一年十月十三日 逓信大臣林 有造

〔參照〕

太政官布達第七號電信取扱規則(明治十八年五月七日)抄録  
 第五十六條 追徴電報料及手數料ハ之ニ相當スル郵便切手ヲ貼付シタル追徴電報料ニ依リ發信人又ハ受領人ニ於テ其金額ヲ追納スヘシ但鐵道所屬電信取扱所ニ於テ追徴スルトキハ追徴電報料ニ郵便切手ヲ貼付セス

○海軍省令第十三號

海軍內國旅費規則中左ノ通改正シ明治三十一年十月十五日ヨリ施行ス  
 明治三十一年十月十五日 海軍大臣侯爵西鄉從道

第十二條 艦船試運轉、速力試驗若ハ砲銃水雷試射或ハ懸賞射擊其ノ他試驗ノ爲メ艦船ニ乗組出張スルトキハ其ノ日數ニ應シ第二表ノ食卓料ヲ支給シ日當ハ支給セス但シ糧食ヲ官給スルトキハ食卓料ヲ支給セス  
 前項ノ場合ニ於テ臥具ノ設備ナキ爲メ陸地宿泊ヲ要スルトキハ其ノ間第二表宿泊料ノミヲ支給ス

第十七條 中准士官以上ノ下ニ候補生、文官ノ五字ヲ加フ  
 第十八條 中准士官以上ノ下ニ候補生ノ三字ヲ加フ

〔參照〕

海軍省令第二號海軍內國旅費規則(明治三十一年三月二十八日)抄録  
 第十二條 艦船試運轉速力試驗若ハ砲銃水雷試射ノ爲メ艦船ニ乗組出張スルトキハ其ノ日數ニ應シ第二表ノ食卓料ヲ支給シ日當ハ支給セス但シ臥具ノ設備ナキ爲メ宿泊ヲ要スルトキハ其ノ間第二表宿泊料ノミヲ支給ス  
 第十七條 准士官以上及外宿下士隨職旅行中若ハ公務旅行中轉職又ハ轉勤ヲ命シ直ニ赴任スルトキハ現所在地ヨリ勤務地マテ第六條ニ依リ定額ヲ支給ス



第十八條 進士官以上及文官ニシテ公務旅行中死亡シタル者若ハ廢官、退官、非職トナリタル者ハ左ノ區分ニ依リ旅費ヲ支給ス

- 一 出張ノ途中ニ在テハ出發地所在地マテ第五條ノ定額ヲ支給ス
- 二 赴任途中ニ在テハ發任地マテ第六條ノ定額ヲ支給ス

○文部省令第二十一號

明治二十九年文部省令第十二號師範學校尋常中學校高等女學校教員免許規則中左ノ通改正ス

明治三十一年十月十五日

文部大臣尾崎行雄

第二條第二項

試驗ヲ分テ豫備試驗、本試驗ノ二種トシ豫備試驗ハ願書經由ノ地方廳ニ於テ之ヲ行ヒ本試驗ハ文部省ニ於テ之ヲ行フ但東京府廳ヲ經テ出願シタル者ノ豫備試驗ハ文部省ニ於テ之ヲ行フ又豫備試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ本試驗ヲ受クルコトヲ得ス尤モ學科ノ種類ニ依リ又ハ學科目ヲ限リテ試驗ヲ施行スル場合ニアリテハ豫備試驗ヲ省クコトアルヘシ

第二條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ但本項ハ本令發布以後ニ施行スル豫備試驗ニ關シ適用ス

豫備試驗合格ノ效力ハ三年間トス

第六條 檢定ヲ出願スル者ハ年齢男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上身體健全品行方正ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當セサルモノタルヘシ

- 一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニアラス
- 二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
- 三 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第七條第二

二 明治三十一年勅令第二號ニ依リ賜託セラレタル學校醫ノ身體檢查書(三式)但學校醫ノ設置

ナキ地ニアリテハ明治三十一年文部省令第七號第一條若クハ第二條ニ該當スル資格アル醫師ノ検査書ヲ以テスルモ妨ケナシ又實地身體ノ検査ヲ必要ト認メタル者ニ就キテハ試驗ノ際檢定委員之ヲ施行ス

第九條中師範學校女子部及高等女學校教員檢定學科目ノ内各「理科」ヲ削リ「物理」「化學」「植物」「動物」「生理」「礦物」ニ改ム

第十條第一項一中帝國大學理科大學元簡易講習科卒業生ノ次ニ帝國大學農科大學實科卒業生ヲ加ヘ元東京音樂學校卒業生ノ次ニ高等商業學校附屬外國語學校卒業生ノ學習院高等學科大學科卒業生ヲ加フ

第十五條中「受クル者」四字ヲ「受ケントスル者」ニ改ム

三號書式 用紙表裏紙

身體檢查書

道廳府縣華士族平民

何

某

年月日生

- 一 體格
- 一 身長
- 一 體重
- 一 胸圍
- 一 中心視力
- 一 色盲
- 一 眼病
- 一 聴力

眼病ノ有無

常時

充盈(盈虚)ノ致

空虛(盈虚)ノ致

在遠(遠近)ノ度







元東京職工學校卒業生  
 高等師範學校附屬音樂學校卒業生  
 元東京音樂學校卒業生  
 第十五條 第十條第一項ニ依リ更ニ免許狀ヲ受クル者及免許狀ヲ毀損亡失シ若クハ氏名ヲ變更シタル等ノ爲其書換ヲ出願スル者ハ免許狀一通ニ付手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

○農商務省令第九號

明治二十六年七月農商務省令第十三號中左ノ通り改正ス

明治三十一年十月十五日

農商務大臣大石正己

第五條第十號ヲ「買賣受渡及證據金ニ關スル事項」ト改ム

第十條中六箇月トアルヲ一箇年ト改ム

第十二條ヲ左ノ如ク改ム

第十二條 農商務大臣仲買人ノ免許ヲ與ヘタルトキハ免許狀ヲ取引所ニ送付ス取引所ハ直ニ之ヲ本人ニ告知シ免許料ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル受書及身元保證金ヲ差出サレメタル上交付スヘシ

仲買人ニ於テ右ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ前項ノ手續ヲ了セサルトキハ免許ハ其效力ヲ失フモノトス

免許狀ノ受書ハ速ニ取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十五條第七號ノ次ヘ左ノ一號ヲ追加シ以下繰下ク

八 毎半季事業報告書

第十六條第一項中文書ハ「下」總テ「ノ」二字ヲ削除シ「別段ノ規定アルモノヲ除ク外」ノ十三字ヲ挿入ス

同條第二項中「前項書類」ノ下ヲ接受シタルトキハ「九」字ヲ削除シ「ニ付特ニ意見アルトキハ」ノ十一字ヲ挿入シ又但書ヲ「但取引所設立發起認可申請ニ關シテハ必共意見ヲ付シ及發起人ノ身元ヲ詳查シ之ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ」ト改ム

〔參照〕

農商務省令第十三號取引所法施行規則(明治二十六年七月二十二日)抄録

第五條 取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ但其他必要ノ事項ハ之ヲ掲載スヘシ

十 買賣及受渡ニ關スル事項

第十條 取引所ハ設立ノ免許ヲ得タル日ヨリ六箇月以内ニ開業セサルトキハ其免許ノ效力ヲ失フモノトス

第十二條 農商務大臣仲買人ノ免許ヲ與ヘタルトキハ地方長官ヲ經由シ免許狀ヲ取引所ニ送付シ取引所ハ免許料ノ金額ニ相當スル空能印紙ヲ貼用シタル受書及身元保證金ヲ差出サシメタル上之ヲ本人ニ交付スヘシ

第十五條 取引所ハ左ノ報告書ヲ調製シ各期限ニ從ヒ農商務大臣ニ差出スヘシ

七 毎半季損益計算表

八 毎半季末日現在會員、株主、仲買人氏名表

以上決算期後二十日限り發送

第十六條 取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ文書ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ハ前項書類ヲ接受シタルトキハ意見書ヲ添附シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但取引所設立發起認可申請書ヲ接受シタルトキハ特ニ發起人ノ身元ヲ詳查スヘシ

第十七條 仲買人ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ文書ハ總テ之ヲ取引所ニ差出シ取引所ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

○大藏省令第十七號

明治三十年十一月當省令第二十一號葉煙草專賣支所名稱位置表中左ノ通追加ス

明治三十一年十月二十日

大藏大臣松田正久

名古屋葉煙草專賣所、御嵩葉煙草專賣支所ノ次ニ

小牧葉煙草專賣支所

愛知縣東春日井郡小牧町



山田葉煙草專賣所、八知葉煙草專賣支所ノ次ニ

四日市葉煙草專賣支所 三重縣四日市市

○逓信省令第二十三號

明治二十五年<sup>三</sup>月逓信省令第八號配達證明郵便規則第八條左ノ通改ム

第八條 此ノ規則ハ帝國郵便局ノ設置アル清韓各地ヲ除キ其ノ他ノ外國ニ發著スル郵便物ニ適用セズ 逓信大臣林 有造

〔參照〕

逓信省令第八號配達證明郵便規則(明治二十五年三月二十五日)抄録 第八條 此規則ハ外國郵便ニ適用セズ

○逓信省令第二十四號

郵便はかき登錢ノ様式ヲ改正シ其ノ刷色ヲ赭色トシ來十二月一日ヨリ發行ス見本ノ照鑑ヲ要スルモノハ郵便局郵便受取所ニ就テ觀ルヘシ 但シ當分從前ノ郵便はかき登錢ヲ取交使用セシム

明治三十一年十月二十一日

逓信大臣林 有造

○逓信省令第二十五號

明治二十五年<sup>九</sup>月逓信省令第十三號小包郵便法施行細則中左ノ通改正ス

明治三十一年十月二十六日

逓信大臣林 有造

第七章 清韓小包

第五十四條ノ次ニ左ノ通追加ス

第七章 清韓小包

第五十五條 日本、清、韓三國相互間並ニ清韓各國内ニ發著スル小包郵便物ニシテ外國郵便局ノ取扱ヲ經サルモノニハ本章及本章ニ抵觸セサル各章ノ規定ヲ適用ス

第五十六條 清韓國ニ於ケル小包郵便物ノ配達及別配達ハ在帝國帝國郵便局所ニ於テ郵便物ノ配達ヲ施行スル地ニ限ル其ノ以外ノ地ニ宛タルモノハ總テ之ヲ到著郵便局ニ留置キ受取人ノ出局ヲ待テ交付スヘシ

清韓國ニ於ケル小包郵便留置ノ期限ハ小包郵便物到達ノ日ヨリ起算シ三十日以内トス

第五十七條 日本、清、韓三國相互間ニ發著スル小包郵便物ニハ各共ノ稅關ニ關スル法令ヲ適用ス

前項ノ小包郵便物ハ差出人ニ於テ其ノ包有品名及價格ヲ送票中ニ記載スヘシ 第五十八條 稅關ニ於テ小包郵便物ヲ檢査シ其ノ包有品ニ對シ關稅ヲ賦課シタルトキハ輸出稅ニ付テハ差出人輸入稅ニ付テハ受取人ノ納付スヘシ

受取人關稅ノ納付ヲ拒ムトキハ該小包郵便物ハ差出人ニ還付スヘシ 第五十九條 關稅ヲ徵收スヘキ小包郵便物ハ到著郵便局ヨリ其ノ通知書及輸入願書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ其ノ輸入願書ニ記名調印シ輸入稅ト共ニ郵便局ニ持參スヘシ

受取人前項ノ規定ヲ履行セサルトキハ該小包郵便物ハ留置ノ規定ニ準シ其ノ期限經過後差出人ニ還付スヘシ 第六十條 小包郵便物ヲ到著郵便局ノ區外ニ轉送又ハ還付スルトキハ其ノ轉送又ハ還付毎ニ新ニ差出シタルモノト見做シ更ニ相當郵便料ヲ徵收ス



差出國外ニ轉送又ハ還付スル小包郵便物ニシテ關稅ヲ徵收スヘキモノハ其ノ關稅及前項ノ郵便料ヲ併徵ス

第六十一條 小包郵便物ノ受取人ハ稅關ニ於ケル開封又ハ該開封ニ因ル重量ノ異動ノ爲之カ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十二條 在清韓國帝國郵便局所ニ差出シタル小包郵便物損害ノ賠償ハ之ヲ其ノ差立局所ニ請求スヘシ

前項ノ請求ヲ受ケタル局所ニ於テハ其ノ請求ノ當否ヲ審查シ其結果ニ依リ賠償金額若ハ賠償不要ノ決定ヲ請求人ニ通知スヘシ

雜則

第六十三條 本細則中調印ヲ要スル總テノ場合ニ於テ外國人ハ署名ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

○逓信省令第二十六號  
明治二十九年九月九號代金引換小包郵便規則中左ノ通改正ス

第六條中「捺印」ノ下ニ左ノ註ヲ追加ス  
明治三十一年十月二十六日  
逓信大臣林 有造

第九條ニ左ノ但書ヲ追加ス  
但シ在清韓國帝國郵便局所發著小包郵便物ハ現金ヲ以テ前納セシムルコトアルヘシ

〔參照〕

逓信省令第十九號代金引換小包郵便規則(明治二十九年九月二十一日)抄錄  
第六條 代金引換小包郵便物ノ差出人ハ其代金額ヲ小包送票ノ摘要欄内ニ明記シ之ニ捺印スヘシ

第九條 小包郵便差立後電報ヲ以テ代金引換ノ請求ヲ取消サントスルモノハ郵便切手ヲ以テ其電報料ニ相當スル金額ヲ納スヘシ

○逓信省令第二十七號

明治三十年六月逓信省令第十二號船舶検査規程中左ノ通追加ス

明治三十一年十月二十七日

逓信大臣林 有造

第十一條へ左ノ一項ヲ加フ

船體、機關又ハ屬具ノ構造方法此ノ規程ニ該當セサルモ逓信大臣ニ於テ之ト同一ノ效力ヲ有スト認メタルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

○農商務省令第十號

明治三十年七月農商務省令第十一號度量衡法施行規則中左ノ通改正ス

明治三十一年十月二十八日

農商務大臣大石正己

第二條甲號書式中秤ノ部ヲ左ノ通改正ム

種類	物	質	秤	量	感量	製作又ハ輸入番號	箇數
天	秤	何	又ハ何	又ハ何	何	何	何
蓋	秤	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ
桿	秤	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ

同條乙號書式中秤ノ部ヲ左ノ通改正ム



種	類	秤	量	感	量	箇	數
天	秤	又ハ何「キログラム」	又ハ何「ミリグラム」	何	何	何	箇
蓋	秤	右ニ同シ				右ニ同シ	
桿	秤	右ニ同シ				右ニ同シ	

第六條但書ヲ左ノ通改ム

但度量衡法第二十一條ノ場合ヲ除ク外定期檢定ノ年ニ用ヰル證印ハ別ニ之ヲ定ム

〔參照〕

農商務省令第十一號度量衡法施行規則(明治三十年七月十二日)抄録

第六條 證印、證書及消印ノ種類、雛形ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ定期檢定ニ用ヰル證印ハ別ニ之ヲ定ム

○農商務省令第十一號

明治三十二年度量衡定期檢定ノ際度量衡器ニ附スヘキ印及出張修覆ノ件左ノ通定ム

明治三十一年十月二十八日

農商務大臣大石正己

打込印

烙印

押印

大二分平方  
中一分二厘平方  
小六厘平方

大四分平方  
小二分平方

二分平方

第二條 明治三十一年ニ於ケル度量衡器製作所、修覆所及販賣所ノ賣殘リ器物ニシテ明治二十六年

年以後ノ檢定ヲ受ケタルモノニハ左ノ印ヲ附スヘシ

打込印

烙印

押印

時

大二分平方  
中一分二厘平方  
小六厘平方

大四分平方  
小二分平方

二分平方

前項ノ印ヲ附シタル器物ハ明治三十二年ノ定期檢定ヲ受クルコトヲ要セス

第三條 度量衡定期檢定ニ於テ證書ノ附シタル器物ニシテ合格シタルトキハ其證書ニ證印ヲ附ス

ヘシ

第四條 第一條及第二條ノ印ヲ附スヘキ局部及其用方ハ度量衡檢定期程第二十九條、第三十條及

第三十一條ノ規定ヲ準用スヘシ但證書ニ對シテハ「檢定之證」ノ欄ノ上部ニ押印ヲ附スヘシ

第五條 度量衡器ノ製作、修覆ノ免許ヲ受ケタル者ハ度量衡定期檢定ノ年ニ限り地方長官ノ認可

ヲ得テ該地方ニ於テ出張修覆ヲナスコトヲ得

地方長官ハ土地ノ狀況ニヨリ前項修覆者ノ員數其他必要ナル制限ヲ設クルコトヲ得



○海軍省令第十四號

海軍内國旅費規則中ノ通改正ス

明治三十一年十一月八日

海軍大臣 侯爵 西郷從道

第三十二條中辭令受領ノ下ニ若ハ官報ニテ承知ノ八字ヲ加フ  
第三十九條中辭令受領ノ下ニ若ハ官報ニテ承知ノ九字ヲ加フ

〔参照〕

海軍省令第二號海軍内國旅費規則(明治三十一年三月二十八日)抄録  
第三十二條 旅行中任官進級等ニ因リ旅費等級ニ異動アリタルトキハ辭令受領ノ日ヨリ相當ノ旅費ヲ支給ス  
旅行中準備後備ト爲リタルトキハ其ノ辭令受領ノ翌日ヲ以テ旅費ノ支給ヲ區分ス  
第三十九條 准士官以上及文官ニシテ家族ヲ移轉シ第七條ノ旅費定額ヲ受ケントスルトキハ辭令受領後三十日以内ニ所管  
長官ニ申請シ家族移轉ノ承認ヲ受ケヘシ其ノ承認ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ家族ヲ移轉セサルトキハ其ノ旨ヲ速ニ  
届出テ既ニ旅費定額ヲ給シタルモノハ還納セシム但シ疾病若ハ忌服等ノ爲メ移轉スル能ハサルトキハ所管長官ニ於テ相  
當ノ證據ヲ與フルコトヲ得  
准士官以上及文官ニシテ前項ノ日限内未タ家族ヲ移轉セスシテ更ニ轉職轉動シ若ハ待命休職停職ト爲リタルトキハ前項  
ノ規程ニ依リ前勤務所在地ヨリ新任地若ハ東京又ハ指定地マテ旅費定額ヲ支給スルコトヲ得

○海軍省令第十五號

海軍内國旅費規則第十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

明治三十一年十一月九日

海軍大臣 山本權兵衛

測量土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡迴スル者又ハ常時旅行ヲ要スル者ニ對シテハ海軍大臣ノ認許ヲ  
得テ旅費定額以内ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ支給スルコトヲ得  
旅行ノ性質土地ノ狀況等ニ依リ海軍大臣ニ於テ該旅費ノ減額給與ヲ至當ト認ムルトキハ前項ニ  
準シ特ニ之カ給額ヲ定ム



〔参照〕

海軍省令第二號海軍内國旅費規則(明治三十一年三月二十八日)抄錄  
第十一條第二項

測量土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡廻シ若ハ現場ニ滞在スル者又ハ平常現場ニ旅行ヲ要スル者ニ對シテハ海軍大臣ノ認許ヲ得テ第二表定額以内ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

○逓信省令第二十八號

明治二十三年十一月 逓信省令第二十三號郵便貯金條例施行細則中左ノ通改正シ來十二月一日ヨリ施行ス

但明治十九年六月逓信省告示第六十四號及同年十月逓信省告示第九十一號ハ本月三十日限り廢止ス  
明治三十一年十一月十一日 逓信大臣子爵芳川顯正

第一條ヲ左ノ通改ム

第一條 郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ貯金ヲ取扱フ郵便電信局、郵便局、郵便受取所又ハ郵便貯金預所ニ於テ貯金預入申込書用紙ヲ申受ケ之ニ居所、職業、氏名ヲ記載調印シ且印鑑ノ部ニ捺印ノ上之ヲ其局所ニ差出シ通帳ヲ受領スヘシ

第五條中「自己ノ氏名ヲ陳述シ」ノ九字ヲ刪除ス  
第十四條中「金額」ノ下「及」ノ一字ヲ刪除シ「受取ラント欲スル局」ノ下「名其他式ノ如ク記入シ記名調印ノ上」トアルヲ「所名、居所及氏名ヲ記載調印シ且印鑑ノ部ニ捺印ノ上」ト改メ且左ノ但書ヲ加フ  
但貯金全部拂戻ノ場合ニ於テハ其拂戻金額ヲ記載セス單ニ全拂ト記載スヘシ  
第十六條中「其證書」ノ下「ニ記名調印シ」トアルヲ「記名」ノ下ニ調印シト改メ又「拂渡局」ノ下ニ「所」ノ一字ヲ加フ  
第十七條中「拂渡局」ノ下ニ「所」ノ一字ヲ加フ

第十八條ヲ左ノ通改ム  
第十八條 貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ一箇月一回金二十四迄ヲ限り即時拂ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得

但本條ノ請求ヲ爲ストキハ十錢以上ノ預ケ金ヲ殘シ置クヘキモノトス  
一預ケ金ヲ爲シタル局所ニ其預入金額ノ内幾部拂戻ヲ請求スル場合  
一再度通帳ノ交付ヲ受ケタル局所ニ繰越金額ノ内幾部拂戻ヲ請求スル場合  
一相續シタル貯金ノ轉記濟通帳ノ交付ヲ受ケタル局所ニ其轉記金額ノ内幾部拂戻ヲ請求スル場合

第二十條中「拂渡局」ノ下ニ「所」ノ一字ヲ加フ  
第二十一條但書中「請求書經由ノ局」ノ下ニ「所」ノ一字ヲ加フ  
第二十二條中「請求書經由局」ノ下ニ「所」ノ一字ヲ加ヘ又電報例ヲ左ノ通改ム

第二十三條中「拂渡局」ノ下ニ「所」ノ一字ヲ加ヘ「通帳受取證書」ノ下ニ「提供シ同局」トアルヲ「示シ同局所」ト又「ニ記名調印」ノ上「トアルヲ」記名」ノ下ニ調印シト改ム

第二十八條 刪除

第三十一條中但書刪除

第三十二條中「局所」ノ下「請求人ノ求メニ從ヒ」ノ九字ヲ刪除ス

第三十三條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但天災其他避クヘカラサル事故ニ因ルトキハ手数料ヲ免除スルコトアルヘシ

第六款ノ下「貯金相續」ヲ「貯金名前書換」ト改ム

第三十四條ヲ左ノ通改ム



第二十四條 貯金預ケ人共家督相續人ニ貯金ヲ讓與センカ爲其名前書換ヲ請求スルトキハ預ケ人相續人連署ノ請求書ニ通帳及相續人ノ印鑑ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經テ之ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ差出スヘシ

第二十五條 貯金預ケ人死亡シ其家督相續人又ハ遺產相續人ニ於テ貯金ヲ相續シタル爲其名前書換ヲ請求スルトキハ證人ヲ立テ其事實ヲ證明シタル名前書換請求書ニ通帳 戶籍吏ノ相續證明書又ハ戶籍ノ謄本及相續人ノ印鑑ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經テ之ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ差出スヘシ

第三十八條及第三十九條 刪除

第七款 貯金拂戻證書ノ亡失毀損汚斑ノ下ニ及拂渡局所變更ノ七字ヲ加フ

第四十條ヲ第三十九條ト改メ同條中「貯金拂渡局」ヲ「貯金取扱局所」ト又「貯金拂渡認可證書」ヲ「再度貯金拂戻證書」ト改メ

第四十一條ヲ第四十條ト改メ同條中「貯金拂渡認可證書」ヲ「再度貯金拂戻證書」ト又「拂渡認可證書」ヲ「再度證書」ト改メ

前條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四十一條 貯金預ケ人貯金拂戻證書ニ記載シタル局所ニ於テ拂戻金ヲ受取ルニ不便ナルトキハ貯金取扱局所ニ拂戻證書ヲ示シ拂渡局所變更請求書ヲ差出スヘシ

第五十條第二項刪除

第五十一條中「局」ノ下ニ「所」ノ一字ヲ加ヘ第二項其證書ノ下「受領ノ部ニ記名調印シ」トアルヲ「記名ノ下ニ調印シ」ト改メ

第九款ニ左ノ二條ヲ加ヘ第五十二條以下順次繰下ク

第五十二條 第十八條第二十一條第二十七條第二十九條第三十四條第三十五條第三十六條第四十八條第五十條第五十三條及第五十五條ノ通帳 保管證書 公債證書ヲ通帳又ハ請求書經由局所外ニ於テ受取ラント欲スルトキハ其局所ヲ指定スヘシ

第五十三條 貯金預ケ人ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ヨリ檢閲ノ爲其通帳ヲ差出スヘキ旨通知ヲ受ケタルトキ又ハ其通帳ノ檢閲ヲ請ハントスルトキハ貯金取扱局所ヲ經テ之ヲ差出シ其受取證書ヲ領置スヘシ

〔參照〕

逓信省令第二十三號郵便貯金條例施行規則(明治二十三年十一月二十六日)抄録

- 第一條 郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ貯金ヲ取扱フ郵便電信局郵便局又ハ郵便貯金預所ニ到リ貯金預入申込書用紙ヲ申受ケ式ノ如ク記入シ記名調印ノ上之ヲ其局所ニ差出シ通帳ヲ受領スヘシ
- 第五條 貯金預ケ人利子記入等ノ爲メ通帳ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ差出申預ケ金ヲサントスルトキハ貯金取扱局所ニ通帳受取證書ヲ示シ自己ノ氏名ヲ陳述シ預ケ金ヲ差出シ其假領收證書ヲ領置スヘシ
- 前項ノ預ケ人通帳ノ返戻ヲ受ケタルトキハ之ニ假領收證書ヲ添ヘテ其預ケ金ヲ爲シタル局所ニ差出シ其預ケ金ノ歸配ヲ受クヘシ
- 貯金取扱局所ノ主務者前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ假領收證書ヲ引揚ケ第四條ノ手續ニ準シ其預ケ金ヲ通帳ニ調記シ之ヲ預ケ人ニ交付スルモノトス
- 第十四條 貯金預ケ人貯金ノ拂戻ヲ要スルトキハ貯金取扱局所ニ設ケアル拂戻請求書用紙ヲ申受ケ之ニ金額及拂戻金ヲ受取ラント欲スル局名其他式ノ如ク記入シ記名調印ノ上通帳ヲ添ヘ之ヲ其局所ニ差出シ通帳受取證書ヲ受領スヘシ
- 第十六條 貯金拂戻請求人拂戻證書ヲ受領シタルトキハ其證書ニ記名調印シ通帳受取證書ト共ニ之ヲ拂渡局ニ差出シ拂戻金ヲ受領シ且通帳ノ返戻ヲ受クヘシ但貯金全額拂ノ通帳ハ返付セサルモノトス
- 第十七條 代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ラントスル者ハ拂戻證書ノ裏面ニ委任ノ證明ヲ爲スカ又ハ拂戻證書ニ代人屆書ヲ添ヘテ之ヲ拂渡局ニ差出サシメ其代人ハ其拂戻證書ニ代人ノ肩書ヲ爲シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十八條 貯金預ケ人預ケ金ヲ爲シタル局所ニ貯金拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ其局所ニ預入ヲ爲シタル預ケ金高ノ内金二十圓迄又再度通帳ヲ所持スル者其再度通帳ヲ受領シタル局所ニ貯金拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ其繰越金高ノ内金



二十圓迄ヲ限リ即時拂フ取扱ヲ請求スルコトヲ得但本條ノ請求ヲ爲ストキハ十圓以上ノ預ケ金ヲ殘シ置クヘキモノトス

第二十條 即時拂フ要スル貯金ノ拂戻證書ハ其拂渡局ニ於テ之ヲ調製シ其請求人ノ居所ニ送達スルモノトス但拂戻證書ハ其拂渡局ニ於テ便宜請求人ニ直ニ交付スルコトアルヘシ

第二十一條 貯金預ケ人ハ貯金圓位以上ノ幾分拂戻ニ限リ電報拂戻ヲ請求スルコトヲ得但其拂戻金ノ拂渡ハ請求書經由ノ局ニ限ル

前項ノ場合ニ於テハ郵便切手ヲ以テ手数料金三十二錢ヲ納付シ且テ第十四條ノ規定ニ依ルノ外尙請求書ノ副本ヲ添フ

第二十二條 前條ノ請求アリタルトキハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ拂戻證書ヲ發行セズ左ノ例ニ依リ電報ヲ以テ拂戻許可ノ旨ヲ請求書經由ノ局及請求人ニ通知スヘシ

但郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ拂戻施行上特ニ調査ヲ要スルトキハ其旨ヲ請求人ニ通知シ通常拂戻ノ手續ヲ爲スコトアルヘシ此場合ニ於テハ郵便切手ヲ以テ先ニ納付シタル手数料ヲ還付ス

電報例

五(二三四)キヨカス

第二十三條 貯金拂戻請求人前條ノ電報ヲ受ケタルトキハ其電報送達紙ヲ拂渡局ニ差出シ尙通帳受取證書ヲ提供シ同局ヨリ交付スル拂戻證書ニ記名調印ノ上拂戻金ノ拂渡ヲ受ケヘシ

第二十八條 貯金通帳差出人利子記入済通帳ヲ前條ノ經由局所外ニ於テ受取ラント欲スルトキハ初メ通帳ヲ差出ストキ其局所ヲ指定シテ申出ヘシ

第三十一條 貯金再度通帳ヲ請求シタル者前條ノ告知ヲ受ケタルトキハ通帳受取證書ヲ請求書經由ノ局所ニ差出シ新規通帳ノ交付ヲ受ケヘシ但請求人新規通帳ヲ請求書經由ノ局所外ニ於テ受取ラント欲スルトキハ初メ請求書ヲ差出ストキ其局所ヲ指定シテ申出ヘシ

第三十二條 貯金再度通帳發行通知書ヲ受ケタル局所ハ請求人ノ請求ニ從ヒ該通知書ニ依リ再度通帳ヲ調製シ通帳受取證書ト引換ヘ之ヲ其請求人ニ交付スルモノトス

第三十三條 第一項

貯金通帳毀損汚害又ハ亡失ノ爲メ再度通帳ヲ交付スル場合ニ於テハ通帳一冊ニ付手数料金十錢ヲ徵集スヘシ

第六款 貯金相續

第三十四條 貯金預ケ人其家督相續人ニ貯金ヲ繼承セントスルトキハ預ケ人相續人連署ノ書面ヲ以テ通帳及相續人ノ印

經テ添ヘ貯金取扱局所ヲ經テ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ名前替換ヲ請求スヘシ

第三十五條 貯金預ケ人死シタルトキハ其家督相續人ニ於テ相續人タルコトヲ證明セル書面ヲ以テ通帳ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經テ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ貯金ノ拂戻ヲ請求スルカ又ハ名前替換ヲ請求スヘシ但名前替換ヲ請求スルトキハ同時ニ相續人ノ印鑑ヲ差出スヘシ

第三十八條 家督相續人ナキ貯金預ケ人死シタルトキハ其貯金ヲ相續シタル者ニ於テ証人ヲ立テ其事實ヲ證明シ第三十五條ノ手續ニ由リ貯金ノ拂戻ヲ請求スヘシ

第三十九條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ貯金ノ讓與又ハ相續ニ關スル請求書ヲ受ケタルトキハ正當相續人タルコトヲ認ムル爲メ其請求人ヲシテ市町村長又ハ區長ノ與書證明ヲ要シメ若クハ其他ノ證明ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第七款 貯金拂戻證書ノ亡失毀損汚害

第四十條 貯金拂戻證書毀損汚害シテ不判明トナリタルトキハ拂戻請求人ニ於テ貯金拂渡局ヲ經テ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ證書ヲ差出シ貯金拂渡認可證書ノ交付ヲ請求スヘシ

第四十一條 貯金拂戻證書亡失ノ爲メ貯金拂渡認可證書ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ拂戻請求人ニ於テ証人ヲ立テ其事實ヲ證明シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ但拂渡認可證書ヲ請求シタル後前ノ證書ヲ發見シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第五十條 第二項

下渡請求書ニハ其請求人ニ於テ公債證書ヲ受取ラント欲スル貯金取扱局ヲ指定スヘシ但郵便貯金預所ニ於テハ公債證書ノ渡方ヲ取扱ハス

第五十一條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ公債證書下渡請求書ヲ領收シタルトキハ請求人ノ指定シタル貯金取扱局ニ公債證書ヲ廻付シ且請求人ニ下渡證書ヲ送達スヘシ

請求人前項ノ下渡證書ヲ受ケタルトキハ其證書受領ノ部ニ記名調印シ前ニ受領シタル受取證書ト共ニ下渡局ニ差出シ之ト引換ヘ公債證書ヲ受領スヘシ

明治十九年六月ニ逓信省告示第六十四號ハ郵便局ノ貯金取扱ヲ停止シ又ハ貯金預所ヲ廢止シタルトキ其局所ニ於テ發行シタル貯金通帳檢閱請求ノ件同年十月逓信省告示第九十一號ハ同上ノ場合ニ於テ其局所ヨリ發シタル第五十四號領收證書通帳ニ轉記出願ノ件ナリ

○大藏省令第十八號

明治三十年法律第四十六號森林法第五十六條ニ依リ造林地ノ地租免除ヲ請ハントスル者ハ所轄稅



務管理局長ニ願出ツヘシ

明治三十一年十一月二十二日

大藏大臣伯爵松方正義

○農商務省令第十二號

明治二十七年農商務省令第五號營林主事補及森林監守特別任用規則中左ノ通改正追加ス

明治三十一年十一月二十二日

農商務大臣曾禰荒助

第二十條但書左ノ如ク改正

但二十年未滿ノ者及以前ニ營林主事補、森林監守奉職中第二十一條ノ誓約ニ背キ辭職シ二箇年ヲ經サルモノハ此限ニアラス

第二十條ノ次ヘ左ノ一條ヲ追加シ以下逐次繰下ク

第二十一條 營林主事補及森林監守ニ任用セントスルトキハ第三號書式ニ依リ誓約書ヲ提出セシム可シ

書式第二號ノ次ヘ追加

(第三號)

誓約文

今般營林主事補及森林監守志願仕候ニ付御採用相成候上ハ官更服務規律ヲ恪守スヘキハ勿論獨テノ法律命令ヲ遵守シ且奉職三箇年ニ滿タズレテ自己ノ故ヲ以テ職務卸免相願候様ノ儀決シテ仕間敷候依テ誓文如件

年月日

住所及籍身分

何之某印

〔參照〕

農商務省令第五號營林主事補及森林監守特別任用規則(明治二十七年二月十二日)抄録

第二十條 左ニ掲グル者ハ試験ヲ要セス營林主事補及森林監守ニ任用スルコトヲ得但二十年未滿ノ者ハ此限ニ在ラス

一 前ニ判任文官ヲ勤メタル者

二 陸軍滿期ノ下士及陸軍滿期ノ上等兵ニシテ下士連任證書ヲ有スル者

三 滿二年以上巡査又ハ看守ヲ勤メタル者

四 滿二年以上師範學校尋常中學校公立小學校ノ教員ヲ勤メタル者

五 林務ニ關スル各官廳ノ雇員トナリ滿二年以上勤メタル者

○司法省令第十八號

明治三十一年十一月二十八日

司法大臣清浦奎吾

宮崎地方裁判所管内宮崎區裁判所三財出張所ヲ宮崎郡都於郡村ニ移シ都於郡出張所ト改稱ス但當分ノ内元三財出張所廳舎ニ於テ其事務ヲ取扱フ







